

第2部

アンケート回答集

(大学昭和28年卒~35年卒、短大昭和26年卒~33年卒)

注意点

- ・殆どが自筆での回答でしたが、全回答を統一した型式に書き写しました
- ・氏名は、教員名ほか一部を除き、個人情報保護のためイニシャルで表しました
- ・紙面の都合上、回答記述のあった設問のみ残し、記述のない設問は割愛しました
- ・アンケートの回答以外に、別紙で思い出等を書いている方々が少なからずいましたが、その内容も出来る限り掲載しています
- ・回答集の順番は、大学の学科別、卒業年代順のあとに、短大の科別、卒業年度順となっています。大学・学部・学科(科)・専攻等は下記の省略形を用います。氏名は順不同。専攻の後のアルファベットのA B C Dは、クラスを表します
 - (1) 大学昭和28年卒~35年卒の省略形：東京家政大学家政学部生活科学科児童専攻、栄養専攻、被服専攻➡大学(生活児童)、大学(生活栄養)、大学(生活被服)
 - (2) 短大昭和26年卒の省略形：東京家政大学短期大学部家政科➡短大(家政科)
 - (3) 短大昭和27年卒~33年卒の省略形：東京家政大学短期大学部家政科児童・栄養専攻、被服専攻➡短大(児童・栄養)、短大(被服)なお、昭和30年短期大学部1年間コースの家庭科卒の省略形➡短大(家庭科)
- ・回答していただいた方のうち、事情により回答記述のほとんどなかった方、本への掲載を辞退された方は、本回答集には含まれておりません。また匿名で回答された方は掲載の可否について連絡がつかず、原則的に掲載されておりません



「青木先生の軽井沢別荘にて」

～ 上記写真、昭和27年短大卒（児童栄養）T. N様提供

昭和28年 大学卒業

卒業年	昭和28年：大学（生活児童）卒	
氏名	U. Kさん	
3. 本学を選んだ理由	師範学校時に青木先生の児童心理・青年心理の本を学ばせていただき、先生から直接教えをいただきたいと思ひまして選ばせて頂きました	
4. 入学のときの希望や夢	幼稚園経営を夢見ていました	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	大学3年（編入）の5月9日の母の日について
	②内容	先生のお母様のお話をまじえて、母への感謝と女性の進むべき道を教えていただきました
	③感銘を受けた点	母の日には先生のカーネーションの挿絵入りのはがきをいただき、郷里の母に感謝の気持ちを届けなさいと、皆さんに下さいました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	お静かな口調で、諭すような話し方でした。水曜講演の日は、早く登校し良い席を取ったことを思い出します	
8. その他の行事に関する思い出	①	大学4年のとき、当時先生の助手をしていらっしやいました古宮先生と、先生の軽井沢にある別荘に一泊し、皆さんで楽しいひとときを過ごしたことも思い出のひとつです
	②	卒業式の後、全員で校内の教室でコーヒーとケーキでお祝いしていただきました
	③	先生は女性がズボンをはくのがお嫌いだということを、噂に聞いていましたので一度もはいたことはありませんでした。又、大学の中で一人もいませんでした。今考えると、皆さん先生を尊敬していらしたのですね
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう いう点で感じ取りましたか	先生方は親切にわかりやすく講義をして下さるので、勉強は楽しかったです。新潟の高校採用試験にも合格できました	
10. 先生の「愛情」の 教えがどのように人生で生かされましたか	3つの生活信条が今でも心の拠り所となっています。高校の教師40年余りの中でいつも生徒指導の信条にしていました。家政大で学んだことに喜びと感謝の気持ちで一杯です	

1 1. 学生生活の思い出	楽しかったことしか思い出せません ・クラスの皆さん、気持ちよく接して下さったこと ・寮生活で上級生・下級生の方々が姉妹のように付き合っ て下さったこと
1 4. 大学・短大の学生 達に最も伝えたいこと、 最も望むこと	生活信条をしっかり受け止めて社会人として頑張っ て下さい
1 5. 先生にお会いでき るとしたらお伝えした いこと	先生がいらっしゃらなかったら家政大で学ぶことが できなかつたと思います。有りがとうございました

卒業年	昭和28年：大学（生活栄養）卒	
氏名	H. Sさん	
2. 当時の社会状況から、 大学・短大への入学、 特に上京しての入学で たいへんだったこと	宮崎から夜行列車で2泊して東京についていたのが大へん でした。まだ食糧のないときで米持参。叔母宅でしたので食 べることは困りませんでした	
3. 本学を選んだ理由	旧制女学校から新制高校に変わる時で、日本女子大卒の家庭 科の先生に児童心理・心理学が学びたい旨相談しました折、 青木先生、山下先生と心理の大家がいらっしゃる東京家政 大学のみおすすめでした。そこで本学を選んだのです	
4. 入学のときの希望や夢	日本一といわれる先生について学べる幸せを感じました	
5. 入学式の青木学長訓 示の内容	自らの生活設計をしっかり考え、常に反省と進歩を考え身 につけること、そして自身の生活を大切にすること	
6. 一番印象に残ってい る感銘を受けた水曜講 演	①何年生の頃 何月頃	3年の折、真の美しさとは何か
	②内容	美しさの第一歩は清潔感であると説かれ、生涯 を通して考えました
	③感銘を受け た点	清潔感から簡素な美も生まれ、心の美しさもか もし出されること。感銘を受け生涯、実行して 参りました

7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態 度等	学内で青木学長にお会いした折、1年当時会釈しましたら、すかさず宮崎の〇〇さんですね、と声をかけられびっくりしました。一学生の名前、県名まで。心から嬉しく頑張らなければと心に誓いました
8. その他の行事に関す る思い出	① 先生自らおかき下さった葉書のカーネーション。遠く離れている母に心の想いと感激をこめて送ったこと。涙が出る位嬉しうございました ② 学内をゆったりと歩いておられたお姿、今でも忘れることはありません。先生のお姿をみられるのが幸せでした ③ 1回生をまわりにすわられ、一言ひとこと、言葉をかけて下さるのもとても嬉しうございました。愛情を一杯いただきました。永い教職中、一貫して先生から受けた数々の心を貫いて参りました。感謝いたしております
9. 先生の愛情溢れる学 園づくりをどういう点 で感じ取りましたか	先生の、ひとを愛せよ、愛する喜びを知れ、愛される喜びを忘れるな。先ず人を愛することを教職についても一貫して通して参りました
10. 先生の「愛情」の 教えがどのように人生 で生かされましたか	教職にあり、学生一人々を大切に考え、接して参りました
11. 学生生活の思い出	一年時、全員で山下俊郎先生を先頭に箱根宿泊後、翌日、箱根峠から熱海（同級生のYさん宅）まで歩いたとき、歩いても歩いても熱海に着かず苦しかったことを思い出します
12. 他の先生の思い出	常吉教授の栄養学実験の丁寧なご指導を今でも思い出し、時々在学中の記録をみることもあり
13. これからの大学・ 短大に期待すること	在学中にしっかり教育されたことを誇りとして社会で大いに活躍してほしい
14. 大学・短大の学生 達に最も伝えたいこと、 最も望むこと	青木先生の美しい心を持ち続けてほしい
15. 先生にお会いでき るとしたらお伝えした いこと	水曜講演で一言ひとことていねいに指導をいただきましたこと、一生心の糧として生きていることをお伝えしお礼を申し上げたい

卒業年	昭和28年：大学（生活栄養）卒	
氏名	（無記名）	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	今の学生のように、アルバイトなどやれぬ時代で、親に学費、生活費など送ってもらったこと。教室も昔のまま、夏暑く、冬足元から寒かった。床はコンクリート	
3. 本学を選んだ理由	通学に便利なこと。戦後間もなくの時代で民主主義に向かい女性の自力、向上に積極的に取り組んでいた点	
4. 入学のときの希望や夢	これから生きていく上での幅広い視点に立って色々勉強していきたい。立派な大人になるための勉強	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	立派な大人になると云う事は自分自身で全て責任をもつ事が出来ること	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①内容	特に女性において美人と云うのは見た上の容姿を云う事が多いが、本当の美しい人と云うのは心の美しい人の事を云う
	②印象に残っていること	俳優の鈴木瑞穂さんに一寸似ていた様な感じの先生。もう少し丸型でふっくらと目元が優しい顔が印象に残ります
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	いつもにこにこ笑顔が絶えなく、親しみやすい（家族）父親の様な包容力に満ち溢れた方	
8. その他の行事に関する思い出	常にお忙しい方で、学長室にいらっしゃる時間よりも何らかの形で学園内にいらっしゃる時は、色々の所で必ずどこかでお目にかかる機会が多かった。そして両手を後ろに廻すかっこうでゆっくり学園内を歩いていたり、すれ違う学生達とにこにこ楽しそうにお話をされている姿が思い浮かびます	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	学園祭の時など、先生のお話を聞きに大勢の方々が見えられ、とても喜んで楽しみにされていた様です	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	私の卒業以来、今迄子供2人、孫5人に恵まれ、又この年になっても健康で多くの人に恵まれ愛情一杯の人生を送って来られ感謝しています	
11. 学生生活の思い出	・楽しく、嬉しかった事は沢山ありましたが、青木先生の軽井沢星の温泉にある別荘にクラスの人達全員（数人は都合でいきませんでした）が招待され一泊させていただき、皆で先生のお宅を占領し、料理したりコーラスしたり、花火、星の観	

1 1. 学生生活の思い出	<p>察したり、一晚御一緒させて頂いた事。本当に楽しい思い出として残っています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社交ダンスの先生を、学外からおよびしてダンスのレッスン楽しかったです ・ 青木先生と同時期に有名な児童心理学者の山下達郎先生がいらっしゃり色々お話何う事も楽しい思い出です
1 2. 他の先生の思い出	<p>担任は年配の常吉先生でした。とても温厚の静かな感じの方でした。時々おもしろい話もきかせて下さいました。女の先生の方が男の先生よりこわかったです</p>
1 3. これからの大学・短大に期待すること	<p>私共の時代と異なり、今は色々なものがありますが、折角の勉強の時間なのに他の方に目が向けやすい、もったいないと思う。先にいって後悔しない様に努力してほしい</p>
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	<p>アルバイト、ゲーム、コンパなどに夢中。勉強に励むこと。時代は変わっても人生生き続ける気持ちは変わるものではありません。先生の常に求められた愛情・聡明・勤勉をかみしめ努力してほしい</p>
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	<p>純白の若い時代に教えを受けた先生の教えをかみしめながら、自らの年を重ね幸せな人生を歩んで来られた事、万感の思いをお伝えしたいと思います</p>
<p>別紙：</p> <p>久方振りに私の青春時代の記憶をよみがえらせていただきましたが、半世紀も前の事。私の記憶も大変おそまつとなってしまうと申しわけございません。でもおかげ様で大好きだった学長 青木先生の素敵な思い出に触れる事ができ、感謝申し上げます。つたない回答?となってしまうましたが、研究のお役に少しでも貢献出来ましたら幸せに存じます。</p>	

卒業年	昭和28年：大学（生活被服）卒 (22年4月～25年3月東京女専在学、26年4月～28年3月東京家政大学編入して在学)	
氏名	N. Yさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	社会に出て働き出している友の多い中、遊学させてもらっている事は大変有難い、当時は生涯学習という考えは一般的でなく、大学に行く年令があると考えていたので、今多くの事を学んで社会に尽くしたい、という意気込みであった	
3. 本学を選んだ理由	技術を学び、手に職をつけるという考えで伝統のある“渡辺”を選んだ。教職の免許・資格を得る事も自立（女性の）として考えられる最良の道であった	
4. 入学のときの希望や夢	学寮に入って、全国から集った友人から故郷の話を聞くのが楽しかった。“郷土服の研究”に発展していくきっかけとなりました	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	私は編入生ですから、入学式には出ていません。一期生として在学中常に大変期待されている事が伝わってきましたので、入学式でもきっと訓示されたのでしょ	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	① 何年生の頃 何月頃	3年生の昭和26年6月5日夏休みの前です
	② 内容	“時間の使い方”「アルバイトをして、働きながら学んではいけない。経済的にアルバイトが必要なら、1年休学して働き、貯え、翌年復学して集中して学問するように」
	③ 感銘を受けた点	時間を大切にして、人生設計をきちんと計画し、目標に向かって大成するよ
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	一言一言をゆっくり、静かに、ふくめるように話されました。表情はやさしい慈愛に満ちた目で学生とご自分のノートを半々に見ていらっ	
8. その他の行事に関する思い出	① 学生祭 大学3年生の時、私はリーダーとなって手作りのバザー販売品を量産して頑張った。学生祭のフィナーレはキャンプファイアでしたが、「〇〇は会計報告のまとめの為、遅れます！」と連絡すると青木学長から「今、出来ているところまでにして、すぐ来なさい！」との事。涙が出そうな気持ちで参加した。やっぱり楽しかった。本当に参加してよかった	

8. その他の行事に関する思い出	<p>② クリスマス 私達、被服科の学生有志が赤いネルの生地を用意して、青木学長の寸法を計らせていただいて、サンタクロースの衣裳作り。青木学長が着て下さった時の喜び。とてもとてもお似合いました</p> <p>③ 卒業式 昭和28年3月は一期生の卒業式でした。卒業する学生はスーツ（黒か紺）を着ること、着物と袴はいけないということでした。被服科は手作りのスーツでした。宮下孝雄被服科長、山下俊郎児童科長、常吉勝栄栄養科長が各科の先頭に立たれて教室から卒業式場までパレード。その後に短大も続きました。青木誠四郎学長は一番先頭でした。ガウンに角帽姿でした。祝いのお言葉をいただき一人一人に卒業証書を手渡して下さいました</p>	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	<p>学内でお逢いすると、にこやかにお声をかけて下さいました。友人と二人で並んで歩いていると二人の歩行リズムがよいとほめて下さいました。クラブ活動で帰宅が遅くなった時、青木誠四郎学長と高橋敬三学生部長とご一緒に板橋のおそば屋さんへ「おそばは噛まないでスルスルと喉越しよくいただくのがいいんだよ」と教えて下さいました。お二人の先生は信州のお育ちでした</p>	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	<p>私は大学を卒業して、T女子短期大学（卒業生が創立した大学）へ奉職しました。夏休みに私が帰京する時、学生が10名位東京を見学したいという事で連れて上京しました。東京家政大学の学寮に泊めていただき、東京大学、議事堂、上野の国立博物館など見学の案内をして、学生に喜んでもらえました</p>	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	青木先生にサンタクロースの衣裳を友人と手作りして着ていただき、クリスマス会ができた事
	②嬉しかったこと	卒業論文は図書館に納められ、卒業式では卒業証書を青木学長から一人一人に手渡され、幸せでした
	③つらかったこと	正門が現在の位置に開かれた時、「土台に嵌めて飾るので郷土の石を持参するように」と青木学長のアイデアでしたが、集まった石が少なくて間隔をとって入れて下さった事。もっと沢山、石が集められなかったか、と
12. 他の先生の思い出	<p>児童心理学の山下俊郎先生は青木先生の後輩で、青木先生が学長をされている良い大学だからと教授・児童学科長もされた。</p>	

1 2. 他の先生の思い出	私は被服科でも児童関係・栄養関係の有名な教授の授業を受け、教員免許状では「家庭」と「保健」の二教科が授与されました
1 3. これからの大学・短大に期待すること	今は立派な校舎で幸せですが、当時は物が不足していました。しかし不幸だと思った事はありません。そこには工夫がありました。又協力の精神、ボランティア活動も多かったです。この精神活動を期待したいです
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	長期・短期の目標をたて、そのためにはどのような学生生活を過ごしたらよいか考える。「友達は宝」です。よい友達になるようにお互いに成長しましょう。1 + 1 = 2ではなく、3にも4にもなり、一生涯励まし合って育成されます
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	学部4年生の時、高橋敬三教授から「大学に残って教授になるように頑張してほしい」といわれました。青木誠四郎先生のお言葉と思って伺い、一生懸命努力して参りました。一期生として恥じないようにと心掛け、定年退職いたしました。これからも体の続く限り頑張ります
<p>別紙：</p> <p>この度はよいご計画をなされまして、アンケートに答えるようにとお送りいただき感謝申し上げます。こういう形でまとめられますと、きっとよい結果が得られますことでしょうかと、楽しみにしております。昨年も「愛情・勤勉・聡明」の生活信条など青木誠四郎学長につきまして関根先生のご専門の立場から熱い思いでおまとめになられました論文を有難く読ませていただきました。重ねて御礼申し上げます・・・多勢の方からのアンケートのおまとめは大変なお仕事になると存じますが、結果を期待しております。</p>	

卒業年	昭和28年：大学（生活被服）卒
氏名	Y. Mさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	食生活はもちろん被服の材料が手に入らず和紙で勉強をしたことを思い出します
3. 本学を選んだ理由	家庭科に関しては昔から有名であったため
4. 入学のときの希望や夢	衣生活の向上
5. 入学式の青木学長訓示の内容	同じ道を選んだ者同志、日本の婦人の向上をめざし勉強してほしい

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	理性と感情の一致。何時も前向きで努力してほしい
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	何時も笑顔でおだやかな親しみ易い先生でした
8. その他の行事に関する思い出	母への感謝。女性の向上
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	40数年教職につき、家庭より職場や生徒に愛情をそそいできたこと。現在、80才になっても、年賀状は300通以上、とても嬉しいです
11. 学生生活の思い出	現在の様な行事はあまりなく、地味な学生生活でしたが、毎日が充実しておりました
12. 他の先生の思い出	誠実で親切な先生方ばかりで、苦しかった覚えは見つかりません
13. これからの大学・短大に期待すること	古い歴史のある家政大学の伝統を時代が変わっても持ち続けてほしい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	青木先生、有難うございます。感謝の気持ちで一杯です

卒業年	昭和28年：大学（生活被服）卒
氏名	Y. Kさん (写真9枚寄贈)
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	戦中、戦後を知る私は、次第に復活、新しい時代に燃える東京（家政大）の生活は将来の希望でいっぱいでした
3. 本学を選んだ理由	祖母は明治37年本科卒、母は昭和2年専門卒。私、3代目として幼少時より東京女専とっていました。娘は学部卒
4. 入学のときの希望や夢	「愛情・勤勉・聡明」の生活信条を心に、新時代の教育の充実を図り、高等学校教諭教育に専念したいと思いました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	関根先生のお手紙を戴き、ハットなつかしく青木学長様のおやさしく、学生一人一人を大切に思ってお下さる水曜講演を思い出しました

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	専門の学生と一緒にうけました。2年生からと思います
	②内容 ③感銘を受けた点	61年の歳月がたちましたが、新制大学として水準の高い学業、技術に原点をみつめると共に、人として和の心を教えて下さいました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	写真のお顔のように、おやさしいお言葉でお話し下さいました	
8. その他の行事に関する思い出	<p>① 昭和27年5月、学部4年。浅間山の煙も美しい中軽井沢の青木学長様の別荘で、宿泊研修をさせて戴きました。小諸、軽井沢等、自転車で満悦し、木の香りも高い浴槽に滾々と溢れる温泉で瞑想に耽る、夢の様な研修会でした</p> <p>② 昭和27年7月10日、被服学科4年生で楽しいお話会となりました</p>	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	今現在は名誉保護司ですが、T県更生保護女性連盟4千名の会長として犯罪・非行防止活動、子育て支援活動、保護観察対象者を温かい愛情で見守り、再犯防止の就労支援等、会員や地域の人々と共に、青木学長様の教えを胸に活動を続けております。御蔭を持ちまして平成18年11月3日、藍綬褒章をいただきました。これも一重に東京家政大学の生活信条の教えのお蔭と深く感謝致しております	
12. 他の先生の思い出	当時、被服学部3名です。2年の折、東京女専卒の日本橋三越主任服飾デザイナー・島村フサノ教授の日暮里にあるカトリック研究所へ木曾山かね教授引率、新時代の洋裁技術（ドレイピング）を教わり、見事なドレスが完成しました。学園祭に展示されました	
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	青木学長の「愛情」の教えをもとに「自分にきびしく、人に寛大に」の心を持っていただきたいと思います	
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	お蔭様で東京家政大学一期生としての教えを戴き、今なお、幸せな人世を送っています。ありがとうございます	
<p>別紙：私信一通、9枚の写真コピー（講義の貴重な大型写真を含む）、4通（4年間）のクリスマスカードのコピーを同封</p> <p>「今度青木学長様の生活信条について書類を戴き、学生時代を思い出しなつかしさ一ぱいでした。つたないお答えとなりましたがお送り致します。当時の写真は緑窓会60周年記念として緑窓会に送っております（クリスマスカードも共に）」</p>		



「学生祭 洋裁の部展示」 (昭和26年11月3日)



「学生祭 和裁の部展示」 (昭和26年11月3日)

～ 上記写真、昭和28年大学卒（生活被服）Y. K様提供

昭和29年 大学卒業

卒業年	昭和29年：大学（生活児童）卒	
氏名	F. Eさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	上京、入学に関しては専門学校時の後輩が先輩役でしたので苦労はなかったのですが、授業取得に専門学校3年で大学1年に換算、従って2年間で3年の単位取得の予定をたてるのに苦労しました	
3. 本学を選んだ理由 4. 入学のときの希望や夢	終戦後、修学旅行で孤児院の見学をした時、何の罪もない純粋な子供が親を亡くし孤児院の生活をしているのを見、どんな環境にあっても心豊かな子供に育ててほしいと思った時、その一助にでもと常に頭にあったところ、あこがれの青木誠四郎先生、山下俊郎先生がいらしたので私の目的が果たせる場と、編入学させていただきました	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	編入学でしたので入学式は受けていません	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	① 内容 ② 感銘を受けた点	水曜講演自体どこにでもあるものでなく、心の教えを学んでいる気分で、生きる上の参考に楽しみに聞きました。いつの時も満席だったことは覚えています
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	ふと大きくいふくよかな笑みを含めたような暖かいお顔で、大先生にもかかわらず、大先生のかたいお話でなく、親しみ深く一人々に語り下さるような場でした。聞いている者の心暖かく、広くお話し聞けてよかったとの満足感で次の授業に臨んだものでした。広い木立を語り合い乍ら自然を美しくかみしめ乍らの移動（次の授業へ）でした	
8. その他の行事に関する思い出	① 新憲法に基づいた法律の授業の時、学部では一斉教育でなく巾広く語り学ぶことが必要と、学長室の大きな丸テーブルで法律の先生を囲み楽しく学ばせていただいたこと、学長ならではの配慮と今も残る感激的な思い出です ② クリスマスには毎年手描きのお花の絵入りに愛あふれるお言葉入りのお葉書をいただいていた。愛情こもった恩恵の一つです ③ 学校行事の一つとして五月の連休に一週間、名称忘れましたが自然の中で学友と共に遊び学ぶ期間で、学長の軽井沢別荘を提供して下さり、他では味わえぬ体験をさせていただき、	

8. その他の行事に関する思い出	別荘を根じろに共同生活、自然と戯れたことも、愛情こもる学習以上の体験でした
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	先生から受ける印象。先生自体の中に上記の心（注：アンケート用紙の設問9に書かれている内容）がみなぎっているので、接しただけで暖かい愛情を感じとれ、無限にお人格（ひとがら）の得るところ大でした

卒業年	昭和29年：大学（生活被服）卒	
氏名	H. Kさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	都立の高校でしたが、大学進学は1名、短大1名、あとは全員就職という状況の中で経済的にも余裕のない家庭から大学進学できた幸いを覚えています	
3. 本学を選んだ理由	子どもの頃から先生になりたいという夢を持っていましたし、高校の1年先輩が家政大にいていたので迷わず選びました	
4. 入学のときの希望や夢	学校の先生になりたい。生徒にわかりやすく教えられる力をつけたい	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	3年生の頃だった
	②内容	人を愛すること、とくに友情について
	③感銘を受けた点	卒業後現在に至る50数年、クラスの人との交流がつづいているのはやはり先生の教えのたまものだと思います
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	堂々としていて、そしてにこやかに笑みをたやさず、お目にかかるとう心に暖かい風を感じました	
8. その他の行事に関する思い出	① 私共の学年は被服、児童、栄養学科合わせても10数名の少人数だったため、いつも一緒に行動していました。学長先生の軽井沢の別荘にもおじゃまして寝食を共にし、時にはいたずらをして先生をこまらせたりしました	
	② 80年近く生きてきてたくさんの人との出会いがありますが、目をとじてほのぼのとしたやさしい笑顔が浮かんでくる数少ない方の中に青木学長のお姿があります	

9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	少人数だった利点かもしれませんが、まさに寺小屋もどきで、授業はダルマストーブを囲んで教授と膝つき合わせの授業は考えられぬ位のぜいたくでした
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	教師としても、母親としても妻としても決して立派なものではない自覚はありますが、自分に与えられた立場で精いっぱい生きて来ました。その根本は先生の教えて下さった「愛情」があったからだと思います
11. 学生生活の思い出	忘れられないこと： 板橋の校舎の校門を作る時、学長先生が在校生に「夏休みが終わり学校に戻ってくる時、故郷の石を一つ持ってくるように」という課題が出されました。校門の壁に生徒の故郷の石をうめこんで下さるというすばらしいお考えのもとでしたが、先生のお考えが充分伝わらず、集まった石がいがいに少なく、がっかりなされていた先生のお姿が忘れられません
13. これからの大学・短大に期待すること	どんなに大学が大きく社会的にも有名になっても、他の大学にはない暖かい絆でみんなが結ばれているという特色があることを忘れないでいたい
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	人が人らしく生きるためには「愛情・勤勉・聡明」が一番大切です
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	ひとを愛することを教えていただき、現在の心のやすらぎを得ることが出来、人生一番のプレゼントです

卒業年	昭和29年：大学（生活被服）卒
氏名	Y. Yさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	学費の件で親に苦勞をかけた事を後で知りましたが、当時はみんなが大変な時でしたので、空襲で焼け出され、何も持っていなくても教材不足も友人に助けて頂きました。我慢が出来ました
3. 本学を選んだ理由	他の大学に入学し望む所でなかったところ、その教授が紹介して下さい、友人と二人後期、編入試験で入学。希望を叶えられた事。生涯の道もおもい通りになりました
4. 入学のときの希望や夢	入学前、中学校の助教諭を1年勤めて資格の必要を感じ上京、卒業後の事は考えていませんでしたが、おかげ様で大学に勤めることが出来ました事、望外の幸せを得ました

5. 入学式の青木学長訓示の内容	1年生の後期に他の大学から転入の為、伺うことが出来ませんでした
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	兵舎を利用した教室から次第に整備された講堂が出来、校門と「愛情・勤勉・聡明」の石碑が出来ました時、先生は一段とお目を輝かせ、お声も大きく温かく諭すようにお話をされました。他の細かい事は忘れましたが、その時の聡明の一言が強く耳に残って居ります。その時の先生のまなざしにみとれていました事は多分故郷の父の姿と重ね合わせていたと思います
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	最高におやさしいお心が学生を良く身近に見ていらしたと思え、学長という肩書を全く意識させないことで、今思えば失礼な態度のわが身を恥じて居ります
8. その他の行事に関する思い出	<p>① 思い出しますと涙が出そうですが、先生の助手の方のお手配で先生の軽井沢の別荘に泊めて頂きました事、誠に稀有な事で被服専攻5名のクラス皆大喜びの旅でした。列車の中で学長先生は居ねむりをされた所をカメラで写されて沽券にかかわるとちらっと御不満そうでしたが、その夜先生のベッドにコンニャクを忍ばせるというイタズラをしましたがおとがめ無しでした</p> <p>② 卒業式のあとで学長主催の紅茶パーティーに招待されて、生まれて初めて立食のパーティーを体験し、それがお別れとなり、本当に胸の熱くなる愛を感じ又母校の恩愛を持ち続けます事となりました。思い出深い先生との一刻です</p>
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	終戦後の池袋のガード下にまだ浮浪者が座り住み、食べる物も不足な時代に無事学生時代を過ごさせて頂いて、当時は学長先生の教育理念を理解するまでにはいきませんでした。私の体に知らず知らずの内に浸透したものと思ひ到りまして、80才を目前に改めて感謝申し上げます。当時の諸先生の面ざしを思い浮かべましてその温かいお心の程、一生の宝と思ひ居ります
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	青木学長先生のお志は学園全体に何かにつけて深く学生に浸透し、昭和29年卒業後、A 短期大学に家政科増設、家政大の前身東京女専時代の燃料学の守屋先生が科長となりましたことにともない、被服の石田先生とY (=本人、当時の名前S) が赴任致しました。不備の多い新設校を三木先生、宮下先生、青木みん先生と多くの先生を講義の為お迎えし、後々も多くの先生を母校よりお願い出来ました事は家政大の深い御理解と温かいお志を賜りましたものと、感謝いたします

1 1. 学生生活の思い出	①嬉しかったこと	被服の実技で出来そうもない、と泣く思いで仕上げた和服と帯が仕上がって松井先生に良く頑張ったとお声をかけて頂いた時でした
	②緊張したこと	クラス5名のうちバイトや所用で一人で先生の講義を受けた時、1対1でストーブの前でノートを取らなければならなかった時。あとでノートを見せる責任もありますので・・
	③つらかったこと	洋裁でスタンドボディを自分の大きさに仕上げるのに特大タイプの自分の大きさに詰め物をするのに、詰めても詰めても出来上がらなかった時。現在そのボディは詰め物を抜いてまだ手元にあり、58年になります
1 2. 他の先生の思い出	家政大の三木先生のお講義「家庭とは労働力の再生産の場である」。このフレーズが理解出来たのは職を引いて主婦になってからでした。自分なりに模索し続けた忘れられない一言でした	
1 3. これからの大学・短大に期待すること	昔は専攻が被服と児童栄養のみでしたが、文学が加わり、更に細分化され多くの専門分野が増え驚きましたが、それだけ要求される社会に対応出来る大学で学べる方達は幸せですね	
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	自由で多感な時、思い切り新しい知識を求めて技術や資格を取りながら広く考えと思いを深める事で一生の道を見極めて頂きたいと、恩愛ある校風を受け止めて下さい	
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	先生の温かいお手に握手させて頂いて御礼の言葉を申し上げたく存じます	
<p>別紙：</p> <p>一月に緑窓会よりのご依頼の一文を送付し肩の荷をおろしました思いで居りました所、この度のお申し越し、それも青木学長先生の御偉業、学生学園、教育界への理念、定言、お志などの追跡御研究なさいます上でのリサーチかと存じますが、当方八十才を目前にしました大学二期生。記憶もおぼつかない有様でお役にたつとも思えませんが、ここ三日ばかり次から次へと当時の出来事、先生の面ざしなどを思い出す仕儀と相成り、糸をたぐり寄せる様に映像まで現れますような時を頂く結果となりまして楽しく、同級生などと連絡を取り合いました。実は二期生被服専攻は五名でしたが、お二人が他界なさいまして三名のみの同級生ですが、親友として度々電話し合って居ります。今回も書き始めますとあふれる熱い程の思いだけが先行しましてペンが滑りましたり止まりましたり、お届けするには恥ずかしい書き様でご判読頂くのも申しわけないものとなりました。只青木学長先生に直接教えを受けなかった後輩の集まりに私もお邪魔する機会が有りますが、家政大で学び育てられた気風が皆様に幸せと感謝をもたらしたことが感じられます、と申し添えまして今回の御返事とさせて頂きます・・・ちなみに中里先生が一年先輩、赤池先生が同級でございます。</p>		

昭和30年 大学卒業

卒業年	昭和30年：大学（生活栄養）卒
氏名	K. Aさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ズボン禁止で冬期はストッキングで寒さがきつく、オーバー着用で授業を受けたこと ・田舎育ち故、昼食のパン、ジャム、マーガリンは「おやつ」の感覚で寂しかった思いがありました ・入浴が上・下の寮、部屋交替でしたので時間の制限もあり、浴槽は入れれば身動きの出来ない程。洗い場もせまく必死の思いでしたが、楽しい思い出です
3. 本学を選んだ理由	学長先生は高い存在でとても近づける存在ではありませんでしたが、母校（U高校）に講演に来られ、内容は忘れましたが感激で一杯だったこと（女性と学問についての様なお話だった気がします？）
4. 入学のときの希望や夢	多くの友達を作る。御陰で現在も手紙、TELで当時の懐かしい話をしており幸いです
6. 一番印象に残っている感銘受けた水曜講演	いつも後の方に居る生徒も水曜講演の朝は早めに登校し、前の方の席をとりました。楽しみの水曜でした。「若い女性（ひと）」持っています。私にとって大切な一冊です
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	優しい目、笑顔が暖かく一言ひとこと、かみ砕く様にわかりやすくお話して下さいました。真綿の様な暖かく包んで下さる大好きな先生でした
8. その他の行事に関する思い出	<p>① 1年の母の日を前に一人一人にカーネーションのハガキを頂きびっくり。母へ書いた便りの最初でした</p> <p>② 紺地に白い字で染め抜いた花瓶敷？ 何日頂いたか忘れましたが（涙を流してパンを食べなかった人。思いなやむ・・・1953年3月誠）とあり、大切に持っています</p> <p>③ 卒業した年の夏、松本、浅間温泉で県人会があり、その席で「松本の豆腐は美味しんだヨ」とおっしゃってニコニコして召し上がっておられたお姿忘れません</p> <p>④ 県人会で先生の13回忌に村上先生が御出席され、皆でお墓参りをすることが出来、その後も御命日の9日は松本の喫茶店に誰とはなしに集まっては先生のことを懐かしく又嬉しく誇らしく語り合う忘れられない場所（翁堂）があります</p>

8. その他の行事に関する思い出	⑤ 寮の食堂で歓迎会か、お別れ会かの会食の折、静岡県出身者が最も多いが、長野県には他にはない県歌「信濃の国」があると云うので県人なら誰でも知っていると言っていました
	⑥ 1年生の夏休みに入る折だったと思いますが、校門の門柱の土台に故郷の石を埋め込むので持参する様おっしゃられて、その後実現。卒業式当日は皆その前で写真を撮りましたが、新校舎が次々と建ち、現在ないのが残念に思います
<p>別紙：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内を三木先生、古宮助手さんと談笑しながら歩いておられた姿忘れません。時には奥様も御一緒のこともありました。 ・三木先生の指導のもと第一回の農村実習（群馬県内）は現在のホームステイとでも云うのでしょうか。不安と期待と複雑な思いでの一週間（長く感じましたが）でしたが懐かしい思い出となりました。 ・現在は小学校から卒業証書を1人1人頂いておりますが、半世紀も前に学長先生から直接頂いたあの日（3月10日）感激忘れません。 ・長い休みに入る前校内の大掃除を全員で実施し、1つのバケツを2人で持って運ぶ他の科の生徒の後に友人と2人でゴミ一杯のバケツを持ち、片手に枯木の大きな枝を持って運んでいた私共の姿を見られ先生は効率、無駄について一言優しい言葉をかけて下さいました。嬉しかったです。 ・体調を崩しマイナス思考になった時は寮（大部屋の生活時代）での当時の生活を思い起こし、前向きに。そして木立の校内での楽しかった事を思い出しております。 	

卒業年	昭和30年：大学（生活栄養）卒
氏名	I. Sさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	交通機関（鉄道）
3. 本学を選んだ理由	知人に旧女専卒の方の影響
4. 入学のときの希望や夢	高校教員
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	やわらかな口調ではあったが、教えの中にきびしさもあった様に思っています

8. その他の行事に関する思い出	キャンプファイヤーの輪の中に入って御一緒に歌ったこと
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	病院勤務の折は暖かみのある心くばりの治療食を実施してきたことを思います
11. 学生生活の思い出	地方出身の方々と御友達になったこと（今でも、一部の方と交流がある）。施設・設備は十分ではありませんでしたが、色々な意味で四年間過ごした寮生活です。最後の一年間は新寮でした
12. 他の先生の思い出	大島はま子先生の中華菜です。御主人が北京大使館の勤務で、大使館にいた女の中国人に料理を習った時のお話
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	学園の導きである「愛情・勤勉・聡明」を卒業後将来も生活の信条として歩んでいただきたいと思います
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	良い学生時代を過ごした感謝の言葉

卒業年	昭和30年：大学（生活栄養）卒
氏名	I. Tさん (葉書一通寄贈)
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	帰省の時の汽車が混んで座席に座れず、盛岡から上野まで11時間もかかったこと
3. 本学を選んだ理由	高校の担任の先生が自分は和洋女子大出身なのに、家政大にはいい先生がいらっしゃるからと進められました
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	真の美しさ、母の日について
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	やさしい声で悟すようなやさしい笑顔で話されたように思います
8. その他の行事に関する思い出	① 母の日のカーネーションのカードを頂き、最近まで大切に持っていたつもりでしたが、探しても見つかりません。卒業後に頂いたハガキがありましたのでお送り致します

<p>8. その他の行事に関する思い出</p>	<p>② 学生祭などの行事の時、あいさつに必ず原稿をもつてのあいさつでした</p> <p>③ 卒業の時、学長室に挨拶に行ったら“これからどうする”と聞かれ、“岩手に帰ります”と云ったら、“岩手出身ということは分かっているよ”と云われびっくりしました。そんなことまでお話ししたことがなかったのに</p>
<p>10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか</p>	<p>卒業一年後に、新聞で先生が亡くなられたことを知り、涙が出ました。学生時代 水曜講演をもっとしっかりお聞きしておけばよかったと思いました。15年後に長野に行き、先生の“若い女性”という本があることを知り、長野県の教育委員に行き買って帰り読みました。このアンケートを頂き、本をさがしたらありましたので、又先生を思い出しながら読みたいと思っております</p>
<p>11. 学生生活の思い出</p>	<p>組でも寮でもみんな仲よしで楽しかったです</p>
<p>15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと</p>	<p>先生にお会いできて、幸せでした。ありがとうございます</p>



～ 青木先生の手描きのハガキ ～

～上記ハガキ、昭和30年大学卒（生活栄養）I. T様提供

卒業年	昭和30年：大学（生活被服）卒	
氏名	K. Rさん（写真4枚寄贈、東京家政大学学報・新聞8部）	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	自分一人が大変だったのでない。特になし	
3. 本学を選んだ理由	愛媛県内で尊敬出来る卒業生がいらっしゃいました。教わりたいと思う立派な教授が揃っていました	
4. 入学のときの希望や夢	自立	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	両親に感謝する事。学問の出来るよろこびを知り自分をしっかりと地道に磨くこと	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	大学2年生母の日。母を亡くしている学生に白のカーネーションカードを渡されたこと
	②内容	白のカーネーションのカードをもらいに行った学生（1人1人）に言葉をかけていらっしゃり、内容はしっかり覚えてないのですが、思いやりの心を教えられた様に思います
	③感銘を受けた点	いただいたカード母に贈りました。明治生まれの母が大変感銘を受け、学長先生を尊敬申し上げていました。カードと共に母に感謝をこめた手紙を同封し、裏切ることなき様心しました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	少し低音でゆっくりと聞きとれやすいお声で学生の全員に目をむけ、しっかりとした眼差しでした	
8. その他の行事に関する思い出	① 学園祭の後片付け後のキャンプファイヤー	
	② クリスマスの行事等々。学園の中を歩いていらっしゃる時は象さんの様でした	
	③ 水曜講演にしても、様々な行事にしても一つの大きな家族関係の中で教育された様に思います（学部40名でした）	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	清潔な身なり、ズボンの着用は許可をもらう事。女性としての身づくろいで講義を受ける。礼儀正しく学園を歩いても対面して来る人には道をあけていました。在学生は新生がホームシックにかからない様お世話をしていました	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	生活の中でルールを守ることも愛情。情操教育も愛情につながると思い子供を育てる時心がけ、ゆがめない愛情と共に自立する様願ったものでした	

1 1. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	寮生活の様々なこと
	②悲しかったこと	悲しかったことの記憶がないのです
	③つらかったこと	和裁の「おなおし」(1mm、2mm のきせのおなおし) 今ではこの「おなおし」でがんばりの底力があります
1 2. 他の先生の思い出	立派な教授が沢山いらっしゃる思い出は沢山あります。宇留野先生の講義で赤ちゃんには母乳が大切です、オッパイをのませなさいと赤ちゃんが泣いてもオッパイと云った様にオッパイ、オッパイと云われ、学生は何となくはずかしい気持ちでした。その後先生にお目にかかった折、今はミルクだよと云われました。いつもニコニコとしたお顔の講義でした。まだまだ他の教授のお話は沢山あります	
1 3. これからの大学・短大に期待すること	人格者で世界にはじないレベルの高い教授がいて下さる事を願っています	
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	立派な教授の講義をきちんと受けとめられる学生であってほしい。わからない事は素直に聞き生涯勉強する基礎を学んでほしい	
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	感謝の気持ちをお伝えしたいです。私は77才になっています。「愛情、勤勉、聡明」を折々につぶやきながら生きて参りましたが、まだまだ修練中です。頑張ります	
<p>別紙：</p> <p>昭和26年入学当時、大学に昇格になったばかりの学園は教授の給料も少なく助手は世間の給料の2分の1でしたが、学園の中は明るかったです。教授連は立派な方々、尊敬出来る先生が多かったです。今振り返ってみますと、もっとしっかり勉強を続けていたらと友達と話します。色彩学の宮下孝雄先生は商業デザイン(タバコの箱バット、会社の商標)等でお子様も大勢でしたので生活を支えていらっしゃる様伺いました。まだまだいろいろな事が思い出されます。寮生活(火薬庫を寮にした建物)。寮の前に土手があり春には土筆が出ました。学長先生は通りがかった学生を呼び止め土筆摘みをしました。寮生の様子を折にふれ見に来て下さいました。当時の寮生は自治寮にしたいと、舎監、大学に働きかけ自治寮にしました。寮生大会を開き役員(全寮の寮長、風紀部長、衛生部長)各寮毎に寮長、風紀、衛生と係があり一生懸命でした。自分達が自治寮にしたいと云ったばかりにその仕事は、又責任はなかなかです。寮生の役員も寮生もよく働き、各部の会議をしたり寮生大会をしたり、寮の向上につとめました。受験生の宿泊のお世話、同伴の母親、引率の地方の先生におほめをいただき、寮にあずける事を安心してお帰りでした。</p>		

入寮生を決めるのも各寮の役員が面接し入寮を決め舎監に報告しました。様々なことがありましたが、各々が責任のある行動をすればよいと云う事を学びました。もちろん寮の先生方、お炊事のおばさんの手助けがあったおかげです。当時の寮長は私でした。そこで思う事は チームワークを大切にし、その中に「愛情、勤勉、聡明」の精神があったのだと思います、学生全員の中に!!

追：自治寮がよく出来たと学長先生よりご褒美に寮生役員全員銀座アスター（中華料理）でご馳走していただきました

（私信メモには概略、5月の緑窓会総会における青木先生に関する関根先生の講演を楽しみにし友達をさそって出席という趣旨の内容が書かれている）



「キャンプファイヤーとフォークダンス」

～ 上記写真、昭和30年大学卒（生活被服）K. R様提供

卒業年	昭和30年：大学（生活被服）卒 （28年短大被服卒、大学に移る）	
氏名	K. Mさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	上京（帰郷）する時の汽車の混雑（指定席が今のようになかった）	
3. 本学を選んだ理由	高3の時の学級担任が家政大の出身で進められた	
4. 入学のときの希望や夢	校舎が想像したものとだいぶ異なっていたのがっかりする点もあったが、内容を理解した点であきらめた	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①内容	内容はおぼえてませんが、全体として面白く、あきる事のない良い話でした
	②感銘を受けた点	人と接する時、いつもにこにこして感じが良かった
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	太り気味で、やさしい暖かい先生でした。学長先生をこんなに身近に感じる事が出来る事を痛感する日々でした	
8. その他の行事に関する思い出	① 沢山あったのですが、年令のせいもあると思いますが、細かい事が思い出せません	
	② 青木学長本当にやさしい方でした。いつも笑顔で優しく話しかけて下さいました。学長先生とお話出来るなんて想像もしてなかったので大変うれしかったです。授業も楽しかった事を思い出しています	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	他の大学の事を友達から聞いた時に、我が校は教授との距離が近いと、うれしかった	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	私も大学を卒業後、約5年位県立高校の先生をしてました。人におしえると云う事の大変さを痛感しました	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	皆んなで行く小旅行
	②嬉しかったこと	何かの賞をもらったりした時

1 1. 学生生活の思い出	③つらかったこと	クラスの中にいじ悪の人がいていじめられた時
	④悲しかったこと	組の中に一人でもいじ悪の人がいる事が悲しかった
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	先生にいつまでもお元気で長生して下さい。先生の笑顔が大好きです	

卒業年	昭和30年：大学（生活被服）卒 （短大被服卒後、大学に編入）
氏名	N. Yさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	若さと、新しい知識を求めての希望に燃えておりましたので、たいへんということは感じませんでした
3. 本学を選んだ理由	高校の先生が渡辺学園の卒業生で、学長が素晴らしい方だから、ということで勧めて下さいましたので・・・
4. 入学のときの希望や夢	人間として、もっと成長したい、新しい知識を得たいと思っておりました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	あまりにも遠い昔のことで、残念ながら覚えておりません。しかし、先生のお話に感激して、耳を傾けていたことを思い出します
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	答えにはならないかと思いますが、「貧乏は辛いけれど不幸ではない」「人とのめぐり逢いは大切にしなければいけない」という様なことをお話になっておられました
7. 水曜講演の青木先生のお声、口調、表情、態度等	青木先生のお声、口調、表情など、ひとつひとつ思い出せますが、私の拙い筆では表現することは困難です。申し訳ございません
8. その他の行事に関する思い出	① 今思い返して、私の人生のなかで、家政大で勉学に励んでおりました頃が、一番楽しく、充実して幸せな時期だったと思います

8. その他の行事に関する思い出	② 入学して、数ヶ月経った頃かと思いますが、花壇のところで青木先生がサルビアの花を指して、これは何の花かわかるか?とおっしゃり、田舎者の私は、緊張しながら、先生とお話をしたことを思い出します
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	先生方は厳しいけれど、愛情深く、また上級生の方々は、私達下級生に、やさしく、親切に接して下さいました
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	私の様な人間には、なかなか出来ないことではございますが、人と接する時、常に先生の御教示下さいましたお言葉が、心の奥にあった様に思います
11. 学生生活の思い出	あの頃は、若さもあり、希望に燃えております時でしたので、楽しいことばかりが思い出されます
12. 他の先生の思い出	和裁の先生方の授業は厳しくて、少しでもまずいところが見えた時には、目の前で、縫いめをどンドンほどいてしまわれますので、緊張の連続でした
13. これからの大学・短大に期待すること	学生皆様の御活躍で、東京家政大学の名前がますます大きくなりますことを期待致します
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	自由と節度を、バランスよく保ち、愛情深く、大きな人間になって頂きたいと思います
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	青木先生とのめぐり逢いは、私の人生の一番大きな宝でございました。有難うございます
別紙： 北海道よりの帰途、青木先生は八戸にお立ち寄り下さいました。お出でになる前に、御連絡を頂いておりましたので、こちらの先生、卒業生、在校生、父兄も集まり、青木先生を囲んで和やかな楽しい一刻を過ごしましたことを思い出しております。～後略～	

卒業年	昭和30年：大学（生活被服）卒	
氏名	O. Yさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	学費を奨学金をいただきながら勉強した事です。寮に入れていただき当時は16名位1部屋でした	
3. 本学を選んだ理由	渡辺学園時代の卒業生が高校の先生で寄宿舎の舎監でした。その先生を尊敬していたので家政大学を選びました	
4. 入学のときの希望や夢	私が入学出来るかどうかもわかりませんでしたので、私を選んでいただけたところで精一ぱい働きたいのが夢でした（私は先天的な骨発育不全で身長が130センチにも達していなかったから）	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	よく覚えていませんが、（愛情・勤勉・聡明）の言葉をいつも忘れずに今に至っております	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	一年の9月、11月の講演
	②内容	自己自身の事は結局自己自身が背負わなくてはならない
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	いつでもおだやかで、にこやかに接してくださいました。私は働かざるもの食うべからずとっていましたので、就職に関しても先生から積極的に応援していただきました	
8. その他の行事に関する思い出	① 学生3～4人と山形県鶴岡市において下さり、両親とお会い下さり語り合った事	
	② 特殊教育にたずさわるべく教育大学に聴講生として一年間勉強させていただき、K養護学校小平分校に就職。2年間勤め、それから財団法人の肢体不自由児施設で20年間勤めました。お蔭様で現在は年金で老人ホームに入って何不自由なく暮らす事が出来ています。これも皆青木先生の教育方針があったればこそとっております	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	大学の時の友達は今でも連絡し合い、時には集まって話合いをしております。大切な友達です。私は今年80才になりました。そろそろ物忘れが始まっておりますが、青木先生を忘れる事はありません	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	施設の児童指導員をしていた時の事、家族の縁のうすい子供達とお正月泊り込みで一週間程一緒に過ごした時は、先生のお言葉が胸にしみて思い出された日々でした	

1 1. 学生生活の思い出	①嬉しかったこと	題は忘れましたが、字が一番きれいだと、読み易いといわれた時（作文）
	②楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・箱根の寮に行けた事 ・登山は出来ないとおきらめていたのに友人に助けをもらいながら金時山に自分の足で登り下ってきた時 ・角帽を借りて写真を取った事
	③つらかったこと	つらかった事、悲しかった事はありませんでした
1 2. 他の先生の思い出	松垣先生の授業を思い出します。静かで根気よく、特に手芸（私はレース編み）が楽しかったです。友人は日本刺しゅうが得意ですばらしかったです	
1 3. これからの大学・短大に期待すること	自己の確立の為、多くの物を見たり、聞いたり、体験をして、どのような道に向かっても一生懸命働いて収入を得てゆく、常に自分を進歩してゆけるよう努力する	
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	青木学長先生のおかげで道をふみはずす事なく、80才の坂を越えて参りました。老人ホームに入って車椅子の生活ですが、とても幸せだったと思っています	

卒業年	昭和30年：大学（生活被服）卒	
氏名	Y. Fさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	休みの度、両親に顔をみせるため行ったり来たりした。当時、上野・根室間は、片道48時間に近かった。4時間の青函連絡船もきつかった。ストライキで家に帰るキップ、友人の寮にとまって朝早く上野駅で買い求めた	
3. 本学を選んだ理由	高校の職員玄関で、直接は習っていなかった英語の先生（男性）に、家政大の方へ行きなさいと云われた。2年ならあつという間だと4年の方えらびました	
4. 入学のときの希望や夢	自分自身で生活出来る様にと思いました	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	4月の水曜講演とっていて、（関根先生から送られた）参考の表をみると3年生（S28年）の時
	②内容	女性の経済的自立のこと
	③感銘を受けた点	女性も自分の自由になるお金を持つ。実行しました

7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態 度等	いつも前の方できいていました。後ろまで聞こえているだろう とと思っていましたが。表現出来ません。キカイに残っている声 でもきいたら青木先生とわかるかもしれません
8. その他の行事に関する 思い出	<p>① カーネーションのハガキいただいて母におくりました。 昭和26年の第2日曜日は5月8日と記憶しています</p> <p>② 3月3日の学長先生の誕生日のお祝い、何しようと考えました（一年生のとき一枚の画用紙に画を皆でかきました）</p> <p>③ 広い敷地、アスファルトから曲がり角、土の上を歩いて、 学長先生はイージーゴーイングと云われ、私は一度も土の 上歩きませんでした。①②③とも生涯忘れないでしょう</p>
1 1. 学生生活の思い出	四年間の学生生活は一生忘れないでしょう。夏休み前、学長先生に学校の門を新しくするので、地方の石を持って帰る様に云われ、根室には産出される石もなく、多樂石（北方領土、歯舞諸島の多樂島の石。女性の指わなどにする）を根室でないけれど、と母に云われ、こぶし大のベニ色の石と、小さい御影石2コと3コ持ち帰り、教務室のとなりの部屋の床に云われるままに置いて来た。門が出来て多樂石は影も形もなく、みかげ石だけあった。悲しい思い出です
<p>別紙：</p> <p>「いつの間にか77才になり緑窓会札幌支部の集まりでここ何年かは最高令となっていました。今の医学ではなおらない筋肉の病気で身体が自由がきかなく車椅子で出席しています。事前に会場が車椅子で入れるか、お手洗身障者用あるかとか、調べて出席します。係の人も馴れて、出席出来る所に会場設定にしてくれます。学生時代も今も学長先生のごことは私の自慢です」</p>	

卒業年	昭和30年：大学（生活被服）卒
氏名	I. Tさん (写真6枚寄贈)
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	昭和26年、生まれて初めての東京。誰1人知り合いの居ない田舎娘。大分県中津からの上京ですので寮に入れなければ進学出来ないで、宿舎がある事。尚、両親が安心出来る所であればそれだけで良かった。寮は白萩寮で1室13～14名の大部屋。電燈は4燈、つりさげ式。裸の白熱燈 ① 学習時、暗いので視力低下となる ② テスト時、多数の人が居るので落ち着いて学習出来ない。 (布団をかぶり) 懐中電燈での学習か、早朝明るくなるのをまって土手に上がって涼風を受けながらやるしかなかった。(ほとんど一夜漬けです) ③ 人々とのコミュニケーションのとり方は不得手だった
3. 本学を選んだ理由	親には、進学するには4年制を、と希望し、母親は家庭科以外の大学は駄目と言い、関西の大学と言われ(大阪に叔母が居るので) たのですが、家庭科なら東京で学びたいと主張し、本学を高校の家庭科の先生に教えて頂いた(でもどんな学校かまったく不明)。受験には母と上京。池袋の次が板橋とあるので乗りかえろとは知らず巣鴨まで行きびっくりして他人(ひと)に聞き無事板橋で降りて大学へ。立派な門があったので、ここだ、ここだと母と門をくぐったら、MPの外人戦士が出て来て又びっくり。粗末な門柱、小さな靴屋さんの所を通過して、想像とはちょっと違った、中・高の校舎の間を抜けてやっと宿舎の寮へ着き、大学へも案内していただく。その時にお世話して下さい先輩方の対応の仕方、言葉づかい、礼儀作法そして気配りに感銘を受け、私は勿論母も気に入り校舎などどうでも良くなった。不安感でいっぱいなのに先輩方は皆さん優しくした。何よりでした
4. 入学のときの希望や夢	福澤諭吉先生の“独立自尊”の碑を常に目にしながらの高校生活だったからでもないと思うのですが……。とにかく ① 自立、自活。親に頼らず生活出来る自分になりたい ② 学んだ技能を最大限発揮出来ること。そして社会に活かせる事 ③ 心から信じ合える良き友をつくること(義兄と私の兄妹でしたので)
5. 入学式の青木学長訓示の内容	満77歳になった今、残念ですが具体的には覚えていません。でも学長先生のお姿は、当時感激、喜びで胸を熱くしたハートに焼き付いています。優しさがあふれ柔和で笑みを浮かべたお話の仕方にとっても親近感を覚えました

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	① 何年生の頃 何月頃	水曜講演というと、先ず席とりに走ったことですが、悲しいかなノートが手元になく今は何も思い返すことが出来ません
	② 内容	1年時、間もなく“母の日”を迎える頃だったと思います。講話は「両親は勿論まわりの方々へも感謝の心を持ち、恩返し出来るよう日々励むこと」とお話しされたと思います
	③ 感銘を受けた点	4年制、2年制の学生全員に（一般は赤、母を亡くした人には白）手描きでカーネーションの絵葉書を下さり、郷里の母親に感謝の念を込めて現況報告の便りを出すようにとのことでした。簡単に出来るご行為ではなく感激し涙が出ました。受け取った母は大切にタンスに納めていました。残念ですが手元に1枚も有りません
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	白萩寮で卒業までの4年間を過ごさせて頂いたおかげで、青木学長先生と親しくお話出来る機会を当時舎監長であられた三木先生に与えていただきました。学園から白萩寮・舎監室への通路は鉄でつくられた階段を下りていらっしゃるのですが、途中寮生達と出逢うと必ずニコニコとお声をかけられるのでした。特に焼き芋を持っていると一帯に香るので学長先生の表情が一段とほころび「いい匂いだねー」と焼き芋を持っている学生を慈しみの眼差しで見られ、学生も「先生！お一つどうぞ」と気軽に言えるのでした。そして笑いの渦が湧くのでした。青木学長はまさしく大学での慈愛に満ちたお父様。学生（子供）思いの偉大な先生でした。少しも偉ぶらない、飾らない、人間味あふれる先生で、お母様大好き！焼き芋大好きのととても庶民的な学長先生でした	
8. その他の行事に関する思い出	① 附属の中学・高校そして大学が一体となつての学生祭を実施し、その打上げの日、夕暮れとなり木立ちの下で行われるキャンプファイヤーを囲んでのフォークダンスやスクウェアダンスには「ご苦労だったねー」とねぎらいの言葉をいただき、ゲームの輪には学長先生も入って下さり盛り上げて下さいました。企画した者としては大感激です。踊りの輪もとけ、一般学生が帰路に着きはじめると、役員はファイヤーの火を消し、後片付けが終わりになる頃、三木先生と学長先生に招かれて「さあ！頑張ったね。おあがり!!」	

<p>8. その他の行事に関する思い出</p>	<p>といつの間に炊いて下さったのか？醤油味のおにぎりを出して下さいました。あの頃では貴重な品でとても美味しく、今もって忘れられず時どき作って食べています。嬉しかったです</p> <p>② ご多忙なお身体でありながら寮の大きな行事には必ずおいで下さり、寮生に優しくお言葉を下さり、盛り上げて下さいました。又勿論、私（寮長）としては舎監長の三木先生にお願いをしたのですが、</p> <p>(ア) 殺風景で何も無い白萩寮の一室を娯楽室としてテレビを置き開放していただきたいと要望しました</p> <p>(イ) 外から講師を招いて社交ダンスの講習会を娯楽室で実施したい旨を申し出る。講師は学園事務職員のお姉さん（他で指導していた）。社会情勢が変化していたからもあるでしょうが願いを聞いていただいた</p> <p>③ 大学卒業の時、助手として残るようにお話しをいただき、私ももっと実力をつけたいと思ったので、洋裁の助手として残していただきました。そして2年目、どうしても自主、自立したい、現場に出て教鞭をとってみたいと、郷里（大分県）、大学側の都合もつけられる山形県の採用試験を受けることにしたのでした。その折、本人の私には知らされていないのですが、青木学長先生が郷里の方へ推薦状を書いて出して下さったとこのことを後で知らされ、ご温情の深さに頭が下がりました。その上更に「どうして、あの子はここを去るのかね！」と心配して居られたと聞かされ、申し訳なく思い泣けて泣けて後悔しました。このことがあって間もない時に、もう一生お逢い出来なくなってしまいました</p>
<p>9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういふ点で感じ取りましたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初の教室は煉瓦造りの外壁、窓は金網にセロファンを吹きつけた様式だが、あちらこちら穴あき状態で、鳥小屋のようでした。床はコンクリート塗りで冬期は冷えて寒さを強く感じました。このような教室と少し立派に見える木造平屋建ての教室が緑濃き木立内に点在している状況でしたが、校地内では年中建築の音が響き復興の息吹きが満ちていました。発展していることを肌で感じる日々でした ・しかし不便もありました。教室に隣接してのトイレが無く、学生数も少なかった為か？数が少なく、大変不便でした。でも事情をお話し、お願いしたら直ぐに答えて下さるなど、学生の願いには、しっかり耳をかたむけていただけました

<p>9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改革的なこととしては学生のクラブ活動をより発展させたくて、軟式庭球部に外部からコーチを導入したい旨申し出ました（早大の私の後輩を推挙し許可された）。新潟・柏崎で行われた大学の全国大会に初めて参加出来たのでした ・深い愛情の現われと思う、学生の努力に対して必ず労をねぎらって下さった。学友会の役員を箱根の寮に案内して下さり楽しい宿泊も体験しました <p>今こうして学生時代を思いおこす機会を与えられ、振り返って見ますと、発展途上にあつた大学、マンモスでない大学、温かい教授・先生方に恵まれていたからこそ、思いっきり羽ばたけた（つらかった事、悲しかったことは消え去りました）のだと有難く思っています</p>
<p>10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか</p>	<p>自ら、見ず・知らずの地、山形県内で高校教育に身を投じ、退職した</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 現在も尚教師冥利に尽きる想いに満たされていられるのは、沢山の同僚、友人、教え子に支えられて過ごせるのは、愛の絆でしっかり結ばれているからだと思う ② 県内でも田舎に位置する中程度規模校であつたからと思いますが、或る高校では生徒指導課長に、又もう1つの高校では教務課長等の役を任命され、封建思想の強かつたこの地であるため（現在はすっかり変わりましたが）新聞の県内版に女性初の役職と報じられましたが、愛情・勤勉の賜と思つてます ③ 公立高校を定年退職後は望まれて町内にある専修学校・通信制高校の講師として満75歳迄勤務。町の福祉関係（民生委員会会長として）の仕事を任じられ、少しは地域に認められたかな？と思つています
<p>11. 学生生活の思い出</p>	<p>楽しかったこと：</p> <p>何でも楽しむことが大好きですし、いたずらも大好きで、数えきれない程、思い出しますが</p> <ul style="list-style-type: none"> ① スリルがあつたことは、朝日新聞主催の早朝スケート教室に同室の後輩と共に、皆がまだ寝ているところを抜け出て新宿のスケートリンク迄5日間通つたこと。生まれて初めての体験で上手な人が傍らを通りすぎただけで風に煽られてころんでしまい大笑いでした。朝の点呼時にはなに食わぬ顔をして部屋の前に整列をし、私は各室の点呼を実施していました。「何号室、何名異状ありません」の班長の声

1 1. 学生生活の思い出	<p>② 高校生活が男女共学で、木曜の昼休みと土曜日の放課後にダンス曲が校内、校庭に流れることから、上級生、下級生も一緒になってフォークダンス、スクウェアダンスを楽しんだのですが、このことが大学生活で役に立ち、大学2年の時に学友会の体育部長に選ばれたことを機に、朝鮮学校の傍に低地になったグラウンドがあり、そこで講習会を開き皆さんと楽しく興じたこと。初めての体験だと喜んで下さったので尚楽しく思った</p>
	<p>嬉しかったこと： 学友会会長・寮長の役についていた或る日曜の昼下がり、全学連を名乗る男性の方々数名の訪問を受け、用件は加入要請と配布物の依頼とカンパでしたが、個人が主旨に賛成して同調することは別として組織では考えられないからとお断りし、何かメリットがありますか？と伺ったら、「学校側への交渉なども皆の力でします」と返答がありました。「だけどそれはおかしいのではないですか？内輪のことは事情が解っている内々の人同士がきちんとすべきでしょう。私の学校ではお願いするときちんと聞いて、叶えていただけますよ！」と言ったら、「ここは幸せなんですね。それを会で分けて下さいよ」と言いつつ、駄目ですかーと帰って行かれました。が私としては自分1人の判断で対処して果たして良かったのかな？と悩みました、が翌日学生課長の高橋先生と三木先生に呼ばれ「貴女の対応は良識的で正しかったよ」との評価をいただき嬉しく思いました</p>
	<p>つらかったこと： ① 2年生になり、専門教科の学習が始まった時、高校で家庭科を選択していなかった私は専門用語や部分の名称がどこを指すのかわからず必死でノートをとり授業中余裕が全然なく、クラスメートに何をそんなに書いているの？と不思議がられる位でした。初めての前期テストの時、落ち着かず体がガタガタふるえ、机につかまっても止まらず、教室を出てしまおうかと思ったくらいです。助手の先生がいらっして問題用紙が配られ、それに目を投じ解答に取りくむ時にはもうすっかりふるえは治っていました。が生まれてはじめての体験でとてもつらかったです ② 同じく2年生で実技が始まり、和裁基礎の運針の時です。皆さんは5分間で1m、針目も揃ってしっかり縫えるのに、私は半分も進まず針目も曲がっていて大小さまざまで恥ずかしくつらかった</p>

1 1. 学生生活の思い出	<p>悲しかったこと：</p> <p>① 大学3年の時、父が退職金を事業に投じ失敗した形となって、これ迄苦勞なく学生生活を満喫していた私に母から大学を休学するか、退学してくれないか、と言われた時です。特別奨学金を貸与していただき、あとアルバイトも初体験で、何とかクリアして、あとで良かったねー、となりましたが・・・</p> <p>② (略)</p>
1 2. 他の先生の思い出	<p>色彩学の宮下孝雄先生の授業は楽しくて、席は一番前に、そして冬の寒い時はダルマストーブに1番近いところを確保していました。先生は甘いものが大好きでしたので、教室に来られる前に机の上の真ん中にアンパンを置き、その周囲を甘納豆で文字(メッセージ)を描いて、誰がしたか解らない様に知らぬふりをしてすましていたり、といたずらをして少しも叱られたことはありませんでしたのしかった。或る時には東京駅八重洲口を出て行ったと思うのですが、今日は良い所へ案内しようと言われて、“甘くて申し訳ありません”としたお志るこ屋さんにつれて行って下さりととても嬉しい思いをしました</p>
1 3. これからの大学・短大に期待すること	<p>以前あった学科に比べ、現代にマッチさせた学科も増設され、発展している事は嬉しいことですが、中で学ぶ学生は勤勉で明るく伸びのびと何事にも前向きな研究心を持つよう指導力を持ってほしい。技術指導については、現代風に省力、合理化も大切でしょうが、根本をしっかりと把握した上で常にリーダーを指導出来る実力者養成校であって欲しい</p>
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	<p>古いことの良さと論理的、科学的に見出せる眼力をもつこと。直ぐに人に頼るのではなく、素直に相談、コミュニケーションがとれ、その上で自力で正しい判断力、実践力を持って欲しい。心身共に健全で明るく笑顔で人と接し、研究心を失わないこと。相手、他人の立場が理解出来る、相手の立場に立って対応できる人に</p>
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	<p>学長先生のお心のうちも存知あげず外へととび出してしまったご無礼を先ずお詫び申し上げます。そして先生のご期待に添うことは出来ませんでした。地方へ出た者としては母校を恥かしめることのないように、又少しでも後輩の役に立てるようにと頑張りました。又自分なりに真の愛とは・・・と自問自答しながらも、教師として生徒と接する時に常に親の立場に立ちつつも、生徒の側に立ち、生徒の思いを汲み、最善を盡くし、心から接していることを報告いたします</p>

別紙：

「思い出いろいろ」と称する追加別紙2枚、私信メモ、緑窓会会報掲載の回顧録「自立を目指して」2枚分コピー、写真6枚（①学生寮のゲームに参加の青木学長、②水曜講演の風景、③クリスマスのサンタさん、④クリスマスのコーラスの指揮、⑤学生祭の終り、⑥教室の席とり順で並ぶ様子）が同封

思い出いろいろ：

- ・昭和26年度、4年制の大学入学者20名（児童・栄養・被服の3学科を合わせて）、それでも上級生よりは数が多かったのです。2学年に進級する時には本校の短大や他大学からの編入生が加わり40名になりました。にぎやかになったと思うのもわずか1年間で、3年にはそれぞれ専門コースに分かれたのでした。が、どの学科の科長先生方も見るからに上品、紳士的、教養美あふれる、そして物腰やわらかく優しいお話のなさり方で、美男子で、さすがに大学ともなると違うのだなー、と心底思いました。
- ・入学当初は校門というにはお粗末でしたが、2年後位には現在のところに校門が造られました。その時に学長先生の発案だった？と思うのですが、それぞれ学生が帰省した折に帰省地から石を持って来てその石を門柱の傍の飾りに使い、益々学校に愛着が湧き嬉しかった事。十条駅へ出ることが可能になり便利になった。
- ・1年時、東京は西も東もわからない土地、友達もまだ打ちとけて行動が出来る状態でない初めの頃は、郷里の高校時代の先輩が日曜日になると“都内を案内してあげるから”と寮迄迎えに来てくれるのでした。私はただ嬉しくていそいそと着いて出かけて行っていました。勿論来てくれる人は部活、学習仲間等、種々と代わっていましたが（県内でもモデル校として男女共学を実施した高校で、私が1年の時ですから2年、3年の先輩男性も居るのです）、何とも思わず、知らない所ばかりですから楽しく嬉しかった。ところが或る日、舎監長（三木先生）に呼ばれて「貴女はいろいろと噂されていることを知っていますか？」とのことでびっくりしました。オール男性！と云うことで如何にもナンパ、不良呼ばわりでしたが、舎監長は私の話を聞き理解していただけました。当時大学の先輩方が男女共学を体験していない時代です。
- ・1年時 後期試験の時だった？と思います。国語の科目で事前に示していただいた範囲と違うところが出題されたのでした。出題した国語の先生は附属高校の先生でしたので、私は咄嗟に考え「皆！テストを受けず教室を出しましょう。私がこれから先生のもとへ行って、状況をお話し、必ず後日、再テストをしていただくようお願いして来ますから・・・」と私から教室を出ました。皆が同調して呉れるか心配でしたが、ほとんどの人が教室を出ました。が2人残っていました。全員そろってでない駄目だから一とお話し、全員受験キャンセルです。私は3～4人と共に附属で授業をして居らした先生のもとへ行き、事実をお話し、私の無礼をお詫びした上で、是非再度テストをして下さい、とお願いしました。「それは私が悪かったなー。解った解った!!」と気持ちよく了解して下さいました。皆もホッとした出来事ですが、私は先生を信じていました。
- ・新制高校、新制大学と過渡期の時代を過ごした青春時代はいろいろありましたが、その中から記してみました。



「教室の席とり順で並ぶ様子」



「サンタクロース姿の青木先生を囲んで」

～ 上記写真、昭和30年大学卒（生活被服）I. T様提供

昭和31年 大学卒業

卒業年	昭和31年：大学（生活児童）卒	
氏名	T. Aさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	都内在住でしたので特にたいへんなことはありませんでした	
3. 本学を選んだ理由	友人から紹介されました。友人のお母様が附属高校で教鞭をとっておられるということで大変親しみを覚え、家政大学への進学を決めました	
4. 入学のときの希望や夢	学校の穏やかな雰囲気につつまれ、青木学長の訓示を伺って、それまで漠然としていた私の気持は「思い切り勉強して、人や社会に役立つ人間になりたい」とはっきり意識するようになりました	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	具体的には覚えていません。ただお話を聞いた後の感動だけが今も記憶に残っています	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	短大1年の頃
	②内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は何かを学ぶというのではなく、いかにして考えるかを学ぶところである ・お互いが他の人の心になって、その人の心をいたわる気持をもっていきたい
	③感銘を受けた点	自分自身の気持の持ちようについて葛藤をもっていましたので、物の考え方、気持の持ち方の指針として、とても感銘を受けました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	ちょっと低めの巾のある落ちついた声で、ゆっくりめの口調で穏やかな表情で話されました。今でも耳に残っていますが、言葉で表現するのはむずかしいです	
8. その他の行事に関する思い出	① 短大2年の卒論の指導を青木先生にお願いしておりました。先生についての学生は4人で週に1度学長室に伺い研究の経過を報告しご指導をいただきました。先生にご指導いただけるのが嬉しくて幸せ一杯で学長室に通ったものです。無事に卒論の提出も終わった春、4人を伊豆に旅行に連れて行って下さいました。それはそれは、夢のように楽しいなつかしい思い出です	

8. その他の行事に関する思い出	② 大学児童科3年の時に青木先生の軽井沢の別荘に伺いました。春若葉の頃、青木先生とご一緒に先生にお習いした「信濃の国は」の歌をうたいながら、から松林を歩きました。別荘では皆で食事を作り、先生を囲んで楽しい一時を過ごしました	
	③ 毎年、学生祭の後だったと思いますが、キャンプファイヤーが始まりました。学生と先生方が大きな輪になって手をつなぎ歌ったりおどったり、本当に楽しい一時でした。今は立派な校舎で一杯の学内ですが、当時は建物は少なく、おとぎの国の森のようでした	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	大学の児童科の指導教授は山下俊郎先生でした。山下先生は週に1度、お昼に会食の日を設けて下さいました。児童学研究室に学生達がお弁当を持って集まり、先生を囲んで会食し自由に質問やお話しをしたり、先生の指揮の下にドイツ語で歌を合唱したりしました。本当に先生と学生の間が近く関係が濃かったと思います。このような事から私達児童科は学生同志も学年の垣根を越えて皆が親しくなり、良い関係を持つことができました。まさしく青木先生の生活信条「愛情・聡明・勤勉」の実践であったと思います	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	青木先生に教えていただいてから長い年月がたち、その間私がいつも青木先生を意識していたかと言えば、そのような事はありませんでした。しかし今改めて振り返って考えると、「愛情・勤勉・聡明」という青木先生の教えが、私の思考の基礎になり、知らず知らずの中に私の行動を支配していたようにも思います。とるに足らない平凡な生活ですが、子育て中のPTA活動や生活に余裕が出来てからの朗読ボランティア活動に際しても、私の行動の原点は青木先生の教えであったと思います	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	短大の卒業論文を青木先生にご指導いただいた事
	②嬉しかったこと	短大卒業間近の青木先生との伊豆旅行
	③つらかったこと	青木先生のご逝去(大学4年卒業した年で児童学研究室に勤めている時でした)
12. 他の先生の思い出	青木先生・三木テイ先生・山下俊郎先生のお講義が印象的ですが、エピソードは特に思い出せません	

13. これからの大学・短大に期待すること	今の時代に、ともすれば閑却されがちな「愛情・聡明・勤勉」の生活信条を精神の基礎として、技術の生活力と教養の判断力をしっかりと身につけた学生を育てていただきたい
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	自分の生活理想をもち、自分の良さと悪さを知り、そして技術の生活力と教養の判断力をしっかり身につけていただきたい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	先生とお別れしてから今日まで、我々の社会は人々の努力によって著しく発展し、生活の便利さ豊かさを享受することが出来るようになりましたが、その反面拝金主義と物質優先主義に傾き、精神面の充実度はむしろ低下し道徳心の欠如などに悩まされるようになってしまいました。今こそ先生のお教を学び直し、世の中に実現するよう努力が必要と思われます。私も年をとり残り少ない人生となりましたが、最後まで先生の教を忘れず、子供や孫にも教示できる生き方をしたいと思ひます、とお伝えしたいです

卒業年	昭和31年：大学（生活児童）卒
氏名	Y. Kさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	自宅が千葉中央区でJRの電車を乗り継いで通学したため通学が大変でした
3. 本学を選んだ理由	身内が皆大学に進んで居たので、父がえらんでくれた学校に進学しました
4. 入学のときの希望や夢	将来夫の助けが出来るあたたかい家庭を作るため、親は将来不幸にあった事の助けになる様資格を持たせたい
5. 入学式の青木学長訓示の内容	良くは覚えていませんが、人がこれから進む道の入学はその道標にすぎない。その手助けをするのが大学であり、その援けを身につけて、いやしくも教壇に立つなら生徒と共に車の両輪の様に歩む様にという事でした
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	起承転結が、画の様に次第に生徒がお話に吸い込まれて行く様な毎回の雰囲気でした

8. その他の行事に関する思い出	<p>① 良い思い出：母親が元気な人は赤のカーネーション、なくなった方に白いカーネーションをおくり、胸に付け合いました。そして祈りました</p> <p>② 学園祭で飾るカードの和紙の紙すきをしたり、画を描いたり、消しゴム印をほったり、分担の活動をしたり、人形げきの指人形を作ったり、紙風船を作ったり、いろいろ致しました</p> <p>③ それから G 大学夜間の看護師に24時間を授ける運動。無許可保育設立 (A ほいく所) 運動に参加し、段ボール空き箱で種木を送ったり、カボチャの種やそばがらと小豆を入れお手玉を作りました。今は公認保育所K園になりました</p>
1 1. 学生生活の思い出	春の遠足で、信越線で沓掛駅（中軽井沢）から星野温泉に直進。右手に階段を2段位昇った角から三軒目が誠四郎先生のお宅で、ご自分のおうちを解放して下さいました。まきを割り、まきストーブにくべ、皆んなで食事をしたりしました。次の日は、柊草や高山すみれの群生地から下り、(?) 山に入り、いまの新幹線の軽井沢（旧軽井沢）から学園に戻りました
1 2. 他の先生の思い出	授業に遅れる事も時々ありましたが、しずかに入り席につけばお叱りになる事は一度もありませんでした
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	何がそうさせたのか解りませんが、ほんの腰掛けのつもりが G 大学の内分泌の図書館に創設以来32年間勤務しました。これは先生の教えがあった事だと思っています

卒業年	昭和31年：大学（生活児童）卒
氏名	O. Kさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	寮に入ったのですが、あまり大変とは思わなかったようです
3. 本学を選んだ理由	第一志望大学に不合格のため、母親が出してくれてあった本大学に入学しました
4. 入学のときの希望や夢	夢も希望もありませんでした。別紙にかきました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	これからは女子が活躍する時代なので、親に感謝して、しっかり学問を身につけるようにと云われた感じがあります

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	よく覚えていませんが、バルザックの「谷間の百合」をよんで、人を愛することを話して下さったのを覚えています
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	原稿を出して、みながら話して下さいました。よく準備して話して下さいるのだなと思っていました
8. その他の行事に関する思い出	下記「別紙」参照
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	自分中心に過ごして、みなさんに迷惑をかけたと思います。聡明ではなかったと思います
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	現在まで無事に生きてこられたのは、愛情のある周囲の人のおかげだと感謝しています。愛情をうけとらないで大人になった人に何人か出合いました。愛情はきびしい時もあります。青木先生の教えを守ってきたかどうか自信はありません
11. 学生生活の思い出	いろいろあったと思いますが、50年以上経つと、楽しかった住みやすかったとしか思い出せません
12. 他の先生の思い出	下記「別紙」参照
13. これからの大学・短大に期待すること	特にありません。現状でたのしく過して下さい
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	良い将来につながることを祈ります
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	下記「別紙」参照
<p>別紙：</p> <p>「青木誠四郎先生の思い出」</p> <p><はじめてお会いした時のこと></p> <p>青木先生に初めてお会いしたのは、昭和26年、高校3年の時でした。私の在籍した広島県O高校へ講演に青木先生がおいでになったのです。高校の先生の中に東京女子専門学校の卒業生がいらして、何かの時に私の母親と話して母親の意思で青木先生とお話をしました。青木先生は次に岡山へ行くといわれて、岡山までいっしょに行き途中で話しました。他に家庭科の先生と2人くらい友人がいました。これからは女性が社会で活躍する時代が来るので是非、勉強するようにといわれたように思います。私は家庭科が苦手なので高校でも家庭科はとっていない。自分には、家庭科はむいていないとお話したように思います。先生はにこにこ笑っておられました。そんなに偉い先生とは知らなくて、よく言ったものだど冷や汗が出ます。</p>	

<東京家政大学に入学した頃>

第一志望の大学に失敗して、広島に帰るよりましだろうと考えて東京家政大学に入りました。願書は母親が出してあったので学部の被服科になっていました。縫うことは無理と考えて短大の児童栄養科に転科しました。その時は2年終わったら違う他大学の3年編入しようと考えていました。短大で勉強している間に、幼児心理や臨床心理を習って、これは自分に合っていると感じました。玉井収介先生に精神薄弱児（現知的障害）について勉強したいとお願いしたところ、毎週講義の前に風呂敷に包んでご自分の本を貸してくださいました。私は次の講義までに読んで感想を話し教えていただきました。フラストレーション・モチベーションなどの当時は珍しい外来語を使って話せるのが嬉しくて一生懸命に勉強しました。東京家政大学に在学した4年間は一番勉強したと思います。勉強ってこんなに楽しいものだったのだと分りました。それで児童科に3年編入しました。

<青木先生の思い出>

今回このアンケートを書く事になり、当時の友人から電話をもらいました。青木先生の思い出話をしましたが、青木先生は誰にも思い出を残してくださったことが分りました。そして私はわからなかったけれど頑固な一面をもっていらしたことがわかりました。児童科に3年編入したあと、児童科3年の友人と軽井沢の青木先生の別荘に泊めていただいたことがありました。先生ご自身がどういう経過で現在まで過ごされたかということをお話していただいたように思います。そのときの印象は、青木先生は小学校を教えた経験がおありで、とてもやりがいがあった。今僕がなにをやりたいかということと小学校をやりたい。将来の可能性をいっぱい持った小学生をやりたいと熱くいわれたのが印象に残りました。話が終わった後で「こくうーに、そばだつみようぎーさん」と妙義山の歌を歌いながら教えてくださいました。軽井沢方面に行くといつも思い出します。

<青木先生に最後に言っていた言葉>

卒業後、私は公立中学の家庭科教員を35年間やり、58歳の時、母親の介護のため退職しました。初めの10年間は特殊学級（現特別支援学級）をやりました。後の25年間は技術家庭科の教員をやりました。就職が決まった時、青木先生にご挨拶に行こうと思っていたら、助手の方から、「青木先生が出張されたので伝言をことづかったから」と次のように話してくださいました。「あの子も妙なものに興味をもったなあ」といわれて「石の上にも3年と諺があるけれど、どんな辛いことがあっても3年は頑張るように」と、ことづけてくださいました。これはいつも頭の隅にあって、私が現在あるのはこの言葉のおかげだと思います。3年経ったら、お会いしたいと思っていましたが、私が就職した年の12月に亡くなられて、叶いませんでした。退職した時、「35年間、無事に勤めました。何度も挫折そうになったけれど、石の上にも3年とっていただいたことを守ることができました」と心の中で青木先生に真っ先に報告しました。

卒業年	昭和31年：大学（生活児童）卒
氏名	F. Eさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	親の経済的負担。親は戦争を経験してお金や物はなくなるけれど身についたものはなくならないと思って無理して勉強させてくれたようで、父は男女の差別はしませんでした
3. 本学を選んだ理由	姉が東京女子専門学校を出ていましたので
4. 入学のときの希望や夢	会津盆地から出たかった。父は転勤で私は父方の祖父母のところで高校にいました。まだ食料事情も悪かったので不安の方が大きかったと思います。寮生活も初めてです
5. 入学式の青木学長訓示の内容	思い出せません。会津若松（福島県）の女子高から初めて寮に入り、ちぢこまっていたと思います
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	内容： ・女性には賢くなくては。次代を育てるのだから ・送り出してくれた父母に手紙を書くこと ・金銭出納帳をつけて、親に報告すること
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	青木先生はすごくやさしかったと思います。学長というよりは、すぐ隣にいる方のような感じでした。水曜講演など遅刻は許されませんが、当時そんなことはあたりまえでしたし、よく歩きながら紙など落ちてると拾って捨ててらしたように、みんなも気をつけてたので校内はきれいでした
8. その他の行事に関する思い出	① 昭和29年5月（3年生）。軽井沢の青木先生の別荘に児童科の人たちと行きました。多分学部の学生をいくつかに分けて招待して下さったと思います。電気が消えて先生がヒューズをひとりで一生けんめいなおされました。星野温泉にもいってみんなで田舎道を歌を歌って歩きました（写真があったので） ② 昭和28年7月（2年生）。キャンプファイヤー。青木先生、山下先生と児童科の人たちと火をかこんで手をつないですごく楽しかったです ③ いつか不明ですが、学長室で原書の勉強をしたことがありました。みんな、あまりに英語が不得意で青木先生にあきられました
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	この世の楽園を目指していたなどとは思えません。学校を出て、どんな所でも明るい光になるようにと教えられたように思います

10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	私は三つの中で聡明を一番におきます。当時の女性に一般的に欠けていた部分だと思います。地に足をつけ、自分の頭で考えて自立して生きること、そして光になること。でも難しかったです
11. 学生生活の思い出	楽しかったとつらかったのは同じです。3年生、4年生のとき農村実習で農村について幼児の保育をしたことも大変でしたけど楽しかったです。上級生にもよくしてもらい、尊敬してましたが、みなさん早く亡くられました。私たち児童科4回生は今東京近くに5人いて、このアンケートが届く2日前に集まりました。そのあと電話で話したらそれぞれ今まで知らなかったことがいろいろあって、秋になったらまた5人であって、青木先生の墓参りにいこうと決めました。それだけでもこのアンケートいただいてよかったです
12. 他の先生の思い出	3年、4年のとき山下先生のゼミで原書を読みました。昼食のとき原語で歌を歌ったりしました
13. これからの大学・短大に期待すること	賢い女性になって下さい。物事は前向きに考えること、どんどん前に進んで下さい
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	今の学生は孫の世代です。私たちの頃と違い、先がわからず、何となく大変そうに思います。お友達を作ることです。女友達（とくに学生時代の）は一生の宝だと思います。仲よしをたくさん作って下さい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	青木先生は私が卒業した年の12月に亡くられました。校門の外に並んでお見送りしました。卒業式のころ、お元気だったのですごく寂しく思いました。戦後やっと立ちなおり始めた頃でしたが、今の世の中先生はどう思われるのかおききたいです。いろいろ女性の生活はらくになりましたが、なんだかあの頃のほうが、活気もあり一生けんめい勉強しましたし、真面目でまっすぐだったと思います。先生とお会いし、御一緒にすごしたことはきっと私の中で生きているのだと思います。ただ具体的にはいい表せません
<p>別紙：</p> <p>後期高齢者の身といたしましては思い出すのも大変でした。50数年へた今となつては、何が先生の教えだったか、区別するのはむずかしいです。私の根のひとつであることは確かです。このときの児童科の同級生（もともと少人数でした）とは今でも仲良くしています。一緒に遊びにいたり、楽しい勉強にさそってもらったり、いろんな相談をしたり、あの頃より、今のほうが濃いおつきあいをしています。このアンケートのおかげで昔のアルバムをひっくり返したり、楽しかったです。ありがとうございました。</p>	

卒業年	昭和31年：大学（生活児童）卒	
氏名	N. Hさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	経済的な面が大変でした	
3. 本学を選んだ理由	母・叔母が旧制の女子専門学校の卒業生でした。青木先生、山下俊郎先生のお名に憧れて受験しました	
4. 入学のときの希望や夢	子供に興味をもち児童専攻を選択しました	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	3年か4年の夏休みの終わった時だったと思います
	②内容	学長は夏休みの間の読書の予定が一冊だけ遅れてしまったと云われた
	③感銘を受けた点	学長の生き方に対する真剣さに感動し反省しました
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	落ちついた声で非常に真剣に話をされていました	
8. その他の行事に関する思い出	① 青木学長の軽井沢の別荘に2度招待していただいた時のこと。ヒューズが切れて電気がきれた時がありました。学長は大変困られて大騒ぎしたことがありました。学生の一人がヒューズを治して安心されたことがありました	
	② 栄養専攻と児童専攻の一部の者がトイレのお掃除をしているのに気づかれた時、とても感激していられたのがなつかしく思い出されました	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	昭和27年入学という、戦後の何となく荒れた気持ちを引きずっていたものでした。それが家政大に入学してから、気持ちが落ちついてきたように思います。意識が特別あったようには思わないけれど「愛情」というものが心の底に芽生えてきたものと思います	
11. 学生生活の思い出	お互いにニックネームをつけあって呼んでいました。今でもそのニックネームで一人一人を思い出しています。児童専攻の学生は11名しかいなかったもので、いつも一緒に行動していたのが楽しかったと思い出されます	

1 2. 他の先生の思い出	私達は児童専攻だったので主任教授は山下俊郎先生でした。音楽が好きで昼食のあと、みんなでコーラスをしたのがとても楽しい思い出です。先生のお宅にもお邪魔しました
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	地方に住み、卒業後一度も行ったことがないので今どんな様子かわかりません
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	お礼を申し上げたいと思います。思ってもみなかった質問で見当はずれの回答になったかもしれませんがお許し下さい

卒業年	昭和31年：大学（生活児童）卒	
氏名	U. Fさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	戦災で父を失い、転校など経済的な面で心配でした。年令差のある兄は国立大、姉は私大を出ており、自分も当然大学へ行く積りでした	
3. 本学を選んだ理由	家族のすすめで、家庭に入った時困らないように教養を身につけることが大事との事で選びました。末子で心が幼い子でしたから特にすすめたのでしょう	
4. 入学のときの希望や夢	子供が好きでしたから、児童心理学を学び、それを生かした方面の仕事を将来したいと思いました	
5・入学式の青木学長訓示の内容	はっきり覚えておりませんが、大学生になったことは恵まれたことで、しっかり学んで欲しいと云はれたように思い出しています	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	27年5月14日 「大学の学生」 28年1月21日 「勉学の目的」 30年11月2日 「愛情」
	②内容	3項目を書きましたが、1番目の大学生の生活で、学問は何故かという疑問を持ち、研究、教師に質問して、結果を見出して行く事を常に努力して行く・・・というお話は心に残りました
	③感銘を受けた点	「勉学の目的」も同じく、学問を深く考えるようになりました。又3番目の「愛情」は先生の講演の中に流れているテーマで心に深く残っています

7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態 度等	先生は、語調はおだやかです。私達にとって一つ一つの言葉が 耳に残り、心に残りました
8. その他の行事に関す る思い出	① 学生祭は本当に楽しい思い出です。キャンプファイヤーを囲 み、青木先生とフォークダンスをし、おしゃべりをしました ② 又、先生のご自宅まで行きましたことを思い出します。そ れぞれ訪問した人達で学生生活について話し合ったような 気がします。大きな暖炉のあるお部屋で
9. 先生の愛情溢れる学 園づくりをどういう点 で感じ取りましたか	1例ですが、農村実習が大学3年生にございました。水上（注： 群馬県黒保根村）だったと思います。公民館のような所に泊ま り農村の子供達を保育しました。大勢の子供を寝かせ食べさせ 遊ばせたり、いろいろ大変でしたが、だんだん子供達と仲良くな りました。最初寝なかった子供に私はやさしく子守り歌を歌 いますと何人もの子が（昼寝）に入りました。歌い方で心が通 じ、よい経験したことを思い出しました
1 1. 学生生活の思い出	校舎らしい校舎もなく移動することが多かったように思いま す。食堂もメニューらしいものがなく・・・でもお友達とパンを 買い校庭の芝生で楽しく、授業のこと、人生のこと・・・ゆっく りと語り合ったこと。これは今思い出すと楽しい思い出です。 今も、こんな年令になりましたが、グループ（児童科は少ない です）で集まります。きっとまだまだ続きますよ
1 2. 他の先生の思い出	担任の山下先生は講義に入る前に必ず、シューベルトの「野バ ラ」をドイツ語で歌うことを教えて下さり、皆で歌ってから授 業に入りました。授業もなごやかで良かったです
1 3. これからの大学・ 短大に期待すること	大変難しい時代になって行くように思います。どうぞ東京家政 大学・短大らしい特徴のある大学に成長して欲しいです
1 4. 大学・短大の学生 達に最も伝えたいこと、 最も望むこと	青木先生の「生活信条」は、どんな時代になっても変わらない と思います。学生時代に学んだことは私達のような年令になっ ても役立っております。良い体験もして下さい
1 5. 先生にお会いでき るとしたらお伝えした いこと	私は身体があまり丈夫でなかったのでお勤めの経験はございま せんが、家庭に入り自由業の夫を支え、子供二人に恵まれました。 長女は大学教授で作家、息子はシステムエンジニアとして 働いております。学生時代の先生の生活信条が自然に身につい ているのでしょうか。お蔭様にて、恙なく楽しく過ごしております。 学生時代に先生とキャンプファイヤーで手をつないだあの ぬくもりは忘れません。ありがとうございました

卒業年	昭和31年：大学（生活被服）卒	
氏名	K. Mさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	自宅通学。当時の交通機関状況で片道2時間余を要したこと	
3. 本学を選んだ理由	姉三人が本学進学で当然の如く決められていました（四人が在学しました）	
4. 入学のときの希望や夢	決められた道に行くのみ	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	入学式の迎えられたことに感謝し勉学せよ	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	① 内容 ② 感銘を受けた点	下記「別紙」参照
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	常に笑顔で温かい雰囲気の中で、女生徒に語るというお心配りがありました	
8. その他の行事に関する思い出	キャンプファイヤーを囲んでのフォークダンスをご一緒にしていただきました	
<p>別紙：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水曜講演での思い出。徹夜明けの受講生も多いこと。ある時突然ザルという漢字を知っている人いますか。「ハイ」と声を上げたのが私1人。「竹冠にウリ（瓜）と書きます」周囲は一ぺんに目が醒めます。先生は「ほう。私は今回ザルという字を知ったので聞いてみました」と云われるユーモアをお持ちでした。 ・ある講演のとき。「清水（しみず）の舞台から飛び降りる気持で」とおっしゃられたのです。“ん”それキヨミズの舞台？これは気がつく人を待つご様子もなかったので私の秘密になりました。 ・学部四年卒業式近くなりました一日。青木先生と奥様が四年生全員の送別会をお持ち下さいました。お教室に机を配置し、飲物、お菓子が並べられました。ご夫妻が席にお着きになられる直前に松井先生より代表でご挨拶するように云われました。どのようなご挨拶になりましたのか、ご夫妻のお心、お気持ちをいただいた四年間のお礼が申し上げられましたかどうか。断片的な記憶しかないのです。松井先生は「前以って伝えても貴女は同じですよ」と。これは何十年経っても誠四郎先生につながる思い出です。 ・私信を略述：「喜寿を迎え懐かしい思い出に戻れるひとときが持てました」 		

卒業年	昭和31年：大学（生活被服）卒	
氏名	T. Sさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	福島県の片田舎よりの上京で8人で校外寮生活で、ことば使いが（方言）むずかしかった。兄弟姉妹が多い為、間もなく仲良くなり楽しい4年間でした	
3. 本学を選んだ理由	女学校・高校の家庭科の先生が卒業生であったことと、母が昔あこがれた学校であったので選びました。母は、女の子は家庭科が基礎と言っていました	
4. 入学のときの希望や夢	教わることは何でも吸収し、高校教師になろうと思っていました	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	親に感謝し、楽しく学生生活を送るべくしっかりと勉学に励み、心豊かな女性になって欲しい等々をお話し下さいました	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	入学当初のこと。27年4月頃
	②内容	人間の美しさは外見ではない。全て揃ってこそ真の美しさが現われることを緊張し乍らお聞きしました
	③感銘を受けた点	先生はにこにここと、そしてゆっくりと、わかりやすくていねいに話して下さいました言葉一つひとつが印象に残っています
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	あの豊かな体形から上記した様に、言葉一つひとつを選び、学生の心をつかむ様におだやかに要点をきちんと話して下さいました	
8. その他の行事に関する思い出	① 夏休み前日のキャンプファイヤーにもお出掛けになり一緒に歌って下さいました	
	② 冬休み前はクリスマスパーティー。サンタの服装で楽しく学生とひとときを過ごされました	
	③ 学園内の通路を巡視なされ、学生と会話をし、記念写真なども撮ったり気軽にお話出来ました	
	④ 樹木の落葉焚きの中にさつまいもなど入れて焼き芋作りなど楽しみました	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	とにかく先生は学生を大切になさいました。教授の先生方も伸び伸びと研究に取り組みされ、また学長先生はお励ましもしておられました	

10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	高校教師として定年まで務めあげ、卒業生がいまだに訪ねて(退職して17年)遊んで行かれる。これは先生の教え愛情そのものと思っています
11. 学生生活の思い出	楽しかったこと： 5月リクレーションウィークの時、私どもの級は軽井沢に行きました。学長先生のご案内で小諸城跡や浅間山、そして小諸一の料亭で全員に「うな重」をご馳走して下さい、小諸駅まで見送って下さいました。実に楽しい大切な思い出です
12. 他の先生の思い出	染色部を立ち上げ、西武デパートが池袋に出店。その年美術部と共催で染美展をしました。夜遅くまで準備し帰りの暗がり石尾清子先生と帰ったことなど
13. これからの大学・短大に期待すること	技術を大切に教えていただきたい
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	真の美しい学生になって欲しい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	幸せな人生をここまで送らせていただいたことに心より「ありがとうございます」と言いたいです。4年間のご指導に感謝致します
<p>別紙：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会つまり学友会の役員をしております、いろいろなご相談もしました。 ・卒業記念アルバムの中表紙に「つゆ草」の色紙を書いて下さいました（お待ちしている間に心よく） ・役員全員を東大学士会館に招待し、労をねぎらって下さいました。 <p>いつも愛情を持って、その都度、態度でご指導下さったのだと思い出されることばかりです。</p> <p>青木学長先生にはいろいろとお世話になりました。卒業以来、五十余年になりますが、ご指導の数々新鮮に思い出されます。</p>	

卒業年	昭和31年：大学（生活栄養）卒	
氏名	T. Mさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	私は出身地は広島県ですが、昭和26年、両親家族と共に東京に移り住みました。両親は経済的に大変でした。通学が大変でした。中央線山の手線の混み方は、冬のオーバーのボタンが全部引き取られる状態でした	
3. 本学を選んだ理由	知人から（教育関係者）青木誠四郎先生が女子教育に力を入れておられることを聞きました。前身が東京女専であると云うことで選びました	
4. 入学のときの希望や夢	家政学を学び栄養学を身につけ将来良い家庭を作りたいと思いました	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	はっきりと覚えていませんが、“女子の大学進学率は現在？%である。貴女たちは幸せである。親に感謝しなければならない”と祝福して頂きました	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①内容	母の日についてだったかと思います。母の尊さ、美しさ、子供を育てる事の尊さ。母の愛にまさるものはない
	②感銘を受けた点	先生はお母様のお話をされる時は、お声がつまり気味でした。お母様に深い愛情をお持ちでいらっしゃいました
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	高い声でもなく、低い声でもなく、ゆったりと静かにメガネをかけ椅子に座ってノートを見ながら丁寧に話され温かい雰囲気でした	
8. その他の行事に関する思い出	① 先生からカードを頂きました ② キャンプファイヤー等とても楽しかったです ③ 五月のオリエンテーションには箱根の学生寮仙石原に ④ 軽井沢沓掛の先生の御別荘に泊まり星野温泉に行きました。昭和27年～31年の頃です 何と豊かで幸せであったことでしょうか。ゆったりと時間が流れておりました。自然も美しい景色でした。今でも思い出します	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	本当に家族的でした。ここで学ぶと云う縁を得た事に心のやすらぎを感じさせられました。学長先生を始め先生方と満ち満ちた日常生活でした	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	生活が清潔であること。質素であること。品性があること。流行にまどわされないこと。私は足りるを知る人になろうと常に心がけて来ました。これも先生の教えの賜物と思います	

1 1. 学生生活の思い出	レンガの建物から次の授業の建物へと移動していました。その時、先生方とお逢いし、御挨拶をし、声をかけて下さり、上級生と下級生とも行きかい、何時とはなしにお話しするようになり、なつかしく思い出されます。つらかった事、悲しい事は余りありませんでした。あるとすれば個人的ですが、物理、化学、数学が難しく苦しみました。何とか試験が終わりホットとした事を思い出します
1 2. 他の先生の思い出	三木テイ先生、氏家寿子先生の授業は個性的で美しい先生方でした。大学の先生は、こう云う方々なのかと思いました。氏家先生は時には美空ひばりの歌まで歌って下さいました。法学の外村先生の授業もユニークでした。授業中には必ず野球の話が出ました。そして試験はしっかり問題が出るので大変でした
1 3. これからの大学・短大に期待すること	東京家政大学の中だけで通用するのではなく、広い社会で誠実に、品性ある人であることを期待します
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	専門的学問は大切ですが、一般教育を身につけてもらいたいと思います
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	充分とは申せませんが、佳い家庭を作ることが出来たと思います。そして穏やかな生活を過ごしております。有難うございました

別紙：

今日東京家政大学があるのは青木学長の御尽力の賜物でございます。関根先生、此の度よくぞ取りあげて頂きました。本当に有難うございます。卒業以来、何度か大学を訪ねましたが、青木学長先生があればほどまでに誠心誠意、私財を投げ出して東京家政大学のため、女子教育に力尽くされたことを知る人も、感謝する人も、偲ぶ人もいないとか、と悲しく思っていました。ここに取り上げて頂きました事を心より感謝申し上げ御礼申し上げます。学長先生は女子教育に力を注がれました。在学生だけでなく卒業生の安否をも心にかけておられました。女性の幸せとは何か。当時は卒業生（女専の方々）にも御主人を失くして子供を育てていらっしゃる方が多くいらっしゃいました。学長先生は人間の幸せとは、婦人の幸せとは、常に考えておられました。女性の生き方は難しいとも申されておりました。この機会に『若い女性』を読みなおし、約60年前にこのような教えを頂いていた事に感謝いたしております。関根先生がおっしゃる通り、私は水曜講演に傾聴し、先生の暖かいお人柄に接する事が出来た事は本当に幸運でございました。そして私たちの学生生活は黄金時代であったと思います。これからも一層、愛情、勤勉、聡明を生活信条にして、今日1日愛情をもって接しただろうか、勤勉であったらろうか、聡明に過ごしたかどうかと反省しながら、清楚に美しい品性のある人生を過ごして行きたいと思います。

卒業年	昭和31年：大学（生活栄養）卒
氏名	M. Sさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	当時、女子高では級で2～3名が進学するような状況でした。他は各種学校や就職に進む方が多かったと思います。この時代、わが家では女性が大学に行く事は好まず、父親を説得する事は大変でした。ただ家政科なら料理、洋、和裁など花嫁修業につながると思ったのかもかもしれません。最終的には許しを得ました
3. 本学を選んだ理由	通学していた女子高の家政科の先生（洋裁、和裁、食物の3教師が家政大の前身、東京女専出身と校長先生の奥様、同出身）のおすすめがあり、家政科の進学なら家政大学へ、という事になりました
4. 入学のときの希望や夢	高校在学中に教えを受けた家庭科の教師になりたいと4年間、しっかり勉強しよう・・・と希望と願望でいっぱいでした。待ちに待った入学式には当時急行電車はなく、普通電車を乗りついで2時間かけて、1時間も早く式場に着了いた事を記憶しています。それから4年間、2時間以上かけて毎日登校しました。卒業後、おかげさまで希望通り、中、高校の教師になりました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	女性の進学率が少ない中で大学進学が出来た事への両親、家族への感謝の念を忘れぬ様に・・・今も覚えています
7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等	はっきりと、ゆっくりと、口を大きく動かして、眼鏡を時には鼻眼鏡（当時、遠近両用眼鏡はありませんもの）にしてお話をして下さいました
8. その他の行事に関する思い出	① カードをいただく中で、いつも手書きのカードで植物の絵が描かれていたと記憶しています ② 卒業間近になると、2～3名位でしたか、順番に学長室に迎え入れて下さり、一緒にお話をしたような気がします。親しみをこめて、というよりも緊張して何をお話したか忘れていました ③ いつでしたか、軽井沢の山荘にお招き下さり（大勢で押しかけました）宿泊し、高原の散策、星野温泉の入浴、草軽電鉄に（おもちゃの様なかわいい電車）乗りました。翌年頃、廃線になったと聞いています
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	横浜市内の高校に就職して2年目、3年生の担任になりました。家庭科を教える中で、3人の問題を抱える生徒（欠席、遅刻、制服の乱れ、茶髪など）風紀委員会でいつも名前があがっていました。

10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	先生方は退学の他はない、とまで云われていましたが、どういうわけか、私の家庭科だけはいつも出席し、とても素直に授業を受けてくれました。実習後のカロリー計算もきちんと提出していました。先生方に見離された生徒でも良い所をいっぱい持っている事に気づかされました。どんな人間でも、かならず良い（善）所と悪い所を持っている、その良い所を見つけてあげましょう・・・というような心の持ち方を先生からお教え頂いたと思っています。一年間、微力な私は背伸びしながらベテラン教師に教えて頂き乍ら就職活動に会社をたずねたり、推薦状を書いたりして、晴れの卒業式を迎えました。もちろん、あの三名の生徒も何とか卒業出来ました。私はとても嬉しかった事を覚えています	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと 嬉しかったこと	楽しかった事は嬉しかった事につながります。沢山思い出されます。キャンプファイヤーを囲んで歌をうたったり、おしゃべりしたり・・・生物クラブ（部活動）でウミボタルの採集に逗子に宿泊し、夜の海辺でウミボタルに出会った事。これをテーマに秋の文化祭には発光バクテリアを展示（暗室作りを工夫して）いた事。この時、教えを頂いた羽根田先生（発光バクテリアの発見者。観音崎博物館館長でした）に鎌倉の華正楼にお招き頂き、中華料理をご馳走になりました。アメリカに行かれた時はみんなで横浜港まで見送りに行きました（飛行機の渡米はありませんでした）
	②つらかったこと	栄養科でも必修課目として被服がありました。単衣の着物（浴衣）を製作しました。家に持ち帰る事は厳禁で教室での仕上げです。少しでも違った縫い方ですと“お直し”で同じ所を正しく縫えるまでお直しが続きます。私は3回もお直しが続き、教室に残って仕上げた事がありました。後日、全員で浴衣を着て記念撮影をしました。笑顔で写っている自分を見ると、つらかったけれど辛抱して良かったと思いました（物事を習得する厳しさは大事な事です）
	③悲しかったこと	特にありません

1 2. 他の先生の思い出	<ul style="list-style-type: none"> ・化学の時間（海野教授）、亜硫酸ガスの発生装置を作り、それを外に出してガスの発生を待ちました。ガスの発生と同時に“逃げろ”とばかり、全員かけ足で逃げて収まるのを待ちました。ものすごい匂いにびっくりしたのと今思えば、こんなのかな悠長な実験なんて、あの時だけでしょね！楽しかったのと化学が好きになるきっかけになりました ・倉庫の様な建物が点在する中で手洗所も点在していました。きれいにしましょう、と自発的に自分達で清掃していました。ある時、今の様にトイレ洗剤など無く、汚れ落としに化学室の希塩酸を持って来てきれいにした事を覚えています。苦にならず、楽しい記憶として覚えています。化学の海野先生に見つかれば大変でした！もう時効でしょうか？（先生、ごめんなさい）
1 3. これからの大学・短大に期待すること	世の中、色々な事件が起こります（家庭内や社会においても）。私は人の資質の問題もあろうかと思っています。10代の後半から20代の前半、つまり大学生活の時期、青木先生がよく言われていたように人間形成の一番大切な時期（青年心理学を受講しました）であると。この時期表面は地味でも濃密な知識と知恵を生み出すような勉学を授けて下さいます様、要望いたします（僭越な言い方でご免なさい）
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	上記の裏返しで、学ぶ態度、行動に自身を律して下さいと申し上げたいです
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	青木先生に幸運にも出会えた事を心から感謝申し上げます。一生忘れません。私事で恐縮ですが、先生のお諭しのように、お互いを尊重し、思いやりの気持を持って、ことし81歳、76歳の金婚式を迎えます。先生、有難う存じました・・・とお伝えしたいです
<p>別紙：</p> <p>・・・今から50年以上前の4年間の学生生活を振り返る事は懐かしい事であると共に記憶も定かでなく、薄れているのは確かです。記憶の糸をたぐり寄せて当時の学生生活の断片を書かせて頂きました。関根先生の懇切丁寧な文章や質問用紙を拝見して青木先生について再認識させて頂きました事、心より感謝申し上げます。有難う存じました。</p> <p>追記：当時、学友会の会計のお手伝いをしていました。卒業の折、慰労の意味でしょうか『ありがとう、お疲れさま』という事でノリタケの“ばらの絵”の見事な飾り皿を頂きました。とても、嬉しい事でした。50年以上、経っていても我が家の部屋の壁に飾ってあります。</p>	

卒業年	昭和31年：大学（生活栄養）卒
氏名	M. Mさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	寮に入れず個人の家を下宿
3. 本学を選んだ理由	母が卒業した学校の為
4. 入学のときの希望や夢	高校の先生
5. 入学式の青木学長訓示の内容	わかりません。途中入学
1 1. 学生生活の思い出	お金がぎりぎり、昔はアルバイトなどなかったので苦しい学生生活でした。余りありません
1 2. 他の先生の思い出	常吉先生のボーとした授業が今までも思い出です
1 3. これからの大学・短大に期待すること	今の学生はめぐまれていると思います。私も現代に生まれたかった？
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	自分を大事に



「クリスマスコーラスの指揮をする青木先生」

～ 上記写真、昭和30年大学卒（生活被服）I. T様提供

昭和32年 大学卒業

卒業年	昭和32年：大学（生活栄養）卒	
氏名	H. Yさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	私の場合は高校の友人と3人で浦和から通いましたので特に大変なことはありませんでした。むしろ入ってみて地方の方が多いので驚きました	
3. 本学を選んだ理由	他の大学がすべて落ちたので	
4. 入学のときの希望や夢	ばくぜんとしていましたが、白衣を着ている仕事にあこがれていました	
6. 一番印象に残っている感銘受けた水曜講演	青年心理学と云う授業があったと記憶しているのですが、何も知らなかったのもそんな授業があったのかとおどろいた事をおぼえています	
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	先生の声はやさしい声で、お顔もいつもにこにこしていて、やさしいお人がらをあらわしていただきました	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	とてもすてきな先生でしたが、私の目にはそんなに近づけない距離があると思って居りましたので、今にして思えばとても残念に思います	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	・仙石原の寮に皆んなで旅行した事など ・当時はやってなかった卒業旅行を九州、四国のお友達と実現させた事など
	②つらかったこと	農村実習
13. これからの大学・短大に期待すること	人間の本質（基本的なこと）を学んで欲しい	
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	どんな時にも頑張っ、一歩でも前進できるようになって下さい	
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	もう一度授業をうけてみたいと思います	

卒業年	昭和32年：大学（生活栄養）卒
氏名	F. Eさん
3. 本学を選んだ理由	高校の受持ちの先生の紹介で
4. 入学のときの希望や夢	大学で学んで、就職することでした
8. その他の行事に関する思い出	青木先生と数人の友達で箱根の寮に行ったことを思い出します
12. 他の先生の思い出	神野節子先生。就職をお世話いただき、60才のお祝いにも出させていただいた
13. これからの大学・短大に期待すること	英文科も出来、永く学校の発展を期待いたします
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	よく学んでください
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	先生のおやさしさ！もう1度お会い出来たら、青年心理学の講義をしていただきたい

卒業年	昭和32年：大学（生活栄養）卒	
氏名	K. Kさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	福岡からの上京。鈍行列車で24時間。車・乗物に弱かったので1日絶食状態でした	
3. 本学を選んだ理由	高校の大先輩にすすめられて	
4. 入学のときの希望や夢	取得できる免許は取って、田舎で勤めたい	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	3年生の夏
	②内容	30年7月9日「夏の生活」
	③感銘を受けた点	家政学の勉強は範囲が広く今後生活していく中、大変役立つ(実践として農村実習があった)

7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態 度等	重みのある声で（声は割合に通っていたと思います）、ゆっくり と噛み砕くように、丁寧でした	
8. その他の行事に関す る思い出	① キャンドルパーティでは学長先生はサンタさんの衣装で会 場に現われ、とてもやさしい笑顔でした	
	② キャンプファイヤー。確か、学長先生も参加されていたと 思います	
9. 先生の愛情溢れる学 園づくりをどういう点 で感じ取りましたか	当時の学園内は木立の中に旧造兵舎を改修された研究室、講義 室が点々とありました。木立の間から今にも野うさぎが現われ そうな錯覚を受けました。四季折々の花も咲き、とても温かみ のある学園でした	
1 1. 学生生活の思い出	①楽しかった こと	各行事。グループでの誕生日会、キャンプファ イヤー。登山
	②嬉しかった こと	良き友達に恵まれたこと
	③つらかった こと	農村実習（家族とのコミュニケーションで悩 む）。病院実習（現場の栄養士の態度）
	④悲しかった こと	学長先生とのお別れはショックでした
1 3. これからの大学・ 短大に期待すること	更なる学園の発展を期待します	
1 4. 大学・短大の学生 達に最も伝えたいこと、 最も望むこと	学園生活は2年～4年と限られた時間があり、最も専門的分野 に力を入れ勉学に励み増々自己を磨いて欲しいです	
1 5. 先生にお会いでき るとしたらお伝えした いこと	（以前の学長室を思い出します）3年余り有りがとうございま した。時々、大学にお邪魔した折、先生にお逢いできるのを楽 しみにしています	
別紙： 卒業して50数年経っていますので、当時のノート等紛失して手許には何も残っていません。としを重ねるたび記憶の方も薄れてきていますので、十分な解答ができませんでした・・・		

卒業年	昭和32年：大学（生活栄養）卒	
氏名	Y. Kさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	入学金・学資等経済面	
3. 本学を選んだ理由	<ul style="list-style-type: none"> ・父が女の子は家政科へ。仕事にも、家庭でも役に立つから。家庭科教員・栄養士の資格が取得できる ・高校の家庭科の先生が渡辺学園の卒業生で、しかも学園に勤務されたことがあり、すすめられたから（小林由利先生）。 ・東京で他女子校より学費が安かった 	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	緊張していたのでしょう。覚えていません	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	一年生の母の日の前の講演
	②内容	「母の日」を知り、赤いカーネーションのカードをいただき母に送りました。それ以後ずっと母の日には手紙を出すようになりました
	③感銘を受けた点	休みの前には帰省したら、親、母校の先生への挨拶、感謝を表す
8. その他の行事に関する思い出	校内で教師を移動している時等にお会いしても必ず何か声をかけてくださったこと	
1 1. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	寮生活でいろいろ地方の方とお友達になったこと
	②大変だったこと	短大で授業は進んでいるのに実習に出る時間が多く、授業内容は友人にノートを借りなければわからなかったこと。栄養実習、育児実習、教育実習
	③悲しかったこと	やはり青木学長の逝去
1 2. 他の先生の思い出	短大で講堂での合同授業でしたのであまり記憶がない。児童心理学。「一人っ子はそのものが病的である」どの先生か忘れましたが心に残っています(一人っ子でしたので心して育てました)	
1 3. これからの大学・短大に期待すること	(記述はありません。しかし回答紙の末尾に次の質問あり) 青木先生がもっと長く学長先生であられたら、どんな大学になったでしょうか?	

別紙：

農村生活実習について：指導者になるのに農村生活の実態を知らないではそれができない、との青木先生の考えから農村実習がはじめられたと聞きます。青木先生か三木先生か？ 児童専攻は保育所、被服・栄養は各家庭に入り一週間の実習をいたしました。学生時代の思い出の一つです。私自身田舎出身ですが農家ではありません。同じ農家でも養蚕の農家はだいぶ生活が異ったと思いました。その後三木先生について、8年間群馬県昭和村に通ったことが思い出。今でも昭和村の野菜が売られていると買います。

卒業年	昭和32年：大学（生活児童）卒
氏名	U. Fさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	経済的な事。女性が四年制大学に行く人が少なかった
4. 入学のときの希望や夢	受験科目が少なかった事。英語に自信がなく、その科目がなかった事
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	とても良いお話だったと思い出すだけで、個別の事は覚えておりません。50年以上前の事ですので!! 水曜講演のあった事は覚えていますが内容は覚えていません
8. その他の行事に関する思い出	① 児童科だけで（9人位）学長室で昼食を御一緒したのを覚えています ② 青木先生、山下先生（児童科の）にあこがれていました。お教えを受けれた事に感謝しています ③ 先生のお葬式に参列させていただき（御自宅）涙した事を覚えています

卒業年	昭和32年：大学（生活児童）卒
氏名	M. Rさん
<p>別紙：</p> <p>思い出すままに：卒業してから50年以上経ておりますので、水曜講演の事は校内左手の方にあった大講堂に行ったわ、と覚えておりますが、内容迄は殆ど記憶にありません。今思うと申し訳ない事ですが、”陸上カバ”を思わせる青木先生の体型と優しい眼差し、歯切れのよい、心にしみ入るお話のしかたは忘れられません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンガ造りの平屋校舎が、木立ちの中に点在しているまだ整っていない学校でしたが、地方からの学生の多いこともあり、又青木先生の生活信条である“愛情、勤勉、聡明”の精神が浸透しつつあったのか、地味で落ちついた雰囲気学園でした。 ・夏休みに入る迄は、殆どの学生が黒や紺のスーツに白いブラウスですごし、夏が過ぎた頃から少しずつパーマやお化粧姿があり、服装もスーツ姿が少なくなっていました。若さは溢れていても、華やかさとは遠い時代でした。 ・寮は1年生から4年生5名が一部屋。きめられた大きさの机と本箱を並べ、夜ふとんを敷くとかさなってしまう程でした。方言の勉強にもなり楽しくすごせました。 ・学年が進み実習が入ってくると7月中は帰れず、ガランとした寮に残っている数名が朝それぞれの実習先に出て行くのですが、病院や乳児院、保健所や学校等での実習経験は、カバンを手から離しても下迄落ちない程混んだ電車と共に社会人への貴重な体験だったと思います。 ・今はもうないと思いますが、農村実習も忘れられません。沼田に近い農村に入り、各農家や公民館や社務所等に寝泊まりして、農繁期の農家の仕事を手伝ったり、託児所を開いたりした事も、井戸から水を汲みあげてお風呂をたいたり、食事の準備をしたり、自分達の生活から離れた経験と共に、荷物や寝具の発送など全ての準備等を1人ですするという事も自立への良い体験でした。今よりも科が少なく学生数も多くなかったので、行事も家族的でまとまっていた様に思います。赤い衣服のサンタクロース姿の青木先生。行事に集まる学生に声をかけられると、気軽にカメラに収まって下さった青木先生。教室移動の途中で逢う学生達に気軽に声をかけて下さる青木先生。学生達にとっては父親の様な存在であったのではと思います。 <p>経済的に豊かでない時代の学生生活でしたが、だからこそ学ぶ機会をくれた親に感謝し、大学生であるという誇りをもって真摯に勉学に励んでいた学生が多かったと思います。その中で学校行事や寮の行事への企画、参加、友達との交流、小さな旅 e t c の喜びや楽しみが良き思い出になっているのではないかと思います。思い出すままに書いてしまいましたが、東京家政大学のますますの発展を祈念致します。</p>	

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒
氏名	T. Kさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	叔父の家に下宿して通学しました。日曜日は教材を仕上げる日に当てていました
3. 本学を選んだ理由	生活技術を身につけ、更に教員免許を取得するため
4. 入学のときの希望や夢	東京への淡い憧れと自立した女性になる事
5. 入学式の青木学長訓示の内容	忘れました。入学式場に飾ったフリーズの花を貰って帰った事を記憶しています
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	<ul style="list-style-type: none"> ・垢抜けした女性になりなさい ・結婚について：女性は一生の大事の様に考えているが、男性は道すがらの事と考える
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	柔らかなカバ先生（親しみをこめて）
8. その他の行事に関する思い出	<p>① カーネーションのカード。母の日の由来と、女性の地位が向上する事を願う</p> <p>② クリスマスには、学長先生がサンタに扮装されて、なごやかな会でした</p>
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	相手を思いやる心
11. 学生生活の思い出	レクリエーション・ウィークで、鳴子へ行った折、美学の黒田先生の紹介で、平泉・中尊寺の秘仏「一字金輪仏」を見せて頂きました。あの感動は忘れられないです
12. 他の先生の思い出	紡織学の高松先生。帝国製麻（栃木県鹿沼市）、富岡製糸（群馬県）、片倉ハドソン（埼玉県）等、工場見学をした事
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	感謝の気持を忘れずに、自分を磨く事
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	水曜講演は毎回出席しました。私にとって栄養剤であり、倫理を諭されたと思っています。恵まれた学生生活でした

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒	
氏名	K. Mさん	
3. 本学を選んだ理由	自然環境の中にある校舎・英語のテストがなかった	
4. 入学のときの希望や夢	不埒な希望でしたが、登山と旅が好きでしたので国鉄の学割が狙いでした	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	① 内容	香水等を付け、匂いをプンプンさせる事は異性を呼び招くが如し、とおっしゃられた言葉は今でも思い出します
	② 感銘を受けた点	女性は女性らしくあれ、とおっしゃっておられました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	常に優しい口調でした	
8. その他の行事に関する 思い出	自分を愛する事。人を愛する事	
1 1. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	キャンプファイヤー
	②悲しかったこと	先生が天国に旅立たれてしまった事
1 2. 他の先生の思い出	<p>松井和哥先生に、貴方は手先はきょうなのに提出日に提出出来ないのが欠点ですね、とおっしゃられた事。木曾山先生には、貴女は芸術家ではなく芸術ヤよ、と云われた事</p> <p>（以下、別紙から）松井和哥先生には他にも私の将来の決め手ともなる一言を頂きました。「教職を取らないのは貴女だけです!! 邪魔になる物ではないので取っておきなさい」と。卒業後私は先ず秋田県大曲にありましたS学校に昭和32年4月から6月迄勤務したが、お話が全然違ったので先生ともお話し合いの上戻りました。32年10月1日付でO高校に赴任。35年の9月迄勤務。26才で（36年）結婚。46～61才迄J中学・高校の講師として勤務致しました</p>	
1 3. これからの大学・短大に期待すること	世界にはばたける大学になって欲しいと願っています	
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	青木誠四郎先生のような大きな人になって欲しいです	

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒
氏名	A. Kさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	学費のことです。昭和20年7月疎開先で戦災にあいすべてを失い、入学当時（28年）は少し落ち着いてきたとはいっても、一介のサラリーマンの父に頼っている生活はたいへんでした。夏休み中アルバイトをして後期授業料を納入しましたが、勉強出来ることよりのあふれた日々でした。恵まれていたのは父の勤務先がアルバイト先だったことです
3. 本学を選んだ理由	私の学んだ高校の裏側に縄文土器のかけらを出土する場所があり、指導してくださる先生の母校である大学で考古学を学びたいと思っておりました。両親も進学することには賛成してくれましたが、家政系がよいという意見で高校の担任に相談。先生の卒業校家政大に決めました。高校時代、家庭科系の学科を選択していなかったので不安もありましたが、この道に進むことに納得したのですからがんばろうと決心しました
4. 入学のときの希望や夢	希望する学部ではなかったけれど、両親ともよく話しあって納得したことなのでしっかり学ぼうと決心しました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	緊張していたことのみです
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	被服科はいつもいそがしく製作中の作品の入った大きな箱をかかえて歩いていました。前夜、徹夜に近い時を過ごしても「水曜講演」だけはかかさずに出席しノートもとって居りましたのに今何も思い出せないのです。でも学長先生のお話に深く感銘し心の糧となったことはたしかです。先生の講演は私のものの考え方、生き方に影響し今も生き続けていると思って居ります
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	おだやかな静かなお話ぶりで包み込まれるような感じを受けました。青年心理学の講義の時、前後のことは覚えていませんのに、ふと一瞬、間をおかれて私達学生を見渡され「こどもは大人のひながたではありません」とおっしゃったことだけ、なぜか鮮明に覚えております
8. その他の行事に関する思い出	① 卒業の時いただいた若草色の一輪ざし、今も大切に使っています ② 当時、教室が校内に点在し教科ごとに移動していました。あの日、和裁の研究室と教室の近くを友人4～5人で清掃

8. その他の行事に関する思い出	<p>をしていた時、声をかけられ草とりをしていた私がふりむくと学長先生が立っていらっしやいました。何をお話したのか、にこやかなたのしいひとときと記憶しております。おいそがしい合間に出来るだけ学生達と親しく会話したいとの先生のお気持だったとしのべられます。昨年12月新聞の夕刊、谷川俊太郎さんの「12月の詩」あの日をふと思い出しました。「もう思い出せないことばはどこへ行ってしまったのだろう、とりとめのない話をしたあの日、ほほえみは目にやきついているのに、話したことは思い出せない」と。そんな文。50年以上の月日、学長先生のお姿ははっきり思い出すことが出来ますのに悲しくなります</p>	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	<p>希望していた教師の道にふみ出す時、理想として、どの生徒も平等の目で見つめ個々のよいところを見つけて伸ばしていけるよう指導と努力したいとはりきって歩み出しました。よく「ひいきする」ということばを耳にします。教師の中にも「好きな子、ダメな子」と差をつける人もいました。思い返してみると私にとってみんな愛すべき生徒達でした。今思うと私自身の考えではなく青木先生のお教えが深く心の中に根付いていたのですね</p>	
11. 学生生活の思い出	①つらかったこと 悲しかったこと	<p>青木学長先生との突然のお別れです。あの日校門の前で友人がかけよって来て知らされました。今日は全て休講とのこと。でもとても帰る気持になれず和裁教室に行きました。どんなことを話し、何をしたのか。遠く過ぎ去ったかなしい朝でした</p>
	②嬉しかったこと	<p>中学高校時代もよい友人に恵まれ、今も会っておりますが、大学時代に出会った友人とはお互いに伴侶共々、旅行や家に泊まったりとたのしく過ごしています。うれしく思います</p>
	③他の思い出	<p>卒論で織物の樹脂加工をテーマとしました。指導してくださった東先生の研究室が大岡山の東工大でしたので通いました。ある日(夏)学校見学に見えたらしい父と子が「この学校にも女子学生がいるのですか」とほんとうにおどろいたらしい大声をあげ、あわてて違うことを話しました。今では女子学生がどこで学んでも、又男の家庭科の先生もいらっしやるとか、50年以上前のこと、なつかしく思い出しました</p>

1 2. 他の先生の思い出	松井和哥先生です。和裁の指導はきびしく何度もお直しお直しをくり返し、「そう、きれいにできました。よろしいでしょう」とおっしゃったあと必ずよく努力しましたねとほめてくださいました。私も生徒達をほめることは忘れず実践してきたつもりです。和裁の教材は全て母の衣類の仕立て直しでした。訪問着だったか帯だったか、ある日皆さん集まってください、と先生が私のところに皆を呼んで「これがほんとうの昔の金糸です」と示してくださったのです。いつも古いものばかり縫っていた私に対しての心づかいだったかと思います。後年母が「物もなくお金もなく、あなたに一番苦労させた（4人姉妹の長女）」とよく言いましたが、私はみじめなことは少しも感じなくて、学ばせてくれたことに感謝しています
1 3. これからの大学・短大に期待すること	卒後50年の会に出席させていただき、元気で明るくはなやかな学生達に会いました。50余年前、理想の学園を築こうと努力なさった青木学長先生のこと語りつないでほしいと思います。私達の通ったころからみるとすばらしく発展して、うれしくほこりに思っております
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	資格を生かして全世界にはばたいてほしいと願っています
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	お手紙をいただきました後、これほど青木学長先生を身近に感じた日々はなくお会いしたい思いでいっぱいです。先生の教えを糧として生きてきた年月のこと、お話したいです。あのあたかなまなざしで、ゆっくりうなずいてくださるでしょうか
<p>別紙：</p> <p>（関根）先生からのお手紙をいただきまして久しく思い出すことなく過ごして参りました。学生時代のこと、青木学長先生のこと、全て忘れてしまった思いでした。けれども日がたつにつれ、いろいろなことがよみがえってきました。大切に持っておりました青年心理学の本もたしかに学んだという証の傍線や丸印がつけられて残っておりました。先日北方健三さんが「死生観なんです、生き残っている者ができることは忘れないってこと、忘れない限り死んでいない」と書いていられましたが、私もいつも覚えている人がいる限り、死んだとはいえない、生きていると思っていました。先生からのお手紙で青木学長先生は私の中に生き生きとよみがえりました。ありがとうございました。</p>	

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒
氏名	S. Yさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	帰省の際の列車事情が悪かったこと。夜8時の夜行列車に乗るために午後2時ごろから東京駅の構内で並びます。並ぶのが少し遅いと、長時間並んでも席はなく通路に新聞紙を敷いて座ることになります。とくに暑い夏は大変でした。寝台車は指定ですの席がとれば並ぶ必要はないのですが、私にはぜいたくな感じで寝台車などは考えもしませんでした
3. 本学を選んだ理由	<ul style="list-style-type: none"> ・入試科目に英語がなかった（高校は家庭科であったためカリキュラムに英語がなかった。転科希望を申し出たが、横すべりはだめで再度受験が必要であった） ・高校の先生に東京女専の卒業生がおられた
4. 入学のときの希望や夢	勉強したい（高校家庭科の教育内容は殆ど家事裁縫であった。もっと一般教養を学びたいと思った）
5. 入学式の青木学長訓示の内容	覚えていません。申しわけないです。多分「愛情・勤勉・聡明」についても話されたと思います。この言葉は人としてのごくあたりまえの姿勢と思ってきましたが、私にほんの少しでもこれらが備わっているとしたら、4年間の家政大の生活の中で培って頂いたことが大きいと今更のように思います
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	愛情・勤勉・聡明に関するお話はくり返しお聞きしたように思います。うかうかと過ごした水曜講演の時間をもったいなく思います
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	渋みのあるお声、ゆったりとした口調、時にはきびしい表情で、大体はおだやかなお顔つきで話されました。ひそかにキューピーさんというニックネームをつけた人がいました（キューピーさんの目を細くして）
8. その他の行事に関する思い出	学生祭に関連した行事の時だったと思います。先生は語学力のない学生がいることを残念に思っていたのでしょう。「学問するには語学が重要だよ」とおっしゃったのを忘れることができません。大学4年間、被服製作に追われ結局英語すら身につけることはできませんでしたが（私は短大に入学。やっと父を説得して学部編入しました）
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	緑苑祭やその他の行事のさいの先輩方の親しみあふれる態度

10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	生徒に愛情をもって接すること。とくに指導困難校ではこのことは重要なことでした（教職についておりました）
11. 学生生活の思い出	被服製作に追われる毎日に疑問を持ったこともありましたが、実技の力は確実につきました。おかげで就職難の時に教職につくことができました
12. 他の先生の思い出	洋裁の早縫いで1番ではなかったですが、簡単な技法で効果をあげたデザインをほめて頂いたのがうれしい思い出です
13. これからの大学・短大に期待すること	「人を育てる」：愛情深く勤勉で聡明な人がらと、専門の高い実力を備えた人物を社会に送り出すことに、より一層力を注いで下さい
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	それぞれの分野でせいいっぱい勉強して力をつけて下さい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	先生のお話を伺いお人柄の一端にもふれることが出来たのは得がたいことでした。愛情・聡明・勤勉に感銘をうけて私の身内からは3名が家政大に進学いたしました。ありがとうございます。先生が亡くなられたあと御自宅の書斎の整理に2人1組で伺いました。私共はノート類の整理（そろえて収納）をお手伝いしましたが、大変な勉強家であられたのだと感じました

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒
氏名	O. Tさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	三鷹の兄下宿（大学1年のみ）（山手線内での経験談は省略）
3. 本学を選んだ理由	岡山の校長夫人の奥様が出身。確か卒業生もいた
4. 入学のときの希望や夢	岡山ー東京。あまりなく唯、親兄弟に進められて。時にはホームシックで岡山から通学しようと思った
5. 入学式の青木学長訓示の内容	申し訳ない。笑顔とやさしさのみ

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	(水曜講演等に対して) 自然に先生の言葉にひかれ、今の学生みたいにおしゃべりしない ・学生時代あまりこまかくは
	②内容	とても分かりやすい
	③感銘を受けた点	いやらしくない男性。さすが学長という感じ
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	バス声。もの柔らかく、やさしく、よく分る	
8. その他の行事に関する思い出	① ふと腹の笑顔	
	② 人を差別しない。学生の頭のよい・悪い、の差別なし	
	③ 楽しい学生時代。今でも笑顔と斜め坐りが印象深く残っている	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりを どういう点で感じ取りましたか	2年、白萩寮。トロッコが動く音、きたない寮。三木学長の肩もみ等(略)。学生時代寮長、その後舎監、葵寮。昼間は図書館、夜は舎監。退職後は岡山	
10. 先生の「愛情」の教えが どのように人生で生かされましたか	教えによって、思いやり、気配りベスト。(家政大卒業後、学芸大、東洋大学、明星大学での資格取得の略歴の記載があります)。都庁でも、これだけの大学資格を持っている人はいないと。これは青木学長の指導の根性。65才まで高校の講師。夜間中学の講師。感謝している	
11. 学生生活の思い出	すべての教訓。墓参の参列は悲しい。図書館勤務。阿部先生と。コンクリートで非常に寒かった。 昼間、図書館、夜、葵寮100人。たのしく夢中だった	
12. 他の先生の思い出	(教育実習の指導教員にまつわる話を省略)	
13. これからの大学・短大に期待すること	(母校に帰る日のバザーをめぐるエピソードの話を省略)	
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	・ 忍耐。笑顔 ・ 自己をみがく事	
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	ありがとうございます。おかげで姉弟2人、家政大に世話になりました	
別紙： ・ 皆血の出る思いで卒業論文作成したのです。他の大学のように論文を返却してもらいたい。資料としてどうしても必要なのです。 ・ 現在4つのボランティアをしながらがんばっている。		

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒	
氏名	O. Rさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	未だ経済的に大変で、私共は満州より引揚げてきたため父の職がきちんと定まっていなかった時期であり、東京まではとっていたが担任の先生の奥様が同大のOBですすすめられた	
3. 本学を選んだ理由	高3の時の担任の奥様が、同大OBで、家事、育児に全て担任の先生の期待通りにされていたので私にすすめられたと思います	
4. 入学のときの希望や夢	すばらしい家庭の主婦になりたい	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	入学式の時のお言葉は記憶にありませんが、とにかく若い時になすべきは、旅行と読書と云われたことが一番です	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	28年4月11日
	②内容	何だか、大学生になれ、自覚しなければと思って拝聴したように思います
	③感銘を受けた点	しっかり身につくよう学ばなければと思ったこと
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	静かに、そしてゆっくり、私共が一つ一つよく理解出来るように話されていました	
8. その他の行事に関する思い出	① 悲しいことですが、本当に心から尊敬させていただいた青木学長のお葬式（学園葬）で皆校庭に並びお見送りしたこと、本当に残念で悲しく思いました	
	② 本当に名実共に青木学長は、お会いする度に暖かさ、神様のような神々しさを感じ、本学園に進学してよかったと思ってました	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	今思うと、具体的にこの事がと人に伝えるような印象深い言葉は残っていないのですが、学園全体が青木先生を中心におだやかに幸せに過ごさせていただけに思いました	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	私は、本当は就職はしない、全て、良妻賢母になることをめざして、しかし一人娘なので、いざと云う時のために資格をもっていなければと思って進学したのです。しかし学校からの依頼で地元の高校（先輩が創立）に就職。生徒達へ色々な場面で伝えていたと思います	

1 1. 学生生活の思い出	私はこの度、緑窓会報の方に投稿させていただきましたが、幸福（現在）の原点は東京家政大学に進学し、学ばせていただいたことと書きましたが、上記の全てを体験させていただき、何がでなく、今日の幸せは全てです
1 2. 他の先生の思い出	私にとっては松井和哥先生の和裁の授業で、きせをかけるのに2ミリはだめで1ミリ半と云われ、おなおしをしたことです
1 3. これからの大学・短大に期待すること	県で3～4年毎にOB会が開催されますが、皆様やはり、すばらしい家庭生活を送っていらっしゃる、子育て終了後も生き生きと何かすてきなことに取組んでおられます
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	私共は、就職する時に、何時も云われた事は3年間はその職場を変えないことと云われ卒業し、実行しました。そのことはとても大切ではないかと考えます
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	本当に愛情、勤勉、聡明は忘れられない、先生の思い出で常に私に身につけているように思います

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒	
氏名	O. Nさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	東京・高松間の交通	
3. 本学を選んだ理由	先輩達の人格。教育への情熱	
4. 入学のときの希望や夢	美	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	28年7月10日
	②内容	高校の先生方へのご挨拶。親に対することも話されたと思います
	③感銘を受けた点	大人の女性としての生き方。いつまでも子供ではいけないナー、が感想でした

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	(同封の別紙による追加)	いつ、何のお話の中だったか忘れまして。「例えば道を歩く時、斜めに横切るような安直な行動は人間として恥ずかしいことである」「正々堂々と正しい道を歩むよう」私の在学中は、校内は斜めに行けば近い校舎が点在していました。いつも斜めに走っていた私はショックでした。今も斜めに横切ろうとして青木先生のお顔を思い出し思いとどまっています。青木先生は道の真ん中をゆったりと堂々と歩かれていました。靴はピカピカでした
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	柔和なお顔で淡々と分かりやすい言葉を選び静かに諭されました。染み透るようなお話に私達はうなずいていたように思います	
8. その他の行事に関する思い出	1～2年生の時、友達2～3人と池袋へ教材の布を購入するため出かけました。学長先生と町角でばったり会いました。先生は私達に近くの喫茶店へ連れて行って下さり、お茶を御馳走して下さいました。そして、いつもよりもっともっと優しい言葉でいろいろお話し下さいました。私の大学時代の最大の思い出です	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	いろいろな行事（キャンプファイアーなど）をして下さり、育てて下さったと思います。準備をされた方々大変だったと思います	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	先輩達の助言・導き。生徒指導。在職中（高校）、家政大の卒業生は地味だけど真面目に慎み深く勤務していたと思います。この校風は青木先生の教えが大きいと思います	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	寮生活
	②嬉しかったこと	学長先生と喫茶店へ行ったこと
	③つらかったこと	被服のお直し。おかげで生徒達に教えられました
	④悲しかったこと	夏休みになっても被服が完成せず帰省が遅くなったこと
12. 他の先生の思い出	三木先生の家政大の歴史	
13. これからの大学・短大に期待すること	風潮に流されず、愛情・勤勉・聡明な女性になってほしい	

14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	同上
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	ありがとうございました。大きく道をふみ外さず人生を終えられそうです

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒
氏名	F. Tさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	集団生活
3. 本学を選んだ理由	尊敬していた先生が内地留学していた関係で
4. 入学のときの希望や夢	技術を身につけて教育に役立てたいと!!
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	特に覚えていませんが、各教室に、誠、愛、智の文字の額がかかっていたのを今でもはっきり覚えていて、生活の信条にしていますし、実行する様にしています
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	先生の声や語りの口調は今もはっきり覚えていますが、具体的に表現する事はむづかしいです
8. その他の行事に関する思い出	一人一人と接して行こうと努力していらっしゃった様に思います。各学部の生徒やクラスの人達とお昼を一緒にして各地の話を楽しく引き出して会話を組み立てていた様に思います。緊張させない様に気を使ってしてくれた様に思います
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	愛といえるかどうかわかりませんが、お友達から教えられる事が多く、今も日々感謝しています
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	誰にでも平等に、と心がけているのですが

1 1. 学生生活の思い出	①楽しかったこと 嬉しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の終わりにキャンプファイヤーの集いがあった事 ・主婦の友の付録に私の作品が載った事 ・先生達の作品のお手伝いをした事などです
	②つらかったこと	辛かったことは覚えていません
	③悲しかったこと	学長が急におなくなりになった事です
1 2. 他の先生の思い出	どの先生の時間も楽しく、努力の毎日でした。何もかも覚えて身につけたかったです	
1 3. これからの大学・短大に期待すること	心豊かな人間に育ってほしい事。その心で人の役に立ってほしいと思います	
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	広く人の役に立つ人間になる事	
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	私は今も元気に働いています。朗らかに楽しく今も勉強しています	
<p>別紙：</p> <p>卒業してもう五十数年になります。答えになっているかどうかと思いながら書いて見ました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在もクラスのお友達とずっと続いておりますし、めずらしいものがあれば送ったり送られたりと、贈り物に今も友情を感じています。 ・在学中につらいと思った事や悲しいと思った事はありませんでした。作品にむかって誰にも負けまいと努力して、提出だけは何時も一番だった事を覚えています。 ・汚い建物のお教室でしたが、誠、愛、智の文字の額がかかっていた事はよく覚えておりますし、何時も自分の胸にもかけて心がけています。 ・子育てが終わってからは、お友達を訪ねたり、ご夫妻と一緒に旅行したりと楽しく過ごしましたが、今は体の都合もあり、お互いに電話だけのこの頃です。 <p>家政大の頃がとてものなつかしいです。思いがけなくアンケートの用紙に“ふれ”どんなに嬉しかったか。学生時代を思い出し、お友達をなつかしく思いました。</p> <p>ありがとうございました。遠い昔の事、多分お役に立ってないとは存じますが書かせていただきました。</p>		

卒業年	昭和32年：大学（生活被服）卒
氏名	W. Mさん (写真5枚、カード1枚寄贈)
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	父は私が7才の時病死。母が3人の姉妹を女手一つで育ててくれました。母は家政大の前身東京女子専門学校（赤門前の校舎）卒。叔母2人も母の後輩、私の先輩。寮生活で制限された生活でも私にとっては助かりました。育英会の奨学金、そして母に苦勞をかけました。被服科で材料費に特に苦勞をかけ木曾山かね（洋裁）先生もいろいろ便を計って下さいました
3. 本学を選んだ理由	母、叔母共卒業し、女性として1人立ち出来る様、手に職・技術をつけておく様、特に母は強調し、自分の母校に私を進学させたかった様です
4. 入学のときの希望や夢	親元を離れ、戸惑いがありましたが、これからは自分で自分の道を拓かねば・・・早く母に恩返ししなければの思いが強かったものです
5. 入学式の青木学長訓示の内容	緊張していて・・・入学式で講堂に入る時、先輩？が弾く「乙女の祈り」のピアノの中、ジーンとくるものがありました。学長のことば申しわけない、覚えていませんが
6. 一番印象に残っている感銘受けた水曜講演	<ul style="list-style-type: none"> ・一般教養で単位をとらねばならぬ、学習心理、青年心理。学長の話を聞く時席を前にとるのが競争でした。いつもお話しので心に響くものがあり、自分の心の中をのぞかれている思いがしました。卒業後、教育の世界に行く人が多いと思う。子供の心をつかんで、なぜ学ぶのか、人としてどう生きるのか？がわかってほしいという様なこと？ ・「愛情・勤勉・聡明」の生活信条。特に聡明はむつかしいな一と思いました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	やさしいおだやかなことばと声。ふわ～と包み込んで下さる雰囲気。父と早く別れた私にとってはまるで祖父の様でした。私の父も東京帝国大学卒業でしたから（S4年3月31日卒）
8. その他の行事に関する思い出	<ul style="list-style-type: none"> ① 学園祭、はじめての星空を仰ぎながらのキャンプファイアの炎を囲みフォークダンスで過ごした日。学長先生と共に!! ② 青木先生のご自宅まで友達と訪れ、ネーブルを頂きいろいろおもてなしをして頂いた数時間。ご多忙なのに私達をやさしく迎えて下さったこと。丁度親友が生徒（学生）会長となり私を副会長としていた事。S30年の春？新館の起工式前後？ ③ クリスマスには学長のサンタ。大きな袋をかついで皆にプレゼント。カードを大切にしていたのですが・・・。はじめて頂いた母の日のカーネーションのカード（同封しました）

9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	いつでも私達学生のそばにいらした様でした。学長先生の運転手、手塚さん？も私達と同年令。いつも心やさしく接して下さる・・・と話していました。ニコニコ顔で怒った顔を見たことない先生でした。その中にいつも「あっそうか!!」と心に残ることばが私にはありました
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	卒業後(昭和32年3月10日)、お昼の定時制高校(公立)4年、公立中学校33年、私立男子8年と教職に従事して来ました。種々家庭生活に恵まれぬ生徒がいましたが、“愛情”を持って接すること、ねばり強く、信念を持って接すること。語りあい励まし合い・・・そのうち心の中が理解できる。先生のことばを思い出していました
11. 学生生活の思い出	当時、T高より上京し受験番号7番の合格発表。寮生活は1部屋10名。レンガ造りの大部屋。各地からの友達、先輩と共に生活したこと。群馬の友達から教わった「北上夜曲」。レコード等で発表される前、郷里の人達の間で歌われていたのを教えて頂き皆でよく歌っていました。そして「君の名は」の放送、皆急いで8時までにお風呂を済ませよく聞きました
12. 他の先生の思い出	青木先生の娘婿とか、心理学の児玉先生の講義。早稲田大より大野先生の法学？当校宮下孝雄先生のデザイン学「国会の天皇陛下が座る椅子のデザインをした」とか・・・。三木先生の授業のはじめ“家政学とは”ではじまる独特の話しぶり。山下俊郎先生の児童学。ミラーから幼児の様子を観察したり・・・レポートを必ず提出の日々でした
13. これからの大学・短大に期待すること	私達の学生時代は人数も少なく、被服15～20名。食物15名、児童10名。皆和気あいあいでした
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を生かしながら、人の役に立つ人間になってほしい。本学の精神「愛情・勤勉・聡明」を根づかせてほしい ・現在の学生は本当に「苦労」「忍耐」を知らぬ人が多い。人間耐えて花を咲かす「梅」のようであってほしいと思う。そしてよくなかった過去をふり返らない!! それを土台に上昇を見なければと常に思う!! そんな人であってほしい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	いつも先生のお姿、声を思い出しながら自分なりにガンバッテ来ました。人を愛することはやさしいが愛されることはむづかしいですね。でも今現在あるのは先生のおかげ、感謝で一杯です

別紙：

関根先生からのアンケートを書きながら、過ごした大学時代、青木学長をはじめ諸先生を思い出し、乱文乱筆ながら一気に筆を走らせてしまいました。現在あるのも女手一つで育ててくれた母のおかげと感謝するのみです。母は明治40年生まれ、11人の弟・妹の一番上の子として育ちました。幼い時より祖母は「女一人でも生きて行ける力をつけておかねば!!」と、祖父・祖母の支えで当時の渡邊学園（東京女子専門学校）を卒業。父の急逝後は教師として私達を育ててくれました。自分の経験から私達3人の娘にも資格を取るよう、手に職を持つよう励まされて育ちました。母の妹2人（私から叔母）と私は母の母校東京家政大で学びました。殆ど大学時代の写真は整理しあまりありませんが、青木学長の写真、特に75周年紅白の幕の前の姿は忘れることが出来ません。その1ヵ月後急逝されたのですが……。私達は悲しみに包まれました。後任の学長の畑井先生からの卒業証書でしたが、畑井先生には失礼ながら、どれほど青木誠四郎の名でほしかったことか!! 先生との思い出は盡きることがありません。母の日のカーネーションの絵、そして写真。よろしければ関根先生の手元に置いて下さい。青木学長からは一杯、いっぱい思い出、そして生きて行く指針を頂きました。

- ① 生活科学科被服専攻。担任は松井和哥先生。青木先生と同様、将来教壇に立つならば生徒の手本となる様な服装、言葉、行動をしなければならない、といつも話して下さいました。和裁の仕立段階でみて頂くと「ハイお直し!!」のことばがある度「よし!! 今度は!」と再度みて頂きました。きびしさの中にもやさしさを痛感しました。
- ② 洋裁 木曾山かね先生。手芸 松垣静子、生田先生。宮下孝雄先生はデザイン・色は大体20年を周期として巡る。今でも合点!! と思う事があります。又国会の議場の天皇陛下の坐する椅子のデザインをなさった・・・とか。いろいろお話を伺いました。常吉先生の栄養学や食品学。山下俊郎先生の児童心理学。そして森田宗一先生、たしか家庭裁判所の調査官。青年の犯罪と心理? についていつも事例をあげて講義して下さいました。それぞれ諸先生の講座で人の心の中の複雑さ、そして大切さ。私の心に響くものばかりでした。“心理学”生きて行く上で、特に教師として大切なものだ!! とつくづく思いました。
- ③ 農村実習：群馬県のくろほ村? に行きました。農繁期のお手伝いです。田は少なく主にこんにゃくを生計にしていた村だったと思います。家事や乳幼児の世話をしたり・・・丁度この頃、春日八郎の「別れの一本杉」の歌が流行していて、くろほ村が歌の情景と重なり友達と歌いながらの実習でした。
- ④ 担任との小旅行：学園では春、新入生と共にどこかへ出かけていました。又担任と一泊か日帰りで研修旅行。時には箱根寮での研修有、又みちのく中尊寺の旅あり。秘仏の観音様を特別に拝見し、観音様の目にうめこまれたルビーの色、今でも鮮明に覚えています。いつでもどこでも見つめられている様で感動しました。
- ⑤ レンガ造りの兵廠跡の校舎：緑の木々に囲まれ1講義90分。授業の度、通路を行ったり来たり学生生活でした。心をいやしてくれる緑の空気。そして各地から来ている友達。寮での夜の語り。1人のボーイフレンドに書いてもらったレポートを皆でまわし、少しずつ表現を変えながら出したレポート。諸先生にやさしく支えられ励まされ過ごした学生生活でした。

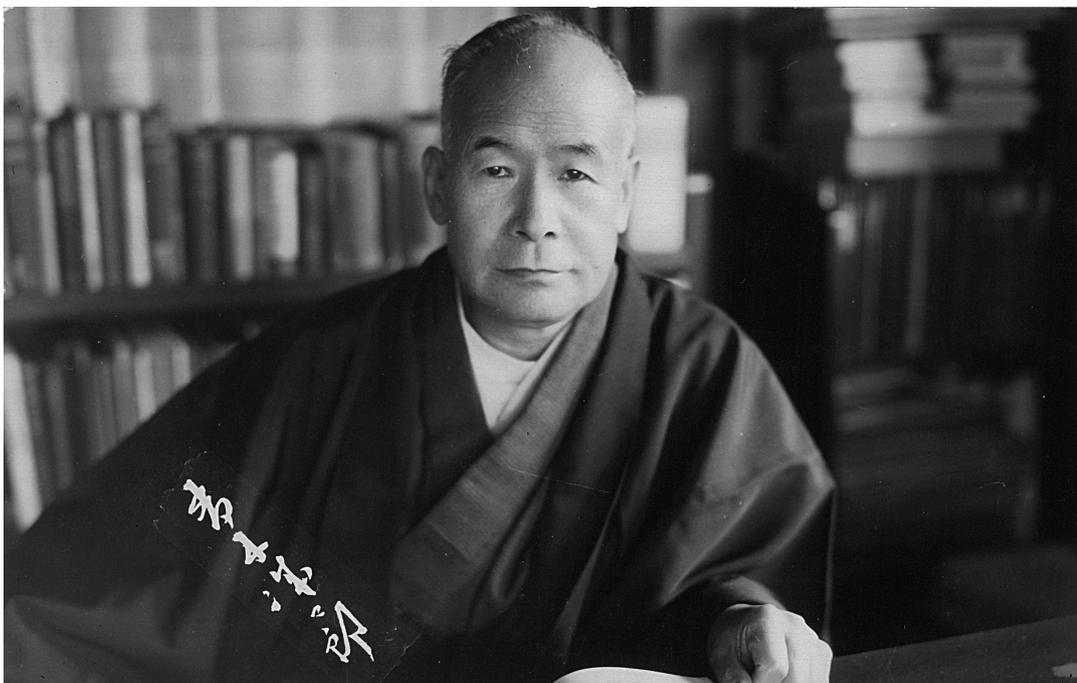
⑥ 青木誠四郎：私にとって先生は、私の生きる道、生き方を教えて下さった、忘れることの出来ぬ先生です。女世帯の中で育った私にとっては先生の言葉一つ一つ、講義の一つひとつ、女性の生き方の指針を示して下さいました。日本人の半分は男性、半分は女性。いや女性の底力の強さ、これからの日本を築いて行く上で、女性の教育、これは絶対大切なもの・・・いつもお話しなさっていた様に思います。私も同感することが多く、これからも言葉は悪いですが、戦争中体験した銃後の守りみたいな気にもなったことがあります。苦しみをどう乗り越えるか。勤めていてもいく度もうヤメよう!!と思ったことか。でも先生の柔軟な言葉と姿が浮かんで来ていました。心の奥深く、すべてが私には大切な先生の言葉でした。あこがれの男性、初恋の男性の様でした。そしていつも亡き父の面影と重ねていました。近よりがたい大先生のはずですが、何かの糸で引き寄せられる様な存在の先生でした。

⑦ 私の現在：すべて職とも別れ、現在はカキクケコを目標にしています。カ（感動）キ（興味）ク（工夫）ケ（健康）コ（恋）。過去の悪さをふり返らず前向きで・・・いつか老（土にかえる日）を待つのみです。

先生のアンケートのおかげで過ぎし日々を思い出し、家政大学は私にとって本当に素晴らしい学び舎でした。板橋の学舎を訪れすっかり変わった大学を見ながら当時を思い浮かべ、なつかしさが一杯になります。時代と共に大学の様子は変化しますが、心の教育の場であってほしいと思います。戦後の時代を生き抜くのに毎日毎日が必死でした。自分の生活は自分で築く。今あるのもいろいろの苦難を乗り越えて来た何か強い力があつた、これも皆教わった周囲の方達のおかげと感謝しています。先生が偉大な青木誠四郎の資料を集めていらっしゃるとの事、あまり役に立たぬと思いますが、先生と共に過ごした写真を御手元にお届けします。お納め下さい。



「はじめてのキャンプファイヤー」



「自宅書齋での青木先生」

～ 前頁及び上記写真、昭和32年卒（生活被服）W. M様提供

昭和33年 大学卒業

卒業年	昭和33年：大学（生活栄養）卒	
氏名	S. Mさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	まだまだ食料の不足していた時代で、寮では外米のご飯で私は田舎から上京して三日間そのご飯がのどを通らなかったことを思い出します	
3. 本学を選んだ理由	母がどうしてもと云って入られました。私は医学部志望でしたから・・・	
4. 入学のときの希望や夢	三年生になったら医学部に入れるという希望を持っていました	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	いつもおやさしい先生だったと云う思い出。学長室で合唱団についてのお話をしたことを思い出します	
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	とてもおやさしい方でいつも笑顔で私共に話しかけられておられました	
8. その他の行事に関する思い出	卒業の時に一人一人に自筆でやさしいおことばを書いて下さったことと共に一人一人にすてきな花びんを下さいました。今でも持っているはずです	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	やさしい心を学びました	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	私は卒業後教員として42年間務めて来ました。42年間ただただ真じめに愛情をこめて生徒を育てて来ました。おかげで最後まで担任を希望し教頭や校長になることをこぼんで来た私が東京都の産業教育で表彰を受けました。すばらしい生徒達が沢山で、50才になったあるクラスでは毎年のように同級会をして私をよんでくれます	
11. 学生生活の思い出	①嬉しかったこと	合唱団の部長をしている時に付属の高校から鈴木朋次郎先生をお願いして、コンクールで二位をとりました。その時、とてもうれしかったことを思い出します
	②悲しかったこと	青木先生がお亡くなりになられた時、とても悲しくつらかったことをおぼえています

1 2. 他の先生の思い出	倉田先生が担任で卒業旅行にごいっしょに行きました。先生は目のご不自由で金沢に着いて市内をまわる時にみんな行ってしまって、私一人で倉田先生とごいっしょに歩いたのを思い出します
1 3. これからの大学・短大に期待すること	家庭科教育をしっかりと守ってほしいと思います。教員生活をしていて、毎年家庭科の時間数が少なくなっていくのがくやしくて、私は校長に何と云われようと私は自分が務めているうちはへらしませんとがんばりました
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	生徒達は被服など物の製作について、かならず買った方が安い、なんでこんなもの作らせるのか、と云いますが、出来上がった時にはみんな笑顔で満足そうに、その後は物の製作が大好きになります
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	私は家庭科教育の中でしっかりと先生の教えを守って来たつもりです

卒業年	昭和33年：大学（生活被服）卒	
氏名	T. Sさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	三木テイ先生に大変お世話になりまして白菊寮で、充実してとても楽しく過ごすことができました。寮生活は本当に満足しておりました	
3. 本学を選んだ理由	高校の校長先生が本学の卒業生でいらっしゃったので家政大学に進学するようご指導下さいました	
4. 入学のときの希望や夢	高校の家庭科の教諭になるためがんばりました（赤羽中学に教育実習に行ったことを思い出します）	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	笑顔のすてきなやさしい学長先生だなあと今思い出しますが、内容は昔のことなので忘れしました	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	大学1～2年生の一般教養の頃
	②内容	愛情、誠実、等についてのお話しの内容について感動した事を覚えています

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	③感銘を受けた点	人間に対して平等な考え方をする基礎、基本というものについて、今も学んだことが生活の中に生きています
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等		いつの時も、静かなほほほほ笑い。語りかけて下さるようなていねいな口調。今も忘れることは出来ません
8. その他の行事に関する思い出	① 母の日にはカーネーションを学長先生ご自身でハガキに描いて下さり、故郷のお母さんに送りなさいと、みんなに下さいました	
	② クリスマスのカードも一人一人に手描きのものを下さいました	
	③ キャンプファイヤー。寮にも顔を出して下さい、にこにここと本当に温厚な偉大な学長先生でした	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか		学生とよく一緒にいらっしやいました。呼びとめて、いろいろお話しも聞いて下さいました
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか		高校の教師生活33年間。青木学長のお言葉の数々。行きづまった時にはかならず思い出しておりました
11. 学生生活の思い出		白菊寮の生活は本当に楽しいでした。門限が早く少し不自由でしたが仕方のない事です。鉄の階段を昇り降りしてお食事の部屋に移動したのもなつかしい思い出です
12. 他の先生の思い出		松井先生の和裁の授業がととてもすばらしかったです
13. これからの大学・短大に期待すること		社会にどんどん進出してほしいと思います
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと		卒業しても母校をいつも大切にしてほしいと思います
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと		先生のご人格にふれることが出来、幸せだったと思います

卒業年	昭和33年：大学（生活被服）卒
氏名	H. Jさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	食物が少なかったこと
3. 本学を選んだ理由	祖母、母が卒業生であったこと
4. 入学のときの希望や夢	教師になること
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	感銘を受けた点：やさしい美しい心を持って
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	カバさんのような感じ。やさしい方でした
8. その他の行事に関する思い出	① カーネーションの絵をいただきました ② 寮長をしていましたので、弔辞をのべました。青木先生とやき芋をして食べたことを話したように思います
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	農村実習を思い出します
11. 学生生活の思い出	質素でしたが、青春を楽しみました
13. これからの大学・短大に期待すること	渡辺辰五郎先生から教えを受けた祖母は、「国粋礼法」を著し、生徒のテキストにしました。明治36年、H学園を創立して今日に至っています
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	日本人の心を大切にして礼道の精神をしっかり守り実践することです。経済至上主義になりすぎています。創立の原点、裁縫道は礼道だと思います
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	小さな幸せを大切にしています。青木先生の愛情のおかげです

卒業年	昭和33年：大学（生活被服）卒
氏名	S. Aさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	鳥取県からの上京でしたが、姉と二人で生活していましたので、特別に食料を送ってもらいました
3. 本学を選んだ理由	私の叔父が青木先生を知っていて、あの大学ならいいから行けと言われて受験しました
4. 入学のときの希望や夢	服のデザインの仕事が出来ればと思いました
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	何年生の頃、何月頃：昭和30年～31年頃のこと
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	先生はゆっくりした口調で、愛情のある親しみやすい感じでした
8. その他の行事に関する思い出	① 昭和30年の母の日に青木先生からカーネーションのカードを頂きました。母に送りまして、亡くなってから針箱の中にあるのが見つかりました。懐かしく思い出しました ② 又夏休みの前日にはキャンプファイヤーを楽しみました。楽しかったです

卒業年	昭和33年：大学（生活被服）卒
氏名	U. Kさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	入学後、寮でお世話になり特に苦労もなく充実した毎日でした。経済的な面で親は大変であったと思います
3. 本学を選んだ理由	母親が専門のころの卒業で、母自身も家政大なら行ってもよい・・・ということでした
4. 入学のときの希望や夢	教師になりたいと幼い頃からの夢でした。家政大のお蔭で卒業後は教壇に立つことができました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	勤勉・聡明であれ・・・といった内容だったように記憶しています

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	1年。夏休み前頃
	②内容	心配している親に対して孝養をつくせ
	③感銘を受けた点	茨城の北部の山村出身でしたから、大学に出してくれた親には感謝しています
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	割合に低い声で、ゆっくりお話をなさっていたと思います。想像力を与えて下さったと思います	
8. その他の行事に関する思い出	個人的にはお話をする機会などありませんでしたが、学内でお目にかかる青木先生はいつもにこにこなさっておいででした	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	学園全体が思いやりのある方々が多く、安心して生活していたと思います。青木先生のご指導の賜物でございます	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	高校生と接していた現職の頃、私が教えた生徒の大半が、先生ってほんとうに「優しい先生だ」と云われていましたが、これも青木先生のご指導の賜物でした	
11. 学生生活の思い出	寮でお世話になっている頃、同室になった先輩(赤松(現・久保)麗子様)がとてもよい方でした。家政大に来てよかったと、一番うれしかったことです。久保先輩は卒業後、青木学長室(秘書)に残られました	
12. 他の先生の思い出	次の先生方、懐かしく思い出します。児童科の山下先生、和裁の松井和哥先生、赤池照子先生	
13. これからの大学・短大に期待すること	これまでのように人間教育に力を注いで下さい。家政大卒の茨城県内の家庭科の教員は非常に評判がよいのです	
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	さすが家政大の卒業生といわれるようにいろんなことを学んで下さい	
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	間もなく75才になりますが、青木先生のお陰で自分なりに充実した人生でした	
別紙： 青木先生は私たちにとってほんとうに忘れられない先生でした。調査結果出来ましたら是非お送りいただけませんか。		

卒業年	昭和33年：大学（生活被服）卒	
氏名	I. Mさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	敗戦後の復興もまだまだ進まない状況の下で家を離れて、而も女性が4年制の大学へ進学するという事は、経済的にも精神的にも大変な事だった	
3. 本学を選んだ理由	<ul style="list-style-type: none"> ・父が学者であり、教育者としての青木先生が学長である本学に娘を進学させたかった ・女性として自立した人生を歩みたかったため。又自分はそれ程ではなかったが、母が技術をしっかり身につける事が女性にとって大切だといいきかされた 	
4. 入学のときの希望や夢	男性と同じような4年制大学を卒業し、将来は社会的にも1人前の職業人として自立したい	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	各自、本校の学生として自分なりの目標を持って地道に着実に学問の道を追い求めていってほしい	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	大学2年の秋、10月頃
	②内容	自分の人生は自分で創造していくものであって、人のまねをしたり、誰かといっしょに作っていけるものではない
	③感銘を受けた点	2年生でまだまだ一般教育科目が多く、特別に勉強しなくてもある程度の成績がとれた。でも青木先生のお話から「そうだ」と自覚し、毎週土曜日の午後は図書館へ通ったり、実習室を使用させて頂いたりして勉強しはじめた
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	静かな口調・やさしい表現・具体性のある話題が多かった。それでいて理論的で分かり易い講話が印象的だった	
8. その他の行事に関する思い出	① 学友会で役員をさせて頂きました。学生祭のころは学長室でおいしい紅茶とお菓子で慰労して下さいました	
	② 又、三木先生が学生部長で舎監でもあられましたので、学長先生の車に学友会の役員4~5名(?)と三木先生、青木先生とご一緒に箱根にドライブに連れて行って頂きました。本当になつかしい思い出です	
	③ 校内で授業の移動中、青木先生と偶然お会いしても、いつも笑顔で対応して下さい、日常生活のことや授業のことでお話が出来た事も忘れられません	

9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	「人に愛を与える事の出来る人は聡明でなければならない。人間的な魅力がなければ人を愛する事は出来ない。聡明さは勤勉によってつくられるものであり、根底に謙虚さがなければいけない」こうした考え方が学園の雰囲気にあったためでしょうか。寮の生活でも授業中の態度にもみられた様に思います
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	38年間、県立高校の教員生活を送りましたがどんな貧しい、成績の悪い生徒にも平等教育をとという信念を持って過ごすことが出来ました。これも青木先生からの教訓のような気持ちを抱いています
11. 学生生活の思い出	当時、被服専攻者は30名定員だったように思いますが、家庭の事情や学力不足での退学者もあり、28名位で卒業したように記憶しています。短大の人たちと違って、大学の看板なのだからと先生方もおっしゃって、キメ細かな指導をして頂きました。実技面（洋裁、和裁、手芸、染色・・・など）が普通高校から進学した者にとっては負担で、放課後や土、日を使って大変だったと記憶しています
12. 他の先生の思い出	寺田商太郎先生「商品学」担当。織物は夫婦と同じ。たて糸が夫、よこ糸が妻。この2種類の糸の打ちこみが大切なのだ・・・というお話は今だに印象的です
13. これからの大学・短大に期待すること	大学の特色がどこにあるのか、よく分らなくなってきました。伝統と歴史をふまえ、もう一度、大学の特色を明らかにしてほしい
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	<p>① 将来の自分の生き方をきちんと設定し、目的意識を持って学習する</p> <p>② 情報化の中での活字離れが進行していますが、やはりキメ細かい学習には読書が大切だと思う。読書し、内容要約する学力を持ってほしい</p> <p>③ 豊かな人間関係を保持しながら、自律した女性を目標にしてほしい</p>
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	人を愛する事の出来る人は自分を愛する事も出来るのですね
<p>別紙：</p> <p>高校の教員を退職してから14年も経過していますが、今だに現場の家庭科の先生方の研修会にかかわったりして忙しい生活です。そうした機会にいつも残念に思いますのは、母校の卒業生で教員採用試験に合格しないことです。どうぞ優秀な学生さんを静岡県の高校の家庭科の先生に送って下さい。母校の発展を祈念いたして居ります。</p>	

卒業年	昭和33年：大学（生活被服）卒	
氏名	I. Yさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	自宅よりの通学が条件でしたので2時間の時間に始めはいらいらいたしました（横浜からの通学です）	
3. 本学を選んだ理由	両親が信州の出身で有り、兄が旧松本高等学校より青木学長の大学で後輩でありましたので、家族で尊敬申し上げておりました	
4. 入学のときの希望や夢	私は中学高校の横浜のミッション・スクールで教育を受けておりましたので大変不安でした	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	愛情溢れる聡明な教育という言葉が私の心にのこっている様に思われます	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	30年10月14日、30年12月
	②内容	問題のないところに進歩がない
	③感銘を受けた点	常に曲がり角に立った時、この言葉を思い出し自分なりに生活していたと感じております
8. その他の行事に関する思い出	五十年前の事ですが、昨日の様に思い出されます。旧緑窓会館の日本間の部屋で丸く座をとり、皆様で御話出来た事を幸せに感じております	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	常に少人数でのクラスの勉学に家族の様な語らいで、心配したり、喜んだり、怒ったりし合った様におもい出します	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	家政大学の先輩の方々と親しくおつき合いさせていただき、姉上の様に頼りにさせていただいております	
11. 学生生活の思い出	三十人のクラス・メイトで私達クラスは古田助手（現五十嵐民子先生）を中心にととても楽しい穏やかな学生生活を過ごしました。和裁のオナオシに苦労しましたが、私の生活には大変プラスになっています	
13. これからの大学・短大に期待すること	校内だけで終らず校外に出て活動し、勉学していただきたいと思えます	
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	外国の人々と交わりの有る機会を作り、国際的な学生生活をしたいと思えます	

15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	再び水曜講演を御聞きしたいです。“ありがとうございました”
別紙：なつかしい学生時代を思い出させて下さりありがとうございました。水曜講演の朝の空気の中、上級生の久保麗子姉の背すじの通った姿勢でノートを片手に持たれ出欠席を執られ始められた雰囲気は他の授業が始まる時とは違った、すがすがしい気持で学長を御待ちしていたことを五十年ぶりに思い出し、とてもなつかしく、幸せを感じさせていだきました。ありがとうございました（久保姉とは今も親しくさせていただいております）	

卒業年	昭和33年：大学（生活被服）卒
氏名	U. Hさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	31年4月A短期大学から3年に編入し、単位の認定をしていただくのに、テスト・レポート等で大変でした。授業はほとんど下級生と一緒に受けていました。寮は15人で消灯が10時でしたので勉強が出来ず下宿もなく、3畳間の間借下宿でした
3. 本学を選んだ理由	姉が共立を出て高校教員であった為、自分も教員になりたく、短大の学長先生の母校を進められ編入することにしました。家政学の勉強がしたかったです
4. 入学のときの希望や夢	家庭科の教員になり又、塾でも開けたらと思っていました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	編入でしたので入学式には出席していません
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	高校教員として6年間勤め、その後、和洋裁教室を開き又和裁の職業訓練校として40年指導しています。生徒一人一人に合った指導をし国家検定2級1級、そして指導員試験に合格させています
11. 学生生活の思い出	四年生になり半分位の授業は同級生と勉強が出来、8人位の友達が出来、友達の仕立物のお手伝いもしました。授業がいっぱい、ゆとりがなく、編入でなければもっと勉強出来たのにと残念でした
12. 他の先生の思い出	和裁のコートが仕上がったので提出に行きました所、助手の先生に、これでは仕立方が違うので直しなさいと云われ、でも先生の仕立方ではきれいに出来ないと云っていました所、松井和哥先生がお見えになり、私のやり方より、この方がよいねとほめられました。それから工夫をするようになりました。

1 2. 他の先生の思い出	尾中明代先生も、作って来てと云っては諭され、休みの日に仕立て、学校に残すからと云われ、ベビー服一揃え製作しました。和裁洋裁の先生方には良くいただきました
1 3. これからの大学・短大に期待すること	今の家庭科教員は実技が出来ません。浴衣、ブラウス、スカート位は出来るようにしていただきたいと思っています。私は、浴衣が出来ない困ったと高校より云われ、被服を出られた先生なのにと思いながら、ボランティアとして1年間仕立てて、着られての指導に行きました
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	被服の方は、実技はもっとやって下さい。我国の民族衣装が空飛ぶ着物になり異国の地で仕立をする時代になりました。残念です
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	緑窓会報77号に掲載しましたが、H17年秋の叙勲で瑞宝単光賞。18年11月に県初代マイスターをいただきました。県のものづくりにも参加して指導しています。又検定委員、指導員の問題作成等もしています。東京家政を卒業させていただいたからと感謝しております。先生の講演に出席したかったです

卒業年	昭和33年：大学（生活児童）卒
氏名	T. Kさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	通学時間が長かった（往復4時間）のでキツかった。定期代もかさみ、親に負担をかけた
3. 本学を選んだ理由	伯母が卒業していたので親近感があった。試験科目に苦手な数学がなかったのも理由の一つ
4. 入学のときの希望や夢	出身が茨城の田舎だったので東京へのあこがれもあった。はっきりした希望や夢は持っていませんでした
7. 水曜講演の青木先生の声音、口調、表情、態度等	遠くから拝見しておりましたが、格式ばらず自由に話される様子を、エライ先生らしくないなどと誤解しておりました
8. その他の行事に関する思い出	学長との接触が殆どありませんでしたので申し訳ございません。ただ、学長付の助手をなさっていた児童科の先輩から青木先生の人となりなど折々伺ったことはあります

9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	アンケート用紙の9の項目を読ませて頂き、先生の生活信条を改めて胸にきざませて頂きました。今からでは遅きに失しておりますがお許しください
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	学長の私たちに対する深い思いを受け止めることもなく、うかうかと若い時を過ごしてしまったと反省いたしました
11. 学生生活の思い出	毎日の通学に追われて、あっと云う間の4年間でした。当時児童科は10名で仲良く過ごしました。今でも時々クラス会を催しお会いしております
12. 他の先生の思い出	お名前は忘れましたが、就職のご相談に行った時「永久就職をなさい」とにべもなく言われたこと。隔世の感があります
13. これからの大学・短大に期待すること	項目12番にもかかりますが、女性も仕事を持って一生を自分らしく生きるよう、学校でもご指導頂けたらと思います
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	前項13で申し上げました
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	先生の深い思いをうけ止められなかった不肖の学生でした。でもこれから（わずかですが）は先生の信条を大切にしたいと思います

卒業年	昭和33年：大学（生活児童）卒
氏名	T. Hさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	学生寮の朝食・コッペパン1ヶ・リンゴ1ヶ・牛乳1合だけ。私は横浜からの自宅通学。京急の大混雑。片道2時間要した
3. 本学を選んだ理由	出身高校では、A理系、B文系、C就職、D家庭に分かれ、親の希望でDコースに入り、保育の授業で児童心理を学んだ。先生の姪が本校児童科に在学中で、楽しい学生生活を過ごされていたので
4. 入学のときの希望や夢	入学前に山下俊郎教授の児童心理学と青木学長の青年心理学御著書を拝見して、早く聴講したく思いました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	「全国から選ばれた学生諸君は、仲良く自覚をもって、この時代進学を許された両親に感謝し、勉学にいそしむよう」です

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	二年生、5月4日
	②内容	義理・人情：道徳的に果たさなければならない義務。例えば、血の継がらない親子、友人間で務めなければならない礼儀
	③感銘を受けた点	(20才の誕生日に)結婚すれば、血族でない者同志、血族同様の関係となり、道理を心得る。互いに尊敬し合う等
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	先生はにこやかに、優しく、丸いお顔でバリトン系の響くお声です。お話されると、細い歯並びです	
8. その他の行事に関する思い出	① 学長室に一度だけ伺いました。お話は将来の夢や希望について。自分は職業婦人にはならず、卒業したら和裁の師匠宅に1年間通う約束で、親より四年生大学・児童科の許しを得た為	
	② 初めてのカーネーション・カードを受け取った時、サーモンピンクに近い色・手描きで、全員が頂戴して、びっくりしたり、大層感動しました	
	③ クリスマスのお祝いの日。先生はサンタさんの扮装をされて、大きな袋を肩にかけて現われました。あの笑顔は忘れません。皆も大笑いと拍手でお迎え致しました	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	山下ゼミ・三・四年生で十五人位、テキスト小公子原書、児童心理と母子の愛情等について。先生をパパさんと呼び昼食の時は、ドイツ語の歌集(先生作)で歌い、和気藹々です。又周郷先生は附属幼稚園で、幼児の椅子に座らせ、子供の気持ちになる等教えられた。周郷先生は最後の講義・池袋の喫茶店で人生論を	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	二十六才で見合結婚。夫の両親と義妹が居て、更に徳島の田舎からおば一様がいられ、賑やかに楽しく過ごせた。四人の子供は思いやりのある優しい人間に成長し、両親と自分の母の介護も出来ました。(義理から真の愛情へ)	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	農村実習の帰り、栄養科の友人が山形の御実家に一週間お招き下さった事。往路(同上)先生が途中谷川岳の温泉に7名をつれて行って下さいました。勿論費用は先生御負担でした
	②嬉しかったこと	農村実習では保育係。幼児の輪の真中でオルガンを弾き皆に喜ばれました。人の役に立つことが出来て大変嬉しかったです

1 1. 学生生活の思い出	③つらかったこと	幼稚園児、入試試験官になり、答えられない子供の採点
	④悲しかったこと	青木先生のご葬儀。初めて黒のスーツを着て、泣き乍ら行列しました
1 2. 他の先生の思い出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山下先生、宇留野先生、跡見先生。お見合いセッティングは御自宅で ・ 英語：先生は御主人の帰宅される時に洋服筆筒に隠れる由。 母性衛生：先生は白い手袋をはめて板書なさる ・ 卒業旅行で森先生が途中下車して、乗り遅れそうになり慌てました ・ 山下先生。NHK近くの店で栗ぜんざい・築地で寿司・銀座千疋屋フルーツパーラ馳走 	
1 3. これからの大学・短大に期待すること	心が広く、豊かな、優しい人になれますよう。本来なら親が育てることなのですが	
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	一般教育 (38)、教科に関する (96)、教職に関する (26)、体育 (4)、その他 (16)。学力低下が言われます。私は取得単位数(180)。専門科目は図書館に通い、予習した。その方が理解が早いです。74才の現状・出る杭は打たれる。人をねたまず、弱者にはいたわりを	
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	先生、本当に有難うございます。改めて、心より御礼申し上げます	



「水曜講演の風景」

～ 上記写真、昭和30年卒（生活被服）I. T様提供

昭和34年 大学卒業

卒業年	昭和34年：大学（生活児童）卒
氏名	K. Mさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	地方から上京。生活様式の違いに戸惑いあり（現在のようない情報社会ではなく）。寮生活を1年間経験、様々な人に出会うことができた
3. 本学を選んだ理由	<ul style="list-style-type: none"> ・児童心理を学ぶなら先生方（青木・山下・・・）がいらっしゃる学校＝あの時代は教授の魅力 ・両親として安心して送り出せる学校だったよう ・校風が派手でなく、少人数制。学びの場と捉えた
4. 入学のときの希望や夢	子どもの心の医者になりたい！
5. 入学式の青木学長訓示の内容	生活信条の話だと思いが定かではない。緊張と不安のなかですから
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	50年以上経っていて覚えていないがあの雰囲気思い起こす
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	ムーミンパパを思い起こします。自分が納得しながら語りかけるようなおだやかな口調
8. その他の行事に関する思い出	<p>① クリスマス時のサンタクロース(キャンドルを点したと思う)</p> <p>② 学園葬の時、皆々涙しました。ちょっと空虚な気持ちでした。2年生の12月ですからまだ近く親しくしていただけなかった</p>
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数制、特に児童学科は8、9人で和やかでした。他の上級生の方々、研究室の先生方との交わりがありました。昼休み(毎週水曜日、山下先生の指揮のもとコーラスがありました) ・農村実習があり農繁期の保育所、大変だったけれど満足感がありました
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	私が保育という仕事を選択したのも、惜しむことなく人を愛する、一人一人を大事にする精神が根底にあったからと思います。大学時代の友が今も支えています。温かな和やかな人間性が育てられていたのかもしれない
11. 学生生活の思い出	・クラスが少人数であったこと（先生方と親しく交わられた）

1 1. 学生生活の思い出	<ul style="list-style-type: none"> ・(次の項目と同一) 学園が自然体であり、教授の先生方のお宅までおしかけたり、喫茶店で先生を囲んでお茶をいただき話を聴くことも楽しい思い出 ・林立した中に小屋のような教室があったこと
1 2. 他の先生の思い出	どの先生方も個性的で人間的に魅力あり。その人間性に学ぶことが多かった
1 3. これからの大学・短大に期待すること	大学の特長は何かを問うてほしい。それが魅力であれば、青木先生の信条を改めてかみしめてみてほしい。誠実で品格（はやりですネでも）のある人間教育。以前実習生は真面目というのが家政大の看板でした
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	何故大学に来たかをいつも忘れないで（目標をもつこと）自立的な行動をすること。学ぶことをお互いに邪魔しないで積極的に学んでほしい。自分さがしの時期を大事にして下さい
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	有り難うございました。もう少し自分に自覚があったら先生の講話をしっかりと聴いたでしょう。でも、姿勢が通奏低音のごとく流れていますよ

別紙：

青木先生の講演録を拝見することができ大変感謝しています。素晴らしい大事な内容だったのだと、その時未熟な学生だったことを悔やみます。今、先生が生きていらっしゃったら、現状をいかがと思われるでしょう。遠い昔をこんな形で思い起こさせていただきましたが、50年も過ぎ具体的な記憶はありません。自分の生き方の底に流れている通奏低音かなと思います。関根先生が青木先生の夢・信条に着目され、学園の在り方を考察されること嬉しく存じます。あの時代から思うとどの大学も大きな組織、マンモス化しています。これは経営上仕方のないことでしょうか～。

学ぶ場・人間教育でなく就職のための大学になってしまった（3年生から就職活動？）。学ぶ、研究・追求、探究～自分の生き方、目標。こんな姿勢は、ゆっくりは許されない？育てられないのが現状でしょう。授業も大人数。単位さえとらせれば、になっているのでは？ 少人数で学生と先生が学び合う場づくりも工夫できないのかなと（きっとすぐ経営上！）。社会のあり方も大学側から発信できないかと（学生が学ぶ育つために）。大学時代皆々エスケープすることもスリルでしたからこんなことは言えませんネ。兵舎、弾薬庫だったという粗末で暗い教室、机、でも林の中に佇む小さな小屋はなつかしい。その時は希望に燃えて、地方から出て来て“こんな処？”と少々がっかりしました。その素朴なゆとり空間が心をなごませてくれたのではないかと。雨の日授業で移動するのは大変でした。今の学生の皆さんは、容認できないでしょう。ホテルのような生活を求めているのですから。

今、青木先生のようなきちんとした話をする、話せる人はいなくなった？話しても大勢の学生を対象にしたのでは聴くことをしないでしょ。一人一人が受け入れられる環境の中で先生と学生から学び合える場づくりがとても大事な時期に来ているのでは。

マンモス化の傘の下に少人数での学習の場の工夫を是非望みたいところです。どの学生も一人一人になると素敵なのですから。必然的に魅力ある人材づくりにもなるのでは。社会がガラガラしています。何か脱出して光を照らしてほしいです。自分達が少人数（もちろん全学生の授業もありましたが、専門的なことでは）で幸せな環境であったことに感謝しつつ。新聞に「大学・短大1年から就職考えて」が記載されていてがっかり。専門的な学生の時に学ぶことが沢山あるでしょうに。人生の歩みの長さを想うと20代前半の生き方を大事にしたいです。そのことが何かしら役に立ちますのに。

卒業年	昭和34年：大学（生活栄養）卒	
氏名	T. Cさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	大変と云う事はあまりありませんでした。困った事は、最初は皆んなとうまく話の輪に加わる事が出来ませんでした。寮生活は2年間でしたが、8畳1部屋に5人（富山、長野、高知、新潟）で楽しい時間を過ごしました	
3. 本学を選んだ理由	姉も家政大でしたし、又青森の支部長を務めていた先生も知り合いましたので、話を持ちかけられました	
4. 入学のときの希望や夢	希望・夢とは違うと思いますが、勉学もさる事ながら都会に行けると云うだけで胸が躍りました	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	学長先生の訓示は失念しましたが、講堂の内部は殺風景で薄暗かった様に記憶に残っています	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	寮生活2年間、部屋の人達は勿論クラスの仲間達も学長先生の講義の話題はなかったと記憶しております。学長先生の水曜講演の内容を拝見するにつけ、貴重な時間を持てる立場に居合わせながら何一つ聞いていなかった事が今更ながら残念でなりません	
1 1. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	一年の時はクラス全員で城ヶ島に出掛けたり、何をするにも一緒と云う感じでした。三年の時の栄養科は個性的な人の集まりで、夫々グループが出来、これも又楽しい思い出です
	②つらかったこと	つらかった事、悲しかった事は殆どありませんでした

1 2. 他の先生の思い出	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科学の宇留野勝正先生はユーモアのある方で、ある時鼻にマスクをなさっていたので（口ではなく）、尋ねましたら鼻風邪だと・・・こういう事がありました ・常吉勝先生は担任で、静かに皆んなを見守って下さった先生です。物静かな先生でした
1 3. これからの大学・短大に期待すること	昨年初めて母校を訪れ隔世の感を受けました。学生達は自分の進む先を見付け、やりたい事に邁進している様見受けられました。その様な環境を提供している学園に
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	卒業生の1人である事に誇りを感じました。研究の一助にもならない回答で申し訳なく思います。母校のご発展と先生のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	人間としての根本をテーマにして、お話し下さっていたのに一度も拝聴しなかったと云う点にお詫びする以外に何もありません

卒業年	昭和34年：大学（生活被服）卒
氏名	F. Mさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	鳥取県の片田舎の県立高校で47人中女子10人の受験クラスに在籍していたため、10人は家庭科を1時間も習っていないのに入学しました。被服の厳しい大学にそんな私が入ったので「おなおし」の連続で大変苦勞しました。貧しく質素な寮生活も今はとてもなつかしく良い経験になりました（6畳に5人の生活）
3. 本学を選んだ理由	東京女専（渡辺）としての歴史が古く、母が鳥取県で家庭科の高校教員だったことから家政科を選びました。母自身は私の1歳の時、父の戦死により未亡人となり、御茶ノ水女高師の特設科に入った者ですが、家庭科のことに関しては家政大が伝統的良い大学だと申しましたので受験しました
4. 入学のときの希望や夢	限りない探究心。目標に向かって前進すること。希望を失わないこと。自立すること。教員になること。直接、青木先生の温かいお人柄に触れ感動しました。郷里（鳥取県八頭郡（船岡？））の橋本博士（哲学者）との親交がおありになったことからお手紙を直接お届けしたこともありました。今思えばとても幸せで光榮なお使いでした

5. 入学式の青木学長訓示の内容	お話の柱は、愛情・勤勉・聡明についてのお話だったと記憶しています。なつかしく思い出します。呼吸の通い合う生のお言葉としてオアシスのように私に浸透しました	
(青木先生の思い出などの挿入文)	母の日に学生全員に直接御自分が描かれたカーネーションの絵をいただいたことです。先生のお心は私の人生に大きな感動を与え誠実に生きたいと心から思いました。ゆったりと慈愛に満ちた温かい表情でいつも学生をお導き下さいました。今もはっきりと脳裏に焼きついています	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	大学1年、2年(たしか3年の時御逝去になり畑井学長に代わったように記憶しています)
	②内容	1回1回は覚えていませんが、先生の生のお言葉はいつも温かくやさしく私の全身に浸透し幸せな気持ちに満たされました
	③感銘を受けた点	先生のお人柄。いつも学園内をにこやかに散歩され、お声をかけて下さったり、いっしょにスナップ写真に入って下さったりいたしました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	立派な学者であるにもかかわらず、全く相手にプレッシャーをかけることなく自然に語りかけて下さいました。温かくやさしいふうのおじいさん、お父さんという感じで、とてもとてもなつかしく涙が出る位もうお会い出来ない悲しみを覚えます	
8. その他の行事に関する思い出	<p>① 私は入学以来2年間「白菊寮」に入れていただいていた。食堂は白菊寮の位置より低く何段か地下にありました。大変質素な食事でしたが、時々先生がいらっしゃって寮生と同じ質素なお食事を共にして下さり親しくお話して下さいました</p> <p>② 私達は、日常生活の中に自ら下って親しくして下さいました先生と度々出会えたことを思い起こし、今更のように何と貴重で幸せな青春時代だったかを感謝しています</p> <p>③ 私も御縁あって1時期、宮下孝雄教授の研究室と東昇講師のお手伝いをさせていただき(昭和37年)、又三木テイ学長からの紹介でY高等学校に就職。39年間の現職を終え現在は年金生活をしています。教員時代、青木先生から受けた心の通った教えが私を貫いていたことは確かです。「教えることは学ぶこと」を実感しました。私の39年間の教員生活の柱として青木先生から受けた感銘は私の血となり肉となり私を支えたと思います</p>	

卒業年	昭和34年：大学（生活被服）卒
氏名	S. Sさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	姉の花嫁道具を見て自分は要らないので進学させてほしいと頼み実現しましたが、4年間は長く、今は亡き兄にたいへんお世話になりました
3. 本学を選んだ理由	高校時代の家庭科の先生が渡辺学園卒の方でその先生のおすすめです
4. 入学のときの希望や夢	勉強して教員になりたいと思っていました
5. 入学式の青木学長訓示の内容	女性は聡明であれと言われたと思います
7. 水曜講演の青木先生の声、口調、表情、態度等	おだやかな声で、にこやかにゆっくりとお話なさいました
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	4年間の学園生活、2年間の寮生活は楽しい思い出ばかり。友人との会話は善意の解釈がなされていたように思います
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	つつがなく73才になりましたが、4人の子供を育てる中で愛情・勤勉・聡明が心の基軸にあったと思います
11. 学生生活の思い出	卒業後51年を経て、細かいことは忘れましたが、青春時代を共にすごした同期の友と毎年、会をもっております。卒業式には東北の片田舎から両親が揃って出席してくれましたのは嬉しい思い出です
12. 他の先生の思い出	心理学。細かいことは思い出せませんが先生の授業は楽しみでした
13. これからの大学・短大に期待すること	時代の変革に遅れないことを期待します
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	品格を保って頂きたい。2009年のホームカミングデイに参加させて頂きましたが、学生さんは魅力的でした
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	平凡ですが御礼を申し上げたい

卒業年	昭和34年：大学（生活被服）卒	
氏名	S. Sさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	① 経済的に大変でした ② 部屋をさがすので苦労しました ③ 私は被服科でしたので教材を手に入れるのに苦労しました	
3. 本学を選んだ理由	青木学長の人間教育のすばらしさです。家政的な学問、技術を、すばらしい教育をしてくれること	
4. 入学のときの希望や夢	私達の時代はまだ進学をする生徒はクラスで2～3人位でした。自分の人生で何か技術をしっかり身につけて生きていきたいと考えました	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	入学式に、本大学はすばらしい教授が生徒にしっかり技術、知識、教養を教えるから4年間しっかり勉強すること	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	1年の教養課程で1年間学びました
	②内容	愛情、誠実について。成年に成ることはどのようなことか
	③感銘を受けた点	すばらしいお話しで、いつも心の成長に役立ちました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	先生には青年心理学を教えていただきました。教科書だけでなく、人間の心の教育、心の豊かさの大切なことをしっかり教えていただきました。家政大学に入ったことをほこりにもつこと	
8. その他の行事に関する思い出	① 入学して初めて母の日を迎える1週間前に青木学長が全生徒に自分で一枚一枚手書きでかいた一枚のカーネーションのハガキをいただき、これに感謝の心をこめて書いて送きなさいと手に渡された時は感動しました	
	② 学内でお目にかかると、いつも、元気でガンバッテいるか、と声をかけられたこと	
	③ 何かあったらいつでも学長室を訪ねてこいよ、という言葉をいただいたこと	
別紙： 東京家政大学に入学したころは、まだ女性の進学は数が少なかった所です。学部は一年生50人、短大生は200人でした。学部は2年生になると被服科、児童科、栄養科とわかれ専門教育に入って行きました。私の被服科15名位でしたから、一人一人の生徒の力を各先生方が良く知って、それは細かいすばらしい教育をしてくれました。		

- ・私は3年間学生寮に入って勉学をしました。その3年間に三木先生が寮監長をしておりましたから、人に迷惑をかけない、礼儀作法、大学の学生としての心の持ち方、お部屋の人数は4年生1人、3年生1人、2年生1人、1年生1人という配分でしたから、上・下の関係、友情、勉学への道などをしっかり教えていただきました。
- ・又青木学長の青年心理学の授業は席をとるのに大変苦勞しました。学寮にいましたからクラスの友達に席をとっておいてと云われ、授業1時間前から席とりに行った記憶が残っていました。
- ・卒業式に学長が、卒業したら各自それぞれの道を胸をはって進んで行きなさい、他大学に負けないだけの教養と知識と技術を教えたから胸をはってそれぞれの道を進むこと、この言葉を忘れずに40年間教師をすることが出来ました。私達が学んだ時代の教育方針を今も守っていただければ、うれしいです。

卒業年	昭和34年：大学（生活被服）卒
氏名	H. Mさん
8. その他の行事に関する思い出	カーネーションのカードを毎年いただき、どんな学生にも1枚ずつ。太陽のような先生と感じています
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	常に人生の理想としていましたので、このように生活できることを感謝していました
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	卒業後も生活信条として生活すればとても幸せでいられます
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	人を愛し、人から愛されることを何よりの幸せと感じる気持ちは、学園からのお教えと感謝しております
<p>別紙：</p> <p>わたしは、主人の退職10年前に、テニスコート経営を始める事について友人に、「自分にできるかどうか」相談したところ、「Y（旧姓）さんならできるわよ」と言ってくれたことで、信念と力と勇気をいただき頑張ることができました。「これも学園で培って下さった賜物と、とてもとても感謝しております」</p>	

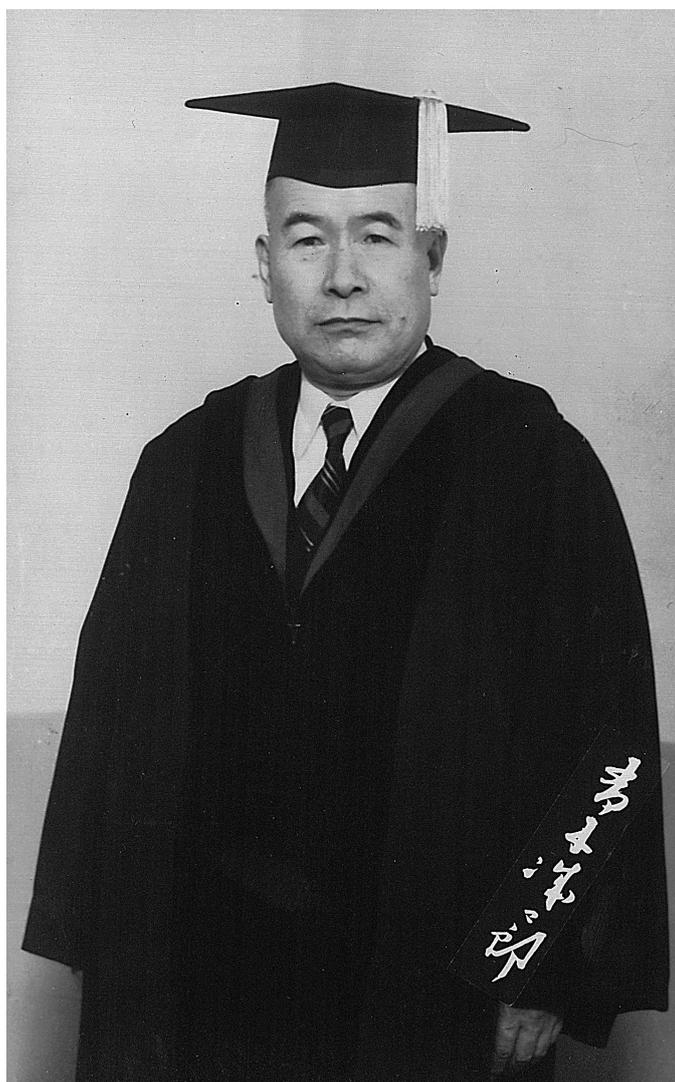
卒業年	昭和34年：大学（生活被服）卒	
氏名	S. Tさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	田舎から上京して寮生活で上級の人達にいろいろと学び、ホームシックになり淋しく、でもやさしくして下さってとても良かった思い出ばかりです（白菊寮）	
3. 本学を選んだ理由	高校の先生に推薦していただき、選ばれて良かったと感謝しております。現在も同窓会をしております。楽しんで続けております	
4. 入学のときの希望や夢	卒業したら自立して一人で生き、楽しい人生を送りたいと思っておりましたが（あの時は）	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	愛情、勤勉等、心豊かに努力	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	大学2年生頃か？
	②内容	生涯勉強。自分を忘れず頑張る事
	③感銘を受けた点	あの頃、お話等は説得力があり、私も理解出来ましたけどなかなか行動が出来ませんでした
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	先生は優しい口調でお話なされ、穏やかなお人柄で、誰からも愛される先生でした。親しみやすく私はとっても尊敬しておりました	
8. その他の行事に関する思い出	① 学生祭。夜のキャンプファイヤー。楽しく歌等で楽しみました	
	② 入学して自己紹介の時	
	③ 優しく声をかけて下さる。相談にのってくださる（意見も又考え方もきいて下さいました）	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	生きている事は心の支えがあり、人の出会いを大切に、愛する気持を持つ事を学びました	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	思いやり、優しさ、勇気、協力、継続	
11. 学生生活の思い出	① 寮生活でキャンプファイヤー、楽しかったです	
	② 外出の時、皆んなで珍しい事ばかりで驚くことがあり、珍しいものばかりで嬉しかったです	

1 1. 学生生活の思い出	③ 家に帰りたくて淋しかった事もあり（一年生の4月頃）、家族から離れて暮らす事、自分で全てしなくてはいけない（一年生の4月頃）。今思えば思い出だけ・・・楽しかったです
1 2. 他の先生の思い出	松井先生。丁寧に教えていただき感謝しております
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	心からありがとうございました

卒業年	昭和34年：大学（生活栄養）卒	
氏名	K. Kさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	年に3度北海道の故郷から上京、帰郷の移動（36時間所要）が大変でした。指定券もなく、ひたすら上野駅ホームで待つエネルギーは相当なものですが、只帰京の荷づくりは楽しみでした	
3. 本学を選んだ理由	私は栄養士の資格が取れば東京ならどこでも良いと考えていましたが、当時横浜に在学していた兄の知り合いの女専時代の卒業生が「渡辺なら大丈夫」のアドバイスをもらい父が決定しました	
4. 入学のときの希望や夢	栄養士になって栄養指導をすること	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	とても感動したことだけは覚えていますが、内容は全く記憶していません	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	昭和30年代と思います
	②内容	自分を中心に世界がまわっているのではない。母親の立場を考えてあげなさい・・・という主旨だったと思います
	③感銘を受けた点	カーネーションのカードは母親に送りました。私より母がとても感動して居りました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	それはとても優しく温かいお方にお見受けしていました。しかし語調・物ごしは柔らかくても私はその教えはしっかり守らなければと常に思っていました	

8. その他の行事に関する思い出	白百合寮で初めて女子だけの生活は貴重な経験でした。寮でのバス旅行の際、下手な唱を唄った私を1年先輩の方が覚えていてくれ、寮祭の時、私に唄う役割を与えて下さり、以来とても仲良くして下さいました
1 1. 学生生活の思い出	<p>① 田舎から上京し、東京で生活できたうれしさと、学校生活についてはほとんどマイナスのイメージは残っていません。夜中まで経過を見る実験で、寮から通ってビーカーやフラスコをのぞいたことも今では楽しさになっています。年に2～3度(1度かも知れません)の教室まわりの草取りの度、「雑草の生えない薬を作ってほしい」など言って草取りをしたことも楽しさになっています(当時既に除草剤は開発されていたようです)</p> <p>② 一番強烈に印象に残っているのが「農村実習」でした。当時、三木テイ先生は村の生活改善の一助にとおっしゃっていましたが、果たしてどこまで効果があったのか、村の方達のお邪魔をしていたのではないかと考えています</p> <p>③ 12～3年前の学部・3科全体のクラス会の際、当時お世話になったお寺をお訪ねして住職さんにお目にかかり色々お話を聞かせて頂きました。「ビルマの堅琴」の水島上等兵のモデルとなられた方ということを知り、何度かお便りを交換もさせて頂きました。1 昨年か昨年、亡くなられたこと新聞で知りました</p>
1 2. 他の先生の思い出	講師の先生で高橋先生の衛生学(?)はテンポも歯切れもよく非常に理解しやすかったです
1 3. これからの大学・短大に期待すること	余り間口を広げずに家政科のオーソリティになれるような学生を作ってほしい
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	見かけも大事ですが、中身にも時間をかけてほしいと思います
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	もう少ししっかり先生のお話を心に止めておくべきでした。勿体ないことをしてしまい申し訳ありませんでした、とあやまり、70歳になるまで県立高校で講師をさせて頂くことが出来たのも先生の教えが基本にあったからとお礼を申し上げたいです
<p>別紙：</p> <p>私事ですが、時間講師として(家庭科)神奈川県立の学校に70歳まで30年間お仕事をさせて頂きました。最後の数年は私の若い後輩が専任として転勤して来られ、計らずも旧交を温めながら仕事をさせて頂いたことを、大学があったらこそと感謝しております。</p>	

昨年のホームカミング日には卒業50年の最後の学年として参加させて頂き有りがたく思っています。お顔を存じている先生お三人がお元気な姿でしたので、やっと卒業生という感じが湧いて参りました（松井先生、多田先生、神野先生）。緑いっぱい、蚊にさされながら草取とりをした校舎を思い出しながら、どこかで家政大の名を目に耳にする度になつかしく思っていくことと思います。とても幸せな4年間でした。有りがとうございました。



「角帽とガウンを着用した青木先生」

～ 上記写真、昭和32年大学卒（生活被服）W. M様提供

昭和35年 大学卒業

卒業年	昭和35年：大学（生活栄養）卒
氏名	M. Fさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	初めての東京が楽しかった
3. 本学を選んだ理由	すべてが新しい生活で大人になった気分でした
4. 入学のときの希望や夢	何でも体験したい気持でした
5. 入学式の青木学長訓示の内容	講堂で座ってらっしゃるどっしりしたお姿を覚えています
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	一年生の頃、あおい寮に住んでいましたが、夜お菓子を買いに売店へ行きましたらパツパツお目にかかりました。私の肩に両手をずっしりおいて「何、買いに来た？」とおたずねになり、にじみ出るあたたかいお声とお顔を、肩におかれた両手を、今も青春の一コマとして忘れられないのです
11. 学生生の思い出	青木先生の急逝された夜、外出から帰った時の門の管理のおじさんの様子がおかしかったので何かあったと感じたことを覚えています。悲しいことはなく育ったので、とてもさびしい気持でした
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	沢山お話を聞かせて下さい。遊んでばかりいてすみません

卒業年	昭和35年：大学（生活栄養）卒
氏名	I. Kさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	社会全体、特に家政大学は質素で色々学ぶことが多く、たいへんということをおぼえています
3. 本学を選んだ理由	教育者養成に力を入れている学校
4. 入学のときの希望や夢	教師になること。健康と食生活（栄養）に関する学問を学びたい

5. 入学式の青木学長訓示の内容	学ぶことを楽しむ	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	寒々とした木造講堂、調子の悪いマイク、1年生の秋
	②内容	真の聡明さとは。
	③感銘を受けた点	後ろの方で聴いていない学生も居りましたが、真剣にかたりかけるように話されるお姿
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	他人に不安を与えない、親しみやすさ。布袋様のような太目、トボトボ歩き	
8. その他の行事に関する思い出	① 寮の質素な夕食時(?) よく噛むと味がわかり、多くの人のご苦勞を感じることが感謝の印に・・・	
	② キャンパス内の通路。寮に帰る途中、灰色がかかった紺のコートに重そうなカバン姿。先輩が、先生門までお持ちいたしましょう、と声をかける	
	③ ベニヤにトタン板の部屋のドアを開き、外の道路、青木先生のお姿を目にし大声で、先生!! ふり返って、授業はもうすんだか、と返す先生	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどう いう点で感じ取りましたか	先生方が身近に親しみやすく感じました。寮監の先生方(大学の助手、講師兼務)の草むしり、寮名の花(白ユリ、白菊、ふよう〜等々)が手入れよく、季節を感じさせておりました。尊敬できる先輩がたくさん居ました	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	ある短大の教授(最後の4年食物栄養学科長)として45年間勤務致しました。その間青木先生の足もとにも及びませんが、学生を大切に思う気持ちを持ち続けられたことでしょうか	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	クラブ活動、化学実験
	②嬉しかったこと	全日本大会で四国松山市に遠征した時、同窓会四国支部の大先輩が宿に応援に(さし入れも)お見え下さったこと
	③つらかったこと	栄養士の校外実習(8週間)で抜けた授業のノートうつしです
	④悲しかったこと	青木先生のお葬式!

1 2. 他の先生の思い出	先生方たいへん薄給でしたが教育熱心でした。キャンパスロードで哲学の先生に、当時話題になってました「太陽の季節」について雑談できました。文学の先生の「源氏物語」すばらしかった。以下、アダ名で申し訳げございません。 松井和哥先生＝おなおし、村上先生＝ベシヤメル（ホワイトソースが実技試験）、三木先生＝農村実習や寮でもエプロン姿に手ぬぐいの姉（アネ）さんかぶり
1 3. これからの大学・短大に期待すること	教育の難しい時代ですが、家政大気質（生活信条）守ってほしいです。しかし価値感の変化、否めず・・・無理なことかも知れません
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	人間として成長する生き方、学び方
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	申し訳ありません。お詫びの言葉しか浮かびません
別紙：なつかしく五十数年前にタイムスリップいたしました。	

卒業年	昭和35年：大学（生活栄養）卒
氏名	A. Sさん (写真1枚寄贈)
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	親元を離れ二人の兄と一軒屋に住み、炊事洗濯掃除等の毎日の生活が大変でした
3. 本学を選んだ理由	①独立した人間として専門を持ちたかった ②緑が多く校舎が離れ、のびのびとした環境が良かったから ③通学が便利で授業料が安かった
4. 入学のときの希望や夢	自立した社会人となること
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	申し分けありませんが覚えておりません。それでも同封していただいた水曜講演の内容に目を通しますと、すべて現在の私の生き方、生活の基礎になっていると思います。言われていらっしやる事は全く素晴らしい事だと思います

7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態 度等	とても静かな口調で話され、いつもにこやかになさっておられました
8. その他の行事に関する 思い出	先生と個人的な思い出は残念ながらありません。ただ一つの思い出が浮かびました。お手紙をいただいてすぐ、入学したばかりの時に県人会と称して、金沢文庫に出掛け、出身県別に分かれ、先輩達と一緒におしゃべりをしたり、県歌（信濃の国は・・・）を歌ったり、桜の花の下で学長を中心にして写真を撮ったりした事を思い出し、アルバムを持ち出して来ました。50数年前の事がとても懐かしく思い出されます。夫がスキャナーでコピーしてくれましたので同封させていただきます
9. 先生の愛情溢れる学 園づくりをどういう点 で感じ取りましたか	学生同志争うことなく、和気あいあいと生活していたことを思い出します
10. 先生の「愛情」の 教えがどのように人生 で生かされましたか	人間すべて平等。相手の身になって考え、愛し合うことの出来る人生を送りたいと思います
11. 学生生活の思い出	四年生の夏に群馬県に農村実習に行ったこと。農家に一人で住み込み、家族の一員になって生活したこと。沢山の経験をさせていただき、私の人生にとっても役立ちました。三木先生が途中で我が家に来てくれて、いろいろとお話をされたこと、今でもあの縁側が目には浮かびます
12. 他の先生の思い出	①担任の倉田先生と長野県の白樺湖に1泊旅行した時のこと ②図書館で沢山本を読み、先生といろいろな話をしたこと
13. これからの大学・ 短大に期待すること	健全な人間を育てること
14. 大学・短大の学生 達に最も伝えたいこと、 最も望むこと	素晴らしい家庭を作り、健全な子供を育てる、良き母親となって、豊かな人間世界を作って行って下さい
15. 先生にお会いでき るとしたらお伝えした いこと	有難うございました、と



「桜の木の下、青木先生を囲んで」

～上記写真、昭和35年大学卒（生活栄養）A. S様提供

卒業年	昭和35年：大学（生活被服）卒	
氏名	H. Sさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	寮生活でしたので自由がほしいと思いました	
3. 本学を選んだ理由	和裁や料理が学べるから、教師になりたかったから～	
4. 入学のときの希望や夢	立派な教師になる!!	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	先輩から聞かされた
	②内容	「愛」にオーラを感じました
	③感銘を受けた点	クリスマス会の為に、青木学長がサンタクロースになられた事
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	全てを包込むようなお人柄です	
8. その他の行事に関する思い出	① 母の日に皆さんにカーネーションのカードを下さったと伺いました	
	② 青木先生の学園葬に参加させて頂きました。学長先生のお人柄に感動致しました（全学生がお慕いしていました）	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	愛情・勤勉・聡明は今の私のビジネスに大変役立ってます	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	たくさんございます。人を育てる上に私の信条となって居ります。楽しいイベントが忘れられません	
11. 学生生活の思い出	学友会の役員をさせて頂き、大変活躍致しました。楽しかったです。3年で、学友会会長をさせて頂きました	
12. 他の先生の思い出	松井和哥先生に心から感謝致します。素晴らしい先生でした	
13. これからの大学・短大に期待すること	社会的にもビックな大学となってほしい	
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	若さは宝です。勉学に精進して下さい!!	

15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	青木先生にもっと健康でいてほしかったと・・・お伝えします
---------------------------	------------------------------

卒業年	昭和35年：大学（生活被服）卒	
氏名	S. Yさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	言葉（方言、なまり、アクセントの違いがあり、中々通じないことあり）	
3. 本学を選んだ理由	親が許可した唯一の学校でした	
4. 入学のときの希望や夢	自立できる知識技能を身につけたかった	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	1年生の5月？
	②内容	母の日にちなんでだったと思います
	③感銘を受けた点	具体的な言葉はわかりませんが、田舎から出て来て、初めて、母の存在を知らされた思いがしました
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	常に笑顔で一言一言わかりやすい口調で、学長先生と思えぬ親しみを感じた思いがします。最後に講堂の出口で一人一人にカーネーション（造花だったと思います）を下さいました	
8. その他の行事に関する思い出	4年間寮にお世話になりました。生活は中々厳しいものでしたが、今になって思えばそこで人間を育成してもらったと思います。月1回（もしかしたら年何回かも）の夕食会には学園の教授の先生方、助手の方々が一緒に参加下さり、楽しい会だったことが思い出されます。生活の基本を寮で学んだと思っています。上級生に感謝です	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	晴天の日はよく学長先生が建物の前に出られ、学生が通ると笑顔で声をかけられたり握手されたりしてる光景をよく見かけました	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	単なる自己満足かも知れませんが、卒業後教職につき、大島を始め4つの学校を渡り歩いて見て、人のつながりの大切さを感じています。見えない心、愛が人を育てるのだと痛感しています	

1 2. 他の先生の思い出	松井和哥先生：和裁で常にお直しをもらいました。このお直しが身について教職中は自分も常に出していました。学級日誌にまで書かれてしまいました 木曾山かね先生：洋裁の先生でとてもきびしく、しかられていました
1 3. これからの大学・短大に期待すること	豊かな人間性
1 4. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	誠実さ
1 5. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	感謝
別紙： 田舎者が何とか仕事をし、生活出来たことは家政大で学んだことが基になっていると信じています。昔の学園風景しか思い出せませんが、これからも見守って行きたいと存じます。	

卒業年	昭和35年：大学（生活被服）卒
氏名	A. Iさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	学費のことは心配せずともよし、家から通学することが父の条件でした
3. 本学を選んだ理由	父親が派手でなくいいだろう、ということで決めたような型になります
4. 入学のときの希望や夢	都内近郊の高校の教師になること
5. 入学式の青木学長訓示の内容	覚えておりません。記念写真を撮ったように思います。現在新築中にて仮り住まい、アルバムも手元にありません
別紙： ・・・青木先生は入学時の学長でした。アルバムが見つければいいのですが、授業を受けたことがあったのか、なかったのかも覚えておりません。一年の頃は自宅から二時間以上かけて通学していました。生まれた時から小学（国民学校でした）二年まで日本橋で育ち、戦時中のこと昭和19年縁故疎開で母方の実家（千葉県君津）で十数年、小・中・高とすごし、昭和32年頃日本橋に帰ったのです。卒業後、都内で就職出来ず、官庁に少し勤めました。つまらぬことを書きましたが、水曜講演の記憶が全くありません。	

卒業年	昭和35年：大学（生活被服）卒	
氏名	N. Yさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	九州大分からの上京で4年間夏冬の休みごとの帰省に長時間かかり大へんでした	
3. 本学を選んだ理由	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある学校であった ・母の卒業した学校であった 	
4. 入学のときの希望や夢	多くを学び、卒業後は自立したいということです	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	① 何年生の頃 何月頃	1年生の早いうちでしょうか
	② 内容	礼儀ということについて
	③ 感銘を受けた点	礼儀を守れば、そこには人と人との愛が生まれるというようなこと
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	温かなまなざしで、ふわっとつつみこんでくれるような風ぼうでした。父親のもとをはなれて間もない頃でとてもお話の時間はしあわせな気持ちになりました	
8. その他の行事に関する思い出	① 1年生の時だけのことであまり記憶にないのです。たぶん遠くからうらやましくてみていたのではないのでしょうか	
	② 先生のお葬儀にクラス代表で参列し、どんなにか先生との時間が少なかったことを残念に思いました	
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭生活の中で（子育て、親の介護） ②職業生活の中で（教育者として教え子を大切に育てられました） 	
11. 学生生活の思い出	①楽しかったこと	寮生活をはじめとして全国あちこちの人を知り多くの友人を得たこと
	②嬉しかったこと	被服科は課題が多く、完成に一苦労。せっかく東京に来たのに遊ぶ時間があまりなかった
	③つらかったこと	青木学長さんの急逝されたこと
13. これからの大学・短大に期待すること	学生も多くなり、人々の考え方も昔とはずいぶんかわったことと思いますが、「愛情・勤勉・聡明」をしっかり身につけて卒業できるよう教育していただきたい	

14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	じっくり勉強し実力をつけて卒業して下さい。教職についておりましたが、家政大卒業生はみな実力がありましたよ。それに忍耐力も
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	学園での生活信条は一生の生き方を通して間違いはなかったと思います。このことをほんとに感謝しています、と申し上げたいです

卒業年	昭和35年：大学（生活被服）卒	
氏名	Y. Kさん	
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	社会が安定していない状況時、下宿・生活費等親の支出が大変でした	
3. 本学を選んだ理由	高校家庭科教師の進めと寮がありました事も選択の一つでした	
4. 入学のときの希望や夢	自立した女性像でした	
5. 入学式の青木学長訓示の内容	50数年前の事ですので記憶にありません	
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	①何年生の頃 何月頃	31年5月頃
	②内容	挨拶と礼儀について
	③感銘を受けた点	愛と人のつながり
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	物静かな人格者でした	
8. その他の行事に関する思い出	私は31年入学です。青木先生最後の年の学生です。31年12月のクリスマス会で私は幸運の人No. 1に選ばれまして学長のプレゼント（タータンチェックのマフラー）をいただきました。今も大切に持っています。思えば私はこのマフラーが幸せを与えて下さっている様に今も。薄くなりましたが、50数年前を思い出します	
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	学生数が少ない時代の大学生活でしたので互いの人間関係がとても良かったと思います	

10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	私は卒業後、教師になりました。常に生徒と心と心、愛情を持って接した事は本学園の4年間の指導の現われであったかも知れません
11. 学生生活の思い出	寮生活でしたので何も知らない一年時は、生活面、行動面、授業等についても先輩のお姉様達がよく指導して下さいました。人生の中で全国から集まった学生寮はとても楽しい又経験の一つでした
12. 他の先生の思い出	私達一年時(31年)は授業がありませんでした
13. これからの大学・短大に期待すること	人を大切に、世界は広いと言う事です
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	胸を張って自分は東京家政大学卒業生と言える人間になってほしい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	マフラー、まだ使用しています

卒業年	昭和35年：大学(生活被服)卒
氏名	M. Mさん
3. 本学を選んだ理由	食物(栄養)学科があった他大学からの編入を受け入れてくれたから
4. 入学のときの希望や夢	食品関係の会社又は研究機関に就くか、高校家庭科教員をめざしていた。(その資格をとること)
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	全く知らなかったです。入ってから3年間の中で青木先生という人のことを学内の誰からも聞いたことなく残念でした
11. 学生生活の思い出	高校か短大みたいで、これが大学なのかと疑問に思っていました。友達で、卒論のために他大学に行くよう言われた人が、行って「恥ずかしかった」といって、いつもなげいていました
12. 他の先生の思い出	栄養科に門川先生という助手の方がいらっしゃって眼の悪い倉田先生のお世話をされ、研究の助手をされていて、その方とお話できたことしか覚えていません。今どうしていらっしゃるか、なつかしく思い出します
13. これからの大学・短大に期待すること	下記「別紙」参照

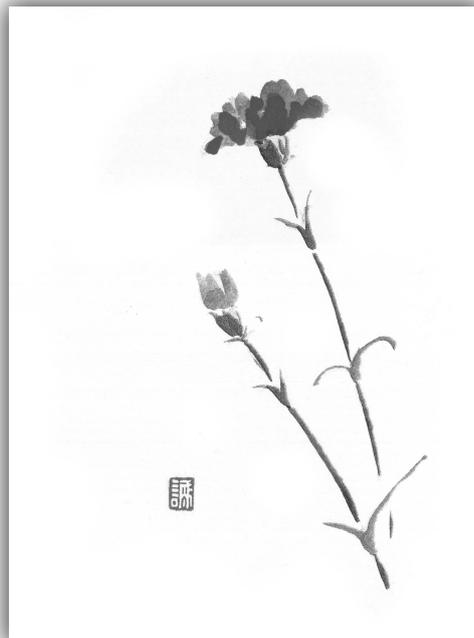
14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	少しは社会の動向（政治を含めて）に関心をもってほしい。そんなこと無関係という人が多かったです。特に女性がおかれている位置、置かれて来た位置を自覚し両性平等を追求してほしい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	両性平等が平和、反戦の原点だと思います
<p>別紙：</p> <p>私は卒業後の数年間は社会の事は何も考えないで、家政大でとれた免許（家庭・高校2級）で、ごく普通の家庭科教師を愛知と三重で過ごし、自分が結果として社会（教育環境）について無とん着であったことを反省するようになり、68年大阪に転じ、工業高校で家庭科がなかったので工業被服産業科に配属となった所で、家庭科が女子のみ必修で、その時間男子は体育となっていることを知りショックを受け、幸いここでは女子のみの家庭科をしなくてよいことが救いではあったが、家庭の女子のみ必修、男子は体育のカリキュラムを改めるべく運動をはじめ、半田たつ子さんを代表とする家庭科の男女共修をすすめる会全国組織に加わった。74年府立N高校新設と同時に転じ、校内でも運動し、教職員、教育委員会の意識変革はたいへんでしたが、75年国際婦人年の年に、全国でもN高校だけでしたが、家庭科は両性必修、体育も両性同単位に改め、両性必修の家庭科を始めました。全国の中では一部、必修でなく選択共修を部分的にする所はあったが、両性必修はありませんでした。9年間やって85年、府立A高校に強制配転されたので、女子のみの家庭科をすることになりました。校内でも両性同一カリキュラム化を働きかけながら授業は女子のみでしたが、内容は前任校と同じで進めました。その結果は自分でも予想外に好評でした。高校生の年代は頭もやわらかく正義感も強いので、ぐんぐん吸収し成長するものだと思います。</p> <p>今、『女性解放に向かって 驚き とまどい 反発から共感へ—家庭科で考え始めた生徒たち— 第二集』1991年3月大阪府立旭高等学校 38期全女子生徒 300人の声）を再度読み返し、これは家政大にはショックでしょうが、これから高校家庭の教員をめざす学生にぜひ読んでもらいたいと思うので、アンケートの回答につけて同封します。一部の抜粋でなく全員のものでありますから、分量が多く時間がかかりますが、読んでもらえるようにして下さい。家政大には家庭科の両性共修をすすめる会のことをよくご存知の樋口恵子さんが教授でいらっしゃることを知りました。校外の教育関係、教育に関心をもつ方々に紹介し、300人位の方が有料で購入し、読んで下さり感動のご感想をいただいています。</p> <p>アンケートの線とはなれていると思いますが、私にとって家政大学は反面教師の役割をしてくれたのだと思い、感謝しています。こんな卒業生もいたのだと知って下さい。（最後に、定年後発症した病気のため読みづらい文章になったことの謝辞あり）</p>	

卒業年	昭和35年：大学（生活被服）卒
氏名	M. Mさん
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	進学すること
3. 本学を選んだ理由	伯父が家政大の前身をよく知っていたので家族を説得してくれた
4. 入学のときの希望や夢	好きな被服全般について学ぶことができること
5. 入学式の青木学長訓示の内容	ただ技術を身につけることだけでなく、人間としていかに過ごすか、人との関係の大切さ、だったように思います
6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	1年に入学して、秋までの短い間だったので数回お聞きしましたが、私の生き方の指針となることが多く、田舎出の何もわからない者にとってはとても新鮮なお話が多かったように思います。卒業後、両親の反対を押し切って教師になり、38年間自分なりに満足できた人生だったと思います。これも先生のお話の中で得た人生の歩む道だったと思っています
8. その他の行事に関する思い出	卒業して50年。介護に追われ余り思い出せなくて申しわけございません。家政大のご発展をお祈りいたします
11. 学生生活の思い出	先生のお亡くなりになった後は、寮で一年生の私達には知らないことを先輩の方々からお聞きし、皆んなで涙を流しました

卒業年	昭和35年：大学（生活児童）卒
氏名	Y. Sさん (カード1枚寄贈)
2. 当時の社会状況から、大学・短大への入学、特に上京しての入学でたいへんだったこと	当時は新幹線も無く、お休みの行き帰りは大変でした
3. 本学を選んだ理由	自立した女性として社会に役立てる仕事に就きたいと思っていました。姉が文理大（現・つくば大）卒でしたので、青木先生がいらっしゃる大学ならとすすめてくれました。それで児童科を選んだのでした
5. 入学式の青木学長訓示の内容	生活信条の「愛情、勤勉、聡明」の事だったと記憶しています

6. 一番印象に残っている感銘を受けた水曜講演	昭和31年4、5月。入学して早い時期でしたから鮮明な記憶はありませんが、他者への礼儀、尊敬の念、愛情こそ大切……。聡明さなど。断片的にしか……。思い出せないことです
7. 水曜講演の青木先生 の声音、口調、表情、態度等	太いお声ではなかったと思います。少しお太り気味。暖かい和やかな細い目、信頼し、尊敬出来る先生。早く、お講義が聞きたいと思ったところでした……
8. その他の行事に関する思い出	<p>① 母へ感謝の手紙を出す様にと話されたと思います。母の日のカードのカーネーションは母へ一度送りましたが、先生が亡くなられたので返してもらい、写真立てに入れて長い間机に置いておりました（コピーを同封いたします）</p> <p>② 入学して半年でお別れでしたので、残念なことに多くの思い出が無いのですが、山下俊郎先生とのクリスマス会、又卒業の時、先生のお宅へクラス全員（12名でした）が（小金井）お招き頂きましたのしい一日を過ごした事でした。山下先生、森重敏先生も暖かい（オーラ）お人柄を持って接して下さいました</p>
9. 先生の愛情溢れる学園づくりをどういう点で感じ取りましたか	みどりの木々に囲まれた静かな学舎が好きでした。一年間の寮生活は地方からの方々のお国柄を知る事が出来たのしかったと思います。のんびりムードも思索するには向いていたのではと思います
10. 先生の「愛情」の教えがどのように人生で生かされましたか	卒業後、相談所（東京都が始めて開設された）の相談員として昭和35～43まで勤務（非常勤。M市に分室が出来）したのですが、問題の子とその母親達とのカウンセリング、プレイセラピーと、精神的には疲れる仕事でしたが、その後の私の生活には、とてもプラスとなって居ります。暖かい奉仕の心など……。学生生活から学んだ事を生かしたのだと思います
11. 学生生活の思い出	12名のクラスでしたから、いつも行動を共にし、休講になると映画や美術鑑賞など、旅行も一緒でした。緑窓会館での1週間の生活実習もとても良かったと思います。新入生歓迎で品川プリンスホテルで石井好子さんのシャンソンを聞き、ファンになり、銀巴里などへ出かけました
12. 他の先生の思い出	卒論は森重敏先生で、お宅へ寄せて頂き御家族と親しくさせていただきました。（児童文化の）講師の周郷博先生（お茶大）とは池袋の茶店でよく、お話し合いをしましたね
13. これからの大学・短大に期待すること	短大には、男子学生も入学出来ると良いのではないのでしょうか。保父・看護師の養成として。男女共働と云われる昨今

14. 大学・短大の学生達に最も伝えたいこと、最も望むこと	青木学長の『若い女性』の内容そのもの、現在も大切な信条だと思います。成熟した女性、自己確立、他者を思いやる心など。老婆心から、「温故知新」と云われる様に、日本の良き伝え、生き方を参考にしてほしい
15. 先生にお会いできるとしたらお伝えしたいこと	先生からのカーネーションカードから、しみじみと先生の暖かさが今も伝わって来る思いです。先生の全人格をもっと知るチャンスが欲しかったと思います
<p>別紙：</p> <p>学園とお別れして早や半世紀が過ぎアンケートを頂きながらお返事が遅れました事、お許し下さいませ。なにしろ古希を過ぎそろそろ人生の最終章を身の整理をと思う日々でしたので。記憶もうすらぎ懸命にタイムスリップしてみました。同封コピーの先生のカーネーションを、大切な宝物にしていた事に思いあたり、出してみましたらしみじみと暖かな先生の心を感じ学園を想いおこした次第です。</p> <p>熱心な先生方に御指導頂いた事に感謝して居ります。青木先生の元にお集まりになった先生方だったのですね。余分な事ですが「児童文化」と云う講義の担当の「周郷 博」先生の著書を今も読み返して居ります。「母ありてこそー最初の人間形成」国土新書 1963年発行と古いのですが、子供をお勉強される為学生さん達の参考になると思います。毎日の様に、子を虐待する記事「愛された記憶が愛するという資質を耕す。親から子への豊かな申し送りがゆらいでいる」と先日の天声人語にも出ていました。どうか、青木先生の信条に近づき聡明な女子学生達が育って行ってほしいと願います。今後の学園の御発展を心より念じ上げます。</p>	



～ 母の日のカーネーションカード ～

～上記カード、昭和35年大学卒（生活児童）Y. S様提供